



# **Deep Freeze**

**ADVANCED System Integrity** 











最終更新日:2025

©1999 – 2025 Faronics Corporation. All rights reserved. Faronics、Deep Freeze Cloud、Faronics Core Console、Faronics Anti-Executable、Faronics Anti-Virus、Faronics Device Filter、Faronics Data Igloo、Faronics Power Save、Faronics Insight、Faronics System Profiler、WINSelect は、Faronics Corporation の商標および / または登録商標です。その他すべての会社名および製品名はそれぞれの所有者の商標です。

特許保護対象: US 7,539,828 | US 7,917,717 | US 9,152,824 | US 9,785,370



# 目次

序文	9
重要な情報	10
Faronics について	10
製品マニュアル	10
テクニカル サポート	11
お問い合わせ	11
はじめに	
Deep Freeze 概要	14
システム要件	
Deep Freeze Enterprise ファイル	16
Deep Freeze のインストール	
インストール概要	
Deep Freeze アドミニストレータおよび Enterprise コンソールのインストール	
カスタマイズ コード	
カスタマイズ コードの再初期化	
更新モード	
一時パスワード	23
Deep Freeze Enterpriseアドミニストレータの使用	25
Deep Freeze Enterpriseアドミニストレータの使用           アドミニストレータへのアクセス	
Deep Freeze Enterpriseアドミニストレータの使用         アドミニストレータへのアクセス       ツールバーとメニュー	26
アドミニストレータへのアクセス	26
アドミニストレータへのアクセス ツールバーとメニュー	26 26 28
アドミニストレータへのアクセス ツールバーとメニュー パスワードタブ	26 26 28
アドミニストレータへのアクセスツールバーとメニューパスワードタブドライブタブ	26 28 29
アドミニストレータへのアクセス	26 26 29 29
アドミニストレータへのアクセス ツールバーとメニュー パスワードタブ ドライブタブ Frozenドライブ ThawSpace	26 26 29 29 30
アドミニストレータへのアクセス ツールバーとメニュー パスワードタブ ドライブタブ Frozenドライブ ThawSpace 既存の ThawSpace	26 28 29 30 32
アドミニストレータへのアクセス ツールバーとメニュー パスワードタブ ドライブタブ Frozenドライブ ThawSpace 既存の ThawSpace 外部ハードドライブは常にThawed	26 26 29 30 32 33
アドミニストレータへのアクセス ツールバーとメニュー パスワードタブ ドライブタブ Frozenドライブ ThawSpace 既存の ThawSpace 外部ハードドライブは常にThawed	26 28 29 30 32 34 35
アドミニストレータへのアクセス ツールバーとメニュー パスワードタブ ドライブタブ Frozenドライブ ThawSpace 既存の ThawSpace 既存の ThawSpace 外部ハードドライブは常にThawed クライアントタスクタブ Windows Update.	
アドミニストレータへのアクセス ツールバーとメニュー パスワードタブ ドライブタブ Frozenドライブ ThawSpace 既存の ThawSpace サ部ハードドライブは常にThawed クライアントタスクタブ Windows Update. 再起動	26 26 28 30 32 34 35 39
アドミニストレータへのアクセス ツールバーとメニュー パスワードタブ ドライブタブ Frozenドライブ ThawSpace 既存の ThawSpace 外部ハードドライブは常にThawed クライアントタスクタブ Windows Update. 再起動 シャットダウン	26 26 29 30 32 34 35 35
アドミニストレータへのアクセス ツールバーとメニュー パスワードタブ ドライブタブ Frozenドライブ ThawSpace 既存の ThawSpace 外部ハードドライブは常にThawed クライアントタスクタブ Windows Update. 再起動 シャットダウン アイドル時間	26 26 28 29 30 32 34 35 36 42 42
アドミニストレータへのアクセス. ッールバーとメニュー. パスワードタブ. ドライブタブ. Frozenドライブ. ThawSpace. 既存の ThawSpace. 外部ハードドライブは常にThawed. クライアントタスクタブ. Windows Update. 再起動 シャットダウン アイドル時間. バッチファイル.	26 26 28 30 32 35 35 36 40 42 43
アドミニストレータへのアクセス ツールバーとメニュー パスワードタブ ドライブタブ Frozenドライブ ThawSpace 既存の ThawSpace 外部ハードドライブは常にThawed クライアントタスクタブ Windows Update. 再起動 シャットダウン アイドル時間 バッチファイル Thawed Period	26 26 28 39 32 34 35 34 46 42 43
アドミニストレータへのアクセス ツールバーとメニュー・ パスワードタブ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26 26 28 39 32 34 35 34 46 42 43



アドバンストオフション	54
ステルスモード	57
ライセンス	57
クライアント用インストールプログラムおよびクライアント用Seedの作成	58
Deep Freeze Enterprise コンソールの使用	61
Deep Freezeの設定	62
Deep Freeze の設定の適用	62
Deep Freeze の設定の編集	63
Deep Freeze の設定の削除	63
Deep Freeze の設定のエクスポート	63
設定生成機能	64
コマンドラインからの設定生成機能の使用	
設定ファイルのパラメータ	
Deep Freeze Enterprise コンソール	
Enterprise コンソールの起動	
Enterprise コンソールの有効化	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
カラムの表示	
ステータスに基づく選択	
コンソールとクライアントの間の交信管理	
ローカル サービスの構成	
ローカル サービス接続の編集または削除	
プロキシサーバー接続の設定	
リモート コンソール	
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
リモート コンソールへの接続	
コンソールによる Deep Freeze の管理	
割り当てられた回数で非保護状態で再起動/非保護ロック状態で再起動	
ログインユーザー	
コンピュータへのメッセージ送信	
Deep Freeze設定ファイルの更新	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
転送と起動	85
ThawSpace のフォーマット	86
ThawSpace の削除	86
· コンソール ログ ファイルの表示	8
Deep Freeze のターゲット インストール	
Deep Freeze ソフトウェアの更新	88
Thawed アラート	
ライセンス	
チ動によるアクティベート	
ライセンスアイコン	
レポート	



グリッドのカスタマイズ	
タグ	
タグの作成/割り当て	95
タグの削除/割り当て解除	95
タグの削除	96
注意事項	97
メモを追加	97
Deep Freeze タスクのスケジュール設定	98
スケジュール済みタスクの編集	102
スケジュール タスクにクライアントを割り当てる	103
タスクの追加	103
タスクの編集	103
タスクの一時停止	103
タスクの再開	103
タスクの削除	104
タスクをただちに実行する	104
スケジュールされたタスクのプロパティ	104
ネットワークとグループの管理	105
グループの追加	105
ユーザ定義グループ構造の作成	108
アクティブ ディレクトリからグループをインポート	108
履歴	109
グループへクライアントの追加	110
カスタム アクションの設定	111
RDC 管理	111
リモート実行	112
MSI ファイルの転送とインストール	113
転送と起動	114
遠隔起動	115
カスタム アクションの削除、インポート、エクスポート	116
Console Customizer	117
Deep Freeze Enterprise コンソールのシャットダウン	118
クライアントへの Deep Freeze のインストール	119
クライアント コンピュータでのインストールおよびアンインストール	119
コンソールからクライアントの Deep Freeze のアンインストール	121
サイレント インストールおよびサイレント アンインストール	122
コマンド ラインの例	
ショートカットを使ったサイレント インストールおよびアンインストール	123
複数のクライアントへのネットワーク インストール	123
既存の Deep Freeze バージョンへの上書き	124
イメージングを使ったインストール	124
ターゲット インストール	125
アップデートをチェックする	126
Deep Freeze クライアントの管理	127
ログイン画面	128



タッチスクリーンデバイスでのDeep Freezeの起動	128
ブートコントロール タブ	129
次回起動時のステイタス	129
クローン	129
ライセンス	130
パスワード タブ	132
ネットワーク タブ	133
非保護スペース タブ	
ソフトウェアのインストール、変更、または削除	
Anti-Virusの管理	137
Anti-Virus概要	
Anti-Virus レポート	
新しいAnti-Virusへの移行	
Enterprise Consoleを使ったAnti-Virusの有効化	
ワークステーションへのAnti-Virusクライアントのインストール	
Anti-Virusの設定	
Anti-Virusの設定の作成	
Anti-Virusの設定の適用	
Anti-Virusの設定の編集	
Anti-Virusの設定の削除	
EnterpriseコンソールからのFaronics Anti-Virusの使用	
Anti-Virusコマンド	
Anti-Virusタスクのスケジュール設定	
ワークステーションでのAnti-Virusの使用	169
ワークステーションでのAnti-Virusの起動	169
ワークステーションのスキャン	
右クリックを使ったファイルまたはフォルダのスキャン	171
スキャン履歴の表示	171
検疫済みのファイルの表示と操作	172
ワークステーション上のAnti-Virus定義の更新	173
システムトレイを使ったワークステーション上のAnti-Virusの管理	174
Anti-Virusの更新の確認	176
Faronics Anti-Virusの更新	177
Anti-Virus 定義の更新	178
EnterpriseコンソールからのAnti-Virusクライアントのアンインストール	179
EnterpriseコンソールからのFaronics Anti-Virusの無効化	180
Deep Freeze コマンド ライン コントロール	181
Deep Freeze コマンド ライン コントロール (DFC.EXE)	
DFC 戻り値	
DFC スマンド ラインの構文	
Faronics Anti-Virusコマンドラインの構文	ΤΩρ
付録 A ポートとプロトコル	187



付録 B ネットワーク事例	
事例 1 – 単一サブネット	
事例 2 - 単一ローカル サービス上の複数サブネット	
事例3-複数のポート、コンソールへのリモートアクセス	
事例 4 - 複数サブネットの複数ローカル サービス	
付録 C リモート コンソール接続のトラブルシューティン:	グ195
コンソールにクライアントがない	
コンソールの起動時にポートが使用中のエラー	
付録 D カスタマイズされた Deep Freeze Enterprise コン	<b>ノソールの作成197</b>
付録 E Deep Freeze アクション ファイル – RDC 例	199
Deep Freeze アクション ファイル	
アクション ファイルの例	
Deep Freeze アクション ファイルの構造	
コンソールのパラメータ	





# 序文

本ユーザ ガイドは Deep Freeze Enterprise のインストール方法、設定方法、使用方法について説明します。

#### トピック

重要な情報

テクニカル サポート



# 重要な情報

この項にはお客様の Faronics 製品についての重要な情報が含まれています。

#### Faronics について

Faronics は、複雑な IT 環境の管理を容易にし、セキュリティを確保する、業界をリードするソリューションをお届けしています。Faronics の製品は、システムの可用性を 100 パーセント確保することで、多くの情報技術専門家の日常業務を劇的に改善しました。学校施設をはじめ、医療機関、図書館、政府組織、または法人企業でFaronics の顧客中心の取り組みによるパワフルなテクノロジー改革を有効に御使用頂いています。

#### 製品マニュアル

Deep Freeze Enterprise のマニュアルは、次のマニュアルで構成されています:

- Deep Freeze Enterprise ユーザ ガイド 現在ご覧になっているマニュアルで、製品の使用方法について説明します。
- Deep Freeze Enterprise リリースノート このドキュメントには新しい機能、既知の問題、解決された問題が記載されています。



### テクニカル サポート

当社では、使いやすく、問題のないソフトウェアを設計するためにあらゆる努力を重ねています。万が一、問題が発生した場合は、テクニカル サポートまでご連絡ください。

電子メール: support@faronics.com

電話番号:800-943-6422 または +1-604-637-3333

営業時間:午前7:00時から午後5:00時(太平洋標準時刻)

#### お問い合わせ

Web: www.faronics.com

• 電子メール: sales@faronics.com

• 電話番号: 800-943-6422 または +1-604-637-3333

ファックス:800-943-6488 または +1-604-637-8188

営業時間:午前7:00時から午後5:00時(太平洋標準時刻)

住所:

Faronics Technologies USA Inc.

5506 Sunol Blvd, Suite 202

Pleasanton, CA, 94566 USA

Faronics Corporation (Headquarters) 609 Granville Street, Suite 1400 Vancouver, BC V7Y 1G5

Canada

Faronics EMEA 8, The Courtyard, Eastern Road Bracknell, Berkshire RG12 2XB, United Kingdom

Faronics Pte Ltd 160 Robinson Road #05-05 SBF Center Singapore 068914





# はじめに



Deep Freeze は、設定によりハードドライブからブートすることになっているコンピュータを保護します。ハードドライブからのみブートするには、CMOS を設定します。CMOS はパスワード保護し、無許可で変更されないようにする必要があります。Deep Freeze は、コンピュータが保護状態にある場合に Master Boot Record (MBR) を保護します。

#### トピック

Deep Freeze 概要 システム要件 Deep Freeze Enterprise ファイル



# Deep Freeze 概要

Faronics Deep Freeze は、コンピュータの基本的な設定を保持することによってコンピュータの損傷やダウンタイムを防止します。Deep Freeze がコンピュータ上にインストールされた後は、コンピュータの設定へのいかなる変更も、それが偶然によるか悪意によるものかに関わりなく、そのセッションでのみ有効となります。Deep Freezeは、現在のコンピュータ環境で問題となる設定の一時的変更、偶然的なシステムの誤設定、不正なソフトウェアの使用、派生的なシステムの性能低下など多くの問題を一挙に解決します。

Faronics Anti-Virus は Deep Freeze Enterprise (Faronics Anti-Virus のために別個のライセンスが必要)を使って管理できるようになりました。Faronics Anti-Virus は、時間のかかる大量スキャンによりコンピュータの速度を低下させることなく、セキュリティ脅威に対する保護を提供します。次世代技術に基づいて構築された Faronics Anti-Virus により、1つのソフトウェアでウイルス、 $\mu$ -トキット、スパイウェアへの強力な保護機能を提供します。Deep Freeze とシームレスに連携しながら、今日の複雑なマルウェアの脅威からユーザーを保護します。

Deep Freeze と Faronics Anti-Virus の連携により、非常に簡単な方法で保護を最新状態に保ち、Deep Freeze Enterprise コンソールから展開と管理機能を提供します。シームレスな連携が可能な Faronics Anti-Virus はワークステーションが Frozen 状態のときでも更新され、最も包括的な保護システムを提供します。



#### システム要件

#### デスクトップエディション

Deep Freeze クライアントと Faronics Anti-Virus クライアント。

- Windows 7、8.1 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows 10 バージョン 22H2 まで (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows 11 バージョン 24H2 まで
- Windows Embedded 7 および 8

Deep Freeze Enterprise 設定アドミニストレータおよび Enterprise コンソールは次の環境に対応しています。

- Windows 7、8.1 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows 10 バージョン 22H2 まで (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows 11 バージョン 24H2 まで
- Windows Server 2008 R2 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows Server 2012、2016、2019、2022、2025

#### サーバーエディション

Deep Freeze クライアント。

- Windows Server 2008 R2 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows Server 2012、2016、2019、2022、2025

Deep Freeze Enterprise 設定アドミニストレータおよび Enterprise コンソールは次の環境に対応しています。

- Windows 7、8.1 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows 10 バージョン 22H2 まで (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows 11 バージョン 24H2 まで
- Windows Server 2008 R2 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Windows Server 2012、2016、2019、2022、2025

Deep Freeze にはハードドライブの 10% の空き容量が必要です。



Deep Freeze は、Windows のコア分離機能と互換性があります。 詳細は、https://www.faronics.com/core-isolation を参照してください。



# Deep Freeze Enterprise ファイル

Deep Freeze は、色付きのアイコンを使って、プログラムをわかりやすく説明しています。赤色のアイコンは通常、管理者のコンピュータにのみインストールされます。

#### アイコン 定義



Deep Freeze Enterprise アドミニストレータおよび Enterprise コンソールのインストール ファイル。



Configuration アドミニストレーション アプリケーションは、事前 にカスタマイズしたクライアント用インストール プログラム ファ イルとクライアント用シードの作成に使用します。



コンソールのアプリケーションは、Deep Freeze を集中管理で配置、モニター、管理、保守し、クライアントのインストールを迅速に簡単にします。



カスタム設定されたクライアント用 Deep Freeze インストールファイルは、アドミニストレータで作成され、そのエンタープライズ内のクライアント コンピュータに配置されます。このファイルはクライアント用シードに含まれています。クライアント用 Deep Freeze インストール ファイルをインストールすると、クライアント用シードは別途インストールする必要がありません。



クライアント用シードにより、Enterprise コンソールとネットワーク上のコンピュータがシームレスに通信できます。クライアント用シードがコンピュータにインストールされると、Enterprise コンソールにそのコンピュータが表示されます。コンピュータが表示されたら、再起動、シャットダウン、Wake-on-LAN などの操作を遠隔地のコンピュータから行えます。表示されるコンピュータにDeep Freeze を遠隔地からインストールして、遠隔地のコンピュータで Deep Freeze に関する操作を行うこともできます。



# Deep Freeze のインストール

この章では Deep Freeze のインストール プロセスについて説明します。

#### トピック

インストール概要 カスタマイズ コード 一時パスワード



### インストール概要

### Deep Freeze アドミニストレータおよび Enterprise コンソールのインストール

アドミニストレータは、Deep Freeze の管理用コンピュータにのみインストールされ るよう設計されています。アドミニストレータは、カスタマイズされた Deep Freeze インストール ファイルとクライアント用シードの作成に使用します。Deep Freeze Enterprise コンソールは、Deep Freeze アドミニストレータとともに自動的にインス トールされます。



お使いのバージョンが Deep Freeze 6.5 (またはそれ以降) である場合は、 Deep Freeze 8.1 (またはそれ以降) のインストール時に Enterprise Console と Configuration Administrator、Deep Freeze のインストール ファイル/設定ファイル (インストールプログラムフォルダ下にあります) の自動アップグレードオプションが提示されます。アップグレード中に Customization Code は必要ありません。

Configuration Administrator をインストールするには、次の手順を実行します。

1.DFEnt.exe ファイルをダブルクリックして、インストールプロセスを開始します。 次の画面が表示されます。





2. [次へ]をクリックします。ライセンス契約を読んで、同意します。[次へ]をクリックします。



3. [ ライセンスキー ] フィールドにライセンスキーを入力するか、[ 評価版を使用 ] チェックボックスを選択して、評価モードでインストールします。[ 次へ ] をクリックします。(Deep Freeze により自動的にワークステーションのライセンスがアクティベートされます。有効期限の終了を避けるために、30 日以内に Deep Freeze をアクティベートする必要があります。)





4. [ ライセンスキー] フィールドにライセンスキーを入力するか、[ 評価版を使用] チェックボックスを選択して、評価モードでインストールします。[ インストール] をクリックします。



5. カスタマイズ コード画面が表示されます。



6. カスタマイズコードを入力して、[次へ]をクリックします。カスタマイズコード は 8 文字以上にする必要があります。



# カスタマイズ コード

カスタマイズ コードはアドミニストレータ、コンソール、コンピュータ インストールファイル、一時パスワード生成システム、Deep Freeze コマンド ライン コントロールを暗号化する固有の識別 ID です。このコードはパスワードではなく、Deep Freeze のアクセスには使用できません。

カスタマイズ コードにより、無許可の管理者がコンピュータにアクセスしたり管理することを防ぎます。複数の管理者が同じグループのクライアントを管理する場合は、全員が同じカスタマイズ コードを使用しなくてはなりません。



カスタマイズ コードは必ず書き留めて大事に保管してください。カスタマイズ コードを紛失あるいは忘れた場合、Faronics はコードを回復できません。

#### カスタマイズ コードの再初期化

別の管理者が同じアドミニストレータで、別のカスタマイズコードを使用してインストールファイルを作成したい場合は、次の手順を実行します。

- 1. DFInit.exe を実行します。
- 2. これにより、アドミニストレータの既存のカスタマイズ コードがリセットされます。
- 3. 新規のカスタマイズ コードを入力します。
- 4. [OK]をクリックすると、新規カスタマイズ コードが有効になります。

#### 更新モード

アップデート モードは、特殊な アップデート コマンドを使用して、Deep Freeze Enterprise の既存ファイルの最新バージョンを自動的に作成するために使用します。このコマンドにより次の 2 つのタスクが完了します。

- Deep Freeze Enterprise コンソールおよび Deep Freeze アドミニストレータの旧バージョンの更新。([Faronics] > [Deep Freeze Enterprise] にあります。)
- [Faronics] > [Deep Freeze Enterprise] > [インストール プログラム] フォルダに保存された、ユーザが作成したファイルの更新。

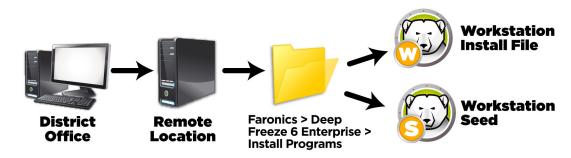
これらの更新の利点は、多数のファイルの設定データ (Deep Freeze Enterprise の旧バージョンで作成)を維持しながら、それらのファイルを最新バージョンに更新できることです。

コマンドは、次のサブディレクトリを含む、[Faronics] > [Deep Freeze Enterprise] > [インストール プログラム] ディレクトリにあるアドミニストレータ (.exe、.rdx) が作成したファイルを自動的に更新します。

- クライアント用インストール ファイル
- クライアント用シード ファイル



下の例では、複数のクライアント コンピュータを管理する管理者が、遠隔操作により、 クライアント用インストール ファイルおよびクライアント用シードを、Deep Freeze アドミニストレータの最新バージョンに更新します。



更新用のコマンドにはパスワードは必要ではありませんが、カスタマイズ コードの入 力が必要です。次のコマンドをご使用ください。

\PathToFile\DFEnt.exe /update="Customization Code" c:\dfupdate.log

- [PathToFile] の部分には、インストールファイル (DFEnt.exe) への実際のパスを入 力します。
- 「DFEnt.exe」の部分は、実際のインストール ファイルの名前にします ( ダウンロー ドされた場合は名前が異なる場合があります)。
- 「カスタマイズ コード」の部分は、スペースが含まれる場合、""で囲ってくださ い。
- ・ カスタマイズ コードは古いインストール ファイルのカスタマイズ コードが必要で

オプションにより、どのファイルが更新されているのかを明確に記録したログ ファイ ルが選択可能です。

アップデートには、数分かかることがあります。

アップデート モードでは、クライアント コンピュータの既存インストール ファイルは 更新されません。クライアント コンピュータは、コンソールを使用してアップデート してください。



#### 一時パスワード

一時パスワード生成システムは、生成されたその日の深夜 12 時に無効になる Deep Freeze の一時パスワードを生成するために使用されます。

[一時パスワード] ダイアログ ボックスは次の方法でアクセスできます。

- Enterprise コンソールで [ツール] > [一時パスワード] を選択詳細は、Deep Freeze Enterprise コンソールの使用を参照してください。
- アドミニストレータで [ファイル] > [ー時パスワード] を選択詳細は、Deep Freeze Enterprise アドミニストレータの使用を参照してください。

一時パスワード (OTP) は、Deep Freeze のパスワードを忘れたり、パスワードを設定せずに構成をインストールした場合に使用する便利なパスワードです。また、設定したパスワードを知らせたくない外部の保守担当者に作業を依頼する際等に、一時パスワードを使うことで、本当のパスワードを渡さずに一時的にアクセスを許可することが可能です。

OTP を作成するには、次の手順を実行します。

- 1. [1回のみ有効なパスワード] または[複数使用に有効なパスワード] のいずれかを選択します。すべての一時パスワードはその種類に関係なく作成した日の深夜 12 時に有効期限が切れます。
- 2. OTP を要求しているクライアントの [OTP トークン] をトークンの欄に入力します。 クライアントの OTP トークンは、下記のようにログイン用ダイアログに記されてい ます。



3. [生成] をクリックします。



Deep Freeze コマンドライン インタフェースは一時パスワードの使用をサポートしていません。





# Deep Freeze Enterprise アドミニストレータ の使用

#### トピック

アドミニストレータへのアクセス パスワードタブ ドライブタブ クライアントタスクタブ Windows Update タブ バッチファイルタブ アドバンストオプションタブ クライアント用インストールプログラムおよびクライアント用 Seed の作成



# アドミニストレータへのアクセス

Deep Freeze アドミニストレータを開くには、[スタート]メニューから、次のパスを 選択します。

[スタート] > [すべてのプログラム] > [Faronics] > [Deep Freeze Enterprise] > [Deep Freeze アドミニストレータ]

アドミニストレータには、パスワード、Frozen ドライブ、クライアントタスク、 Windows Update、バッチファイル、アドバンストオプションなどを設定するためのさ まざまなタブがあります。一度設定を行うと、クライアント用インストールファイル が作成されます。このファイルは Deep Freeze で保護する必要のあるコンピュータに インストールできます。Deep Freeze Enterprise アドミニストレータは Deep Freeze Enterprise コンソールからもアクセスできます。

#### ツールバーとメニュー

#### ツールバー

ツールバーはアドミニストレータの画面の上部にあります。



アイコン	機能
新規	既存の設定がすべて無効になり、初期設定の状態でアドミニス トレータが開きます。
開く	保存された .rdx、クライアント用インストールファイル、またはクライアント用 Seed ファイルを開きます。
保存	.rdx、クライアント用インストールファイル、またはクライアント用 Seed ファイルを開きます。ファイル名とパスがアドミニストレータのステータスセクションの下部に表示されます。
名前を付けて保存	設定を .rdx ファイルとして保存します。
ヘルプ	Deep Freeze ヘルプファイルにアクセスできます。
作成	[クライアント用インストールファイルの作成]により、クライアントへのインストールのためにカスタムインストーラを作成できます。クライアントは Deep Freeze Enterprise コンソールから管理できるようになります。 [クライアント用 Seed ファイルの作成]により、Deep Freeze コンソールとネットワーク上のクライアントとの通信を可能にする Seed を作成できます。Seed をクライアントにインストールしたら、Deep Freeze クライアント用インストールファイルをリモートで展開できます。



#### ファイルメニュー

[ファイル]メニューには、ツールバーと同じオプションの他に、使用可能な言語から言語を選択できるオプションとパスワード保護のオプションがあります。



#### パスワード保護

パスワード保護は、管理者にさらにセキュリティを提供します。

アドミニストレータへのアクセスをパスワードで保護するには、次の手順を実行します。

- 1. [ファイル]メニューを開いて、[パスワード保護]を選択します。
- 2. 「パスワードで保護〕チェックボックスを選択します。
- 3. パスワードを入力して確認します。
- 4. パスワードを設定するには、[OK] をクリックし、パスワードを設定せずにダイアログを終了するには、[ キャンセル ] をクリックします。



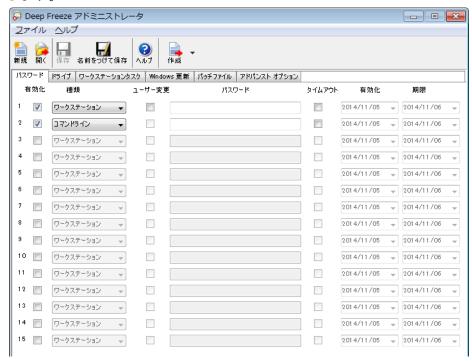


パスワードは安全な場所に保管しておきます。パスワードを紛失した場合、 復元できません。Deep Freeze を再インストールする必要があります。



# パスワードタブ

Deep Freeze Enterprise では、管理者は 15 個まで固定パスワードを選択することがで きます。



パスワードを設定するには、次の手順を実行します。

- 1. 適切な行の [有効化] をチェックします。
- 2. 「種類 ] ドロップダウンリストから、希望するパスワードの種類を選択します。次 のオプションがあります。
  - > クライアント:
  - > が開いているときに、クライアントで使用します。
  - > コマンドライン:コマンドライン管理で使用します。コマンドライン管理ツール (DFC.exe) は、少なくとも1つのコマンドラインパスワードが定義されていなけ れば機能しません。
- 3. オプション:パスワードの[ユーザー変更]チェックボックスを選択すると、ユー ザーがクライアントコンピュータでパスワードを変更できます。
- 4. パスワードを入力します。



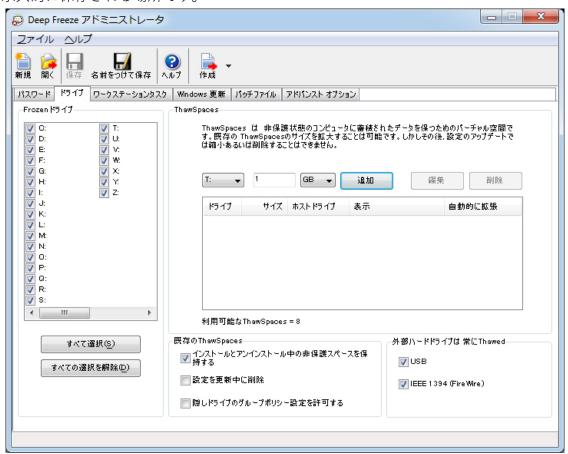
[パスワード]フィールドに入力したパスワードは表示されます。 コマンドラインと GUI に同じパスワードを使用しないでください。

5. 指定日に有効になったり、無効になったりするパスワードを設定するには、「タイ ムアウト〕チェックボックスを選択し、ドロップダウンのカレンダーを使用して、 有効日や期限を指定します。



#### ドライブタブ

[ドライブ] タブでは、Frozen にするドライブ (Deep Freeze により保護)、または Thawed にしておくドライブ (非保護)を選択します。また、ThawSpace を作成する こともできます。このスペースは、ローカルの Frozen または Thawed ドライブ上にホストされる仮想パーティションで、Deep Freeze が再起動してもデータが削除されず、永久的に保存される場所です。



#### Frozen ドライブ

初期設定では、すべてのドライブが Frozen モードになっています。ドライブを Thawed モードにするには、希望するドライブのチェックボックスを外します。

Frozen モードにできるのはローカルドライブ(パーティションまたは物理ドライブ)のみですが、さまざまなハードウェアやソフトウェアの設定に応じ多数のコンピュータ上に事前設定されたインストールファイルがインストールされている可能性があるため、すべてのドライブ文字が表示されています。

例

上記の画面では、[Frozen ドライブ]リストで D: が選択されていません。したがって、D: 以外のすべてのドライブが Frozen モードになっています。



#### **ThawSpace**

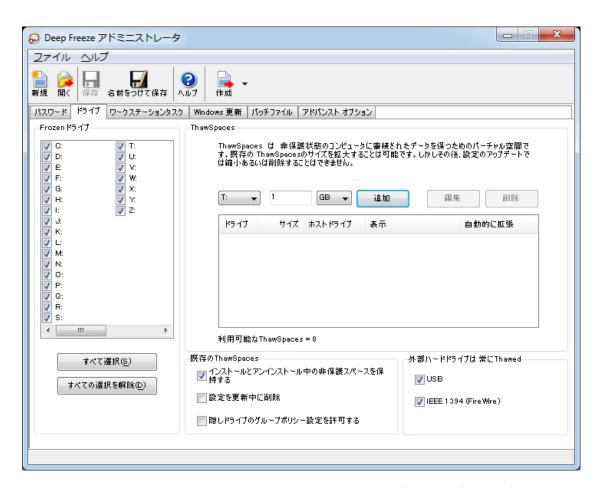
ThawSpace はプログラムの保管、ファイルの保存、恒久的な変更などに使われる仮想 パーティションです。ThawSpace に保存されたすべてのファイルは、コンピュータが Frozen モードであっても、再起動後にも維持されます。ThawSpace は、Frozen また は Thawed に設定されたドライブ上に作成できます。

非保護スペースは、自動的に拡大するオプションに設定し、容量不足を回避できます。 非保護スペースは、空き容量が25%以下に到達すると、自動的に現在のサイズの25% まで自動的に拡大します。拡大範囲は、非保護スペース設定で定義されている最大サ イズまでです。

非保護スペースは、非保護状態にある場合のみ拡大します。



空きスペースが 25% 以上になったり、非保護スペースドライブ文字ワーク ステーション設定がより小さいサイズに更新されても、一度拡大した非保 護スペースは縮小しません。



Configuration Administrator を使用して ThawSpace を 1 点または複数作成するには、 次の手順を実行します。

1. ドライブ文字を選択します。初期設定は T: ですが、他の文字に変更することもでき ます。選択したドライブ文字が、Deep Freeze のインストール時に既にある場合重 複する場合)、次に利用可能な文字が自動的に使用されます。



- > ドロップダウンから *ドライブ文字*を選択し、作成する ThawSpace に割り当てると、その文字はドロップダウンから削除されます。
- > ThawSpace を削除すると、そのドライブ文字はドロップダウンに戻されます。
- > *ドライブ文字にホストドライブ*と同じ文字を選択することはできません。
- 2. [追加]をクリックします。[ThawSpace の追加]ダイアログが表示されます。



- 3. auイズを入力します。これは ThawSpace のサイズです。最大サイズは 1024 GB、最小サイズは 16 MB です。
  - > クライアントコンピュータに ThawSpace に必要なサイズを確保できる十分な空 き容量がない場合は、ThawSpace のサイズを縮小し、コンピュータの操作が適 切に行えるサイズに調整してください。
  - > 16 MB よりも小さいサイズを選択しても、ThawSpace は 16 MB に設定されます。
  - > 1024 GB (1 TB) よりも大きいサイズを選択しても、ThawSpace は 1024 GB (1 TB) に設定されます。
- 4. ThawSpace のストレージ単位で MB または GB を選択します。
- 5. ホストドライブを選択します。
  - > ホストドライブは ThawSpace が作成されるドライブです。
  - > ThawSpace に必要なストレージは、ホストドライブで使用可能なストレージ合 計容量から使用されます。
- 6. 「表示 ] チェックボックスから [表示] または [非表示] を選択します。
  - > 「表示」を選択すると、ドライブは Windows Explorer に表示されます。
  - >[非表示]を選択すると、ドライブは Windows Explorer に表示されません。
  - > ただし、[スタート]>[ファイル名を指定して実行]でドライブ文字を入力する ことで非表示のドライブにアクセスできます。
- 7. [最大まで非保護スペースを拡大する] チェックボックスを選択し、非保護スペース の最大サイズを設定します。
- 8. [追加]をクリックして、ThawSpace を追加します。

#### ThawSpace の削除

ThawSpace を削除するには、ThawSpace を選択して [ 削除 ] をクリックします。 ThawSpace が削除され、ドライブ文字が [ ドライブ文字 ] ドロップダウンに戻されます。すべての ThawSpace を削除するには、 [ すべて削除 ] をクリックします。



Configuration Administrator で ThawSpace が削除されても、構成がワー クステーションに適用されるまでこの削除は有効になりません。



ThawSpace を削除する前に、プロファイルリダイレクトまたはシンボリッ クリンクを削除します。

ThawSpace を削除すると、そこに保存されていたデータも削除されます。 ThawSpace は Deep Freeze により保護されません。アンチウイルスや バックアップ手順など、標準のデータ保護オプションを使用してください。

例

上記の画面では、ホストドライブ C: に 16 MB の ThawSpace が作成されており、 ThawSpace がドライブ文字 T: で指定されています。ThawSpace T: は [ 表示 ] に設定 されているため、Windows Explorer からアクセスできます。



リムーバブルドライブを取り外した場合に、自動的にドライブ文字が再割り当てされるのを防ぐために、アルファベットの最後の方の文字 (X、Y、Z) をドライブ文字に割り当てることを推奨します。

#### 既存の ThawSpace

以前のインストール中に作成された Thawspace が削除されないよう、デフォルトで [ インストール / アンインストール中に ThawSpace を保持する]チェックボックスが選 択されています。このオプションが選択されているかどうかに関わらず、クライアン トコンピュータでのアンインストール時に、ThawSpace を保持するか削除するかを確 認するダイアログが表示されます。このオプションは、Enterprise コンソールからア ンインストールを行う場合は表示されません。

設定の適用中に、ワークステーション上に既存の ThawSpace をすべて削除して新たに 作成する場合は、[設定を更新中に削除]を選択します。設定が適用されると、既存の ThawSpace とそこに含まれるデータは削除され、新たな ThawSpace が設定に従って 作成されます。

[ 非表示ドライブのグループポリシー設定の履行 ] は、非表示ドライブのグループポリ シー設定が非表示ドライブの Deep Freeze 設定と競合しないようにするための機能で す。

非表示ドライブのグループポリシー設定は、各ユーザーに固有のものです。[ 非表示ド ライブのグループポリシー設定の履行 ] オプションが無効の場合、非表示ドライブの Deep Freeze 設定はグローバル設定となります。



非表示ドライブにグループポリシーがない場合は、このオプションを無効 化することが推奨されます。

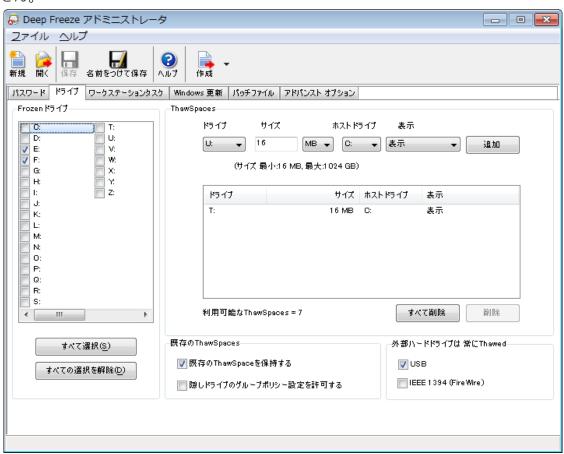


#### 外部ハードドライブは常に Thawed

[外部ハードドライブは常に Thawed] ペインには、[USB] および [IEEE 1394 (FireWire)] という 2 つのチェックボックスがあり、初期設定で両方とも選択されています。これにより、USB または IEEE 1394 (FireWire) ハードドライブは常に Thawed モードになっています。

USB や IEEE 1394 (FireWire) 外部ハードドライブのチェックボックスを外すと、ドライブは、[Frozen ドライブ] セクションで各ドライブがマウントされる文字に応じて、Frozen モードまたは Thawed モードになります。

ネットワークドライブおよびリムーバブルメディアドライブ (フロッピー、メモリーキー、CD-RW など) は Deep Freeze の影響を受けないため、Frozen モードにできません。



例

上記の画面では、[Frozen ドライブ]ペインでドライブ E: & F: が選択されています。 E: は USB ハードドライブ、<math>F: & IEEE 1394 (FireWire) ハードドライブとします。

[外部ハードドライブは常に Thawed] ペインで [USB] と [IEEE 1394 (FireWire)] の チェックボックスが選択されているため、外部ハードドライブは Thawed モードになります。

[USB] チェックボックスが選択され、[IEEE 1394 (FireWire)] チェックボックスは選択されていません。この例では、USB ドライブ (D:) は Thawed モードになり、IEEE 1394 (FireWire) ドライブ (F:) は Frozen モードになります。

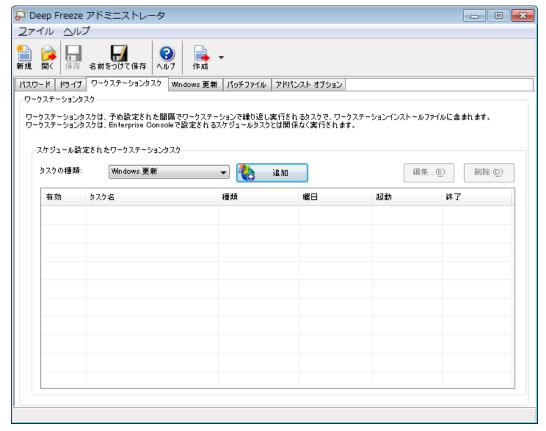


# クライアントタスクタブ

「クライアントタスク〕タブでは、クライアントコンピュータで実行するさまざまなタ スクをスケジュール設定できます。クライアントタスクは、クライアントに常駐して、 クライアントのネットワーク接続が切断されたり、Deep Freeze コンソールと通信で きなくても、実行されます。クライアントタスクは、クライアント用インストール ファイルまたは Deep Freeze 設定ファイル (.rdx) の一部です。次のクライアントタス クがあります。

- Windows Update Windows の更新プログラムをスケジュール設定します。 「Windows Update] タブで追加設定を行えます。
- 再起動 定期的にクライアントを再起動して、元の設定に戻すか、不必要なデータ を消去します。
- シャットダウン 毎日指定した時間にクライアントをシャットダウンして、電力を 節約します。
- アイドル時間 指定した期間クライアントが使用されていないと、シャットダウン または再起動します。
- バッチファイル ターゲットクライアントでバッチファイルを実行します。 | バッ チファイル〕タブで追加設定を行えます。
- Thawed Period 指定した時間に Thawed モードで再起動し、手動のソフトウェア インストール、サードパーティのツールを使った自動ソフトウェアインストール、 またはその他の永久的な設定変更を実行できます。

各タスクについては、次のセクションで詳述します。





**クライアントタスクとスケジュール設定されたタスク**: Enterprise コンソールとターゲットコンピュータとの通信に失敗しても、クライアントタスクはターゲットコンピュータに存在するため、実行されます。



Deep Freeze Enterprise コンソールのスケジュールタスクウィザードを使ってスケジュールされたタスクは、ターゲットコンピュータではなくコンソールに存在します。そのため、スケジュールされたタスクが実行されるには、コンソールとターゲットコンピュータの間で継続的な接続が必要となります。詳細は、[Deep Freeze タスクのスケジュール設定] のセクションを参照してください。



[クライアントタスク]タブを使って重複するタスクを作成することはできません。作成したばかりのタスクが既存のタスクと重複する場合は、メッセージが表示されます。



メッセージは最長で5分間表示できます。2つのタスクの間隔は最低でも5分間開けなくてはいけません。



クライアントタスクは、Deep Freeze が Frozen モードのときにのみ開始します。

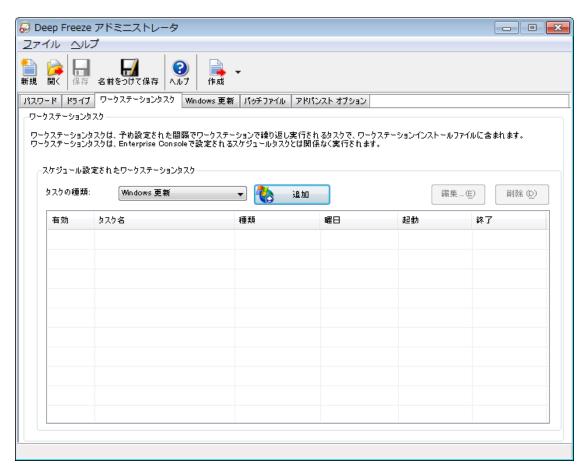
# **Windows Update**

Windows Update タスクは、クライアントで Windows の更新プログラムをダウンロードするためにスケジュール設定します。Windows の更新プログラムはクライアントが Frozen モードのときにもダウンロードできます。Windows Update タスクには開始時間と終了時間があります。Windows の更新プログラムをダウンロードしたら、Thawed モードでクライアントが再起動して、更新プログラムが適用されます。



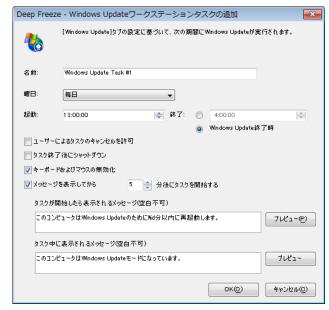
Windows Update は手動でも適用できます。その場合、ワークステーションを選択して、Deep Freeze Console のコンテキストメニューから [Windows Update の実行] を選択します。詳細は、[ コンソールによる Deep Freeze の管理] を参照してください。





Windows Update タスクをスケジュール設定するには、次の手順を実行します。

- 1. [タスクの種類] ドロップダウンから [Windows Update] を選択して、[追加]をク リックします。
- 2. 次のオプションが表示されます。





- > 名前-タスクの名前を指定します。
- > 曜日 タスクが実行される曜日を選択するか、または平日か週末を指定します。
- > 開始 開始時間を選択します。
- > 終了 終了時間を選択します。最短の間隔は 15 分です。または、[Windows Update 終了時]を選択することもできます。Windows Update タスクが 6 時間で終了しない場合は、Deep Freeze がタスクを終了します。

Windows Update 終了時に Windows Update タスクを終了するように設定され、スケジュールされたタスクの開始時刻にコンピュータの電源がオフになっている場合、スケジュールされた開始時刻後 15 分以内にコンピュータの電源がオンになると、Windows Update タスクが開始されます。



たとえば、コンピュータの電源がオフになっており、Windows Update タスクが 11:40~PM に開始されるように設定されている場合。コンピュータの電源が 11:40~PM から 11:55~PM の間にオンになると、Windows Update タスクがコンピュータ上で自動的に実行されます。

- > ユーザーによるタスクのキャンセルを許可 タスクの開始前にユーザーによるタスクのキャンセルを許可する場合は、このチェックボックスを選択します。
- > ローカルでのウェイクアップを試行する Enterprise Console からの通信を要求 することなく、ワークステーションのウェイクアップをローカルで行う場合は、 このチェックボックスを選択します。



ローカルでのワークステーションのウェイクアップは、お使いのワークステーションのハードウェア仕様に応じて異なります。このオプションは、お使いのハードウェアが対応している場合にのみご利用いただけます。

- > タスク終了後にシャットダウン タスクの終了後にコンピュータがシャットダウンされるようにするには、このチェックボックスを選択します。
- > キーボードおよびマウスの無効化 タスクの実行中にキーボードとマウスを無効にするには、このチェックボックスを選択します。
- > メッセージの表示 タスクの前と実行中に、コンピュータにメッセージが表示されるようにするには、このチェックボックスを選択します。タスクが実行されるどのくらい前にメッセージが表示されるようにするかを分で指定して、表示される簡単なメッセージを入力します。
- 3. [OK] をクリックします。これまでに設定されていない場合は、 $[Windows\ Update\ syz]$  が開いて、追加設定ができます。



[タスクの前に表示されるメッセージ]フィールドに[このコンピュータは Windows Update のために %d 以内に再起動します。]というメッセージが表示されます。このメッセージは変更できます。メッセージの [%d] の後に [分]という語を追加することができます。



Windows Update タスクをスケジュール設定する際に、[Windows Update 終了時] オプションを選択するか、必要なすべての更新アクティビティが実行されるために十分な時間を確保するようにしてください。重要な更新およびセキュリティの更新がリリースされたら、マイクロソフトセキュリティ情報サイト (http://technet.microsoft.com/en-us/security/bulletin)を確認して、適切な時間を検討してください。



WSUS を使用していない場合、Deep Freeze の Windows Update プロセス が適用されるのは、ユーザーの操作を必要としない重要な更新とセキュリ ティ更新、Windows 10 以降の機能更新のみになります。WSUS を使用し ている場合、WSUSで承認されたすべての更新が適用されます。

WSUS を使用していない場合、Windows 10 以降の機能更新がリリースさ れると、Windows Update タスクによって常にインストールが試行されま す。このインストールを延期する場合は、Windows Update のシステム設 定で「詳細オプション〕を選択してインストール中に「選択〕をクリックす るか、ローカルコンピュータポリシーの「プレビュービルドと機能更新を 受信した際に選択]を有効にしてください([コンピュータの構成]>[管 理用テンプレート ] > [Windows コンポーネント ] > [Windows Update] > [Windows Update for Business] の順にアクセス)。

または、提供されるその他の更新を適用するには、Microsoft Update カタ ログサイト (http://catalog.update.microsoft.com) で、KB ダウンロードを 手に入れ、Deep Freeze バッチファイルクライアントタスクを使って適用 できます。バッチファイルタスクは他のサードパーティソフトウェアの更 新を適用するためにも使用できます。



Deep Freeze の [Windows Update] タブの設定は、クライアントの Windows Update 設定より優先されます。

例

上記の画面では、コンピュータで毎日 12:00 AM に Windows の更新プログラムが実施 され、Windows Update 終了時に終了するように、Windows Update タスクが作成さ れています。このタスクでは Windows Update が開始する前にユーザーにメッセージ を表示するように設定されています。キーボードとマウスは無効になっています。

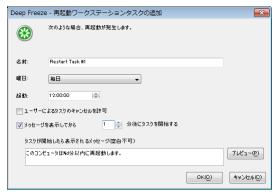


### 再起動

再起動タスクをスケジュール設定するには、次の手順を実行します。



- 1. [タスクの種類] ドロップダウンから [再起動] を選択して、[追加] をクリックします。
- 2. 次のオプションが表示されます。



- > 名前 タスクの名前を指定します。
- > 曜日 タスクが実行される曜日を選択するか、または平日か週末を指定します。
- > 開始 開始時間を選択します。
- > ユーザーによるタスクのキャンセルを許可 タスクの開始前にユーザーによるタスクのキャンセルを許可する場合は、このチェックボックスを選択します。
- > メッセージの表示 タスクが実行される前に、コンピュータにメッセージが表示されるようにするには、このチェックボックスを選択します。タスクが実行されるどのくらい前にメッセージが表示されるようにするかを分で指定して、表示される簡単なメッセージを入力します。



3. [OK] をクリックします。



[タスクの前に表示されるメッセージ]フィールドに[このコンピュータは%d 秒後に再起動します。]というメッセージが表示されます。このメッセージは変更できます。メッセージの[%d]の後に[分]という語を追加することができます。

例

上記の画面では、毎日 12:00 AM にコンピュータを再起動するように、クライアントタスクが作成されています。このタスクでは再起動イベントの 1 分前にユーザーにメッセージを表示するように設定されています。

### シャットダウン

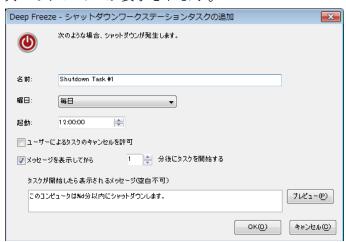
シャットダウンタスクをスケジュール設定するには、次の手順を実行します。



1. [タスクの種類] ドロップダウンから[シャットダウン] を選択して、[追加]をクリックします。



2. 次のオプションが表示されます。



- > 名前-タスクの名前を指定します。
- > 曜日 タスクが実行される曜日を選択するか、または平日か週末を指定します。
- > 開始 開始時間を選択します。
- > ユーザーによるタスクのキャンセルを許可 タスクの開始前にユーザーによるタスクのキャンセルを許可する場合は、このチェックボックスを選択します。
- > メッセージの表示 タスクが実行される前に、コンピュータにメッセージが表示されるようにするには、このチェックボックスを選択します。タスクが実行されるどのくらい前にメッセージが表示されるようにするかを分で指定して、表示される簡単なメッセージを入力します。
- 3. [OK] をクリックします。



[タスクの前に表示されるメッセージ]フィールドに[このコンピュータは%d 秒後にシャットダウンします。]というメッセージが表示されます。このメッセージは変更できます。メッセージの[%d]の後に[分]という語を追加することができます。

例

上記の画面では、毎日 12:00 AM にコンピュータをシャットダウンするように、クライアントタスクが作成されています。このタスクではシャットダウンイベントの 1 分前にユーザーにメッセージを表示するように設定されています。

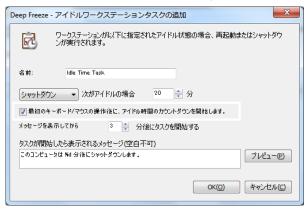


### アイドル時間

アイドル時間タスクをスケジュール設定するには、次の手順を実行します。



- 1. 「タスクの種類 ] ドロップダウンから [ アイドル時間 ] を選択して、「追加 ] をク リックします。
- 2. 次のオプションが表示されます。



- > 名前-タスクの名前を指定します。
- > 再起動またはシャットダウン 「再起動 ] または [ シャットダウン ] を選択し、 アイドル時間タスクが実行されるまでの時間を分で指定します。
- > キーボード/マウスの初回操作後はじめてアイドル時間のカウントダウンを開始 – これはシャットダウンタスクのみで使えるオプションです。キーボードまたは マウスの初回操作後はじめてカウントダウンを開始する場合に、このチェック ボックスを選択します。たとえば、アイドル時間が20分と指定されていてこの オプションが選択されている場合、キーボードまたはマウスの初回操作後 20 分 の時点でコンピュータがシャットダウンダウンします。



> メッセージの表示 - メッセージを表示するには、このチェックボックスを選択し ます。その間隔を分で指定し、簡単なメッセージを入力します。



コンピュータの起動後にキーボードまたはマウスを初めて使用すると、ア イドル時間カウンターが有効になります。リモートデスクトップセッショ ン中は、管理コンピュータのアイドル時間がタスクを実行するために使用 されます。

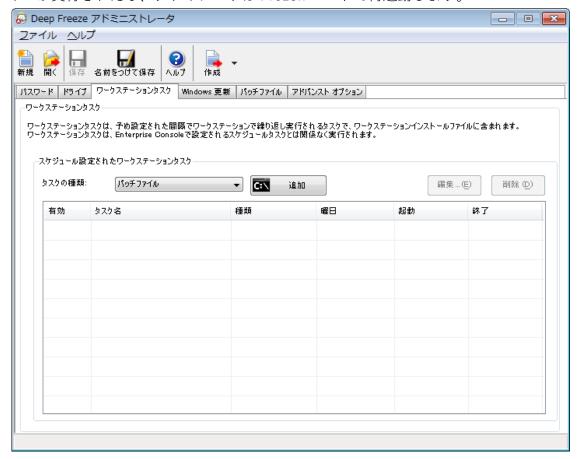
3. [OK] をクリックします。

例

上記の画面では、アイドル時間タスクは、コンピュータが1分間使用されないと再起動 するように設定されています。アイドル時間が1分経過すると、ユーザーにメッセージ が表示されます。表示されるメッセージダイアログでユーザーがタスクをキャンセルし ない限り、コンピュータは再起動します。

### バッチファイル

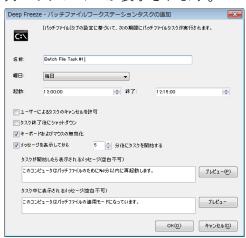
バッチファイルタスクをスケジュール設定して、クライアントでバッチファイルを実行 できます。バッチファイルタスクには開始時間と終了時間があります。この期間中に バッチファイルはクライアントで実行されます。バッチファイルタスクが機能するため には、[バッチファイル]タブで追加設定を行う必要があります。バッチファイルタス クが完了したら、クライアントをシャットダウンするように設定できます。バッチファ イルが実行されたら、クライアントは Frozen モードで再起動します。





バッチファイルタスクをスケジュール設定するには、次の手順を実行します。

- 1. [タスクの種類] ドロップダウンから [バッチファイル] を選択して、[追加]をクリックします。
- 2. 次のオプションが表示されます。



- > 名前-タスクの名前を指定します。
- > 曜日 タスクが実行される曜日を選択するか、または平日か週末を指定します。
- > 開始 開始時間を選択します。
- > 終了 終了時間を選択します。最短の間隔は15分です。
- > ユーザーによるタスクのキャンセルを許可-タスクの開始前にユーザーによるタスクのキャンセルを許可する場合は、このチェックボックスを選択します。
- > ローカルでのウェイクアップを試行する Enterprise Console からの通信を要求 することなく、ワークステーションのウェイクアップをローカルで行う場合は、 このチェックボックスを選択します。



ローカルでのワークステーションのウェイクアップは、お使いのワークステーションのハードウェア仕様に応じて異なります。このオプションは、お使いのハードウェアが対応している場合にのみご利用いただけます。

- > タスク終了後にシャットダウン タスクの終了後にコンピュータがシャットダウンされるようにするには、このチェックボックスを選択します。
- > キーボードおよびマウスの無効化 タスクの実行中にキーボードとマウスを無効 にするには、このチェックボックスを選択します。
- > メッセージの表示 タスクの前と実行中に、コンピュータにメッセージが表示されるようにするには、このチェックボックスを選択します。タスクが実行されるどのくらい前にメッセージが表示されるようにするかを分で指定して、表示される簡単なメッセージを入力します。
- 3. [OK] をクリックします。
- 4. 追加設定を行うには、バッチファイルタブに進みます。



[タスクの前に表示されるメッセージ]フィールドに[このコンピュータはバッチファイルのために%d以内に再起動します。]というメッセージが表示されます。このメッセージは変更できます。メッセージの[%d]の後に[分]という語を追加することができます。



例

上記の画面では、バッチファイルタスクは毎日 12:00 AM に開始して 12:15 AM に終了 するように設定されています。このタスクではバッチファイルが実行される前にユー ザーにメッセージを表示するように設定されています。キーボードとマウスは無効に なっています。

### **Thawed Period**

Thawed Period タスクをスケジュール設定して、クライアントを Thawed モードで再 起動することができます。Thawed Period は、定期的に自動で更新するアプリケーショ ンに便利です。Thawed Period は、管理者がメンテナンスをスケジュール設定したり、 コンピュータに永久的な変更を加えるためにも役立ちます。これには新しいソフトウェ アのインストール、ソフトウェアの更新、設定の変更、およびその他のメンテナンス機 能などがあります。Thawed Period には開始時間と終了時間があります。

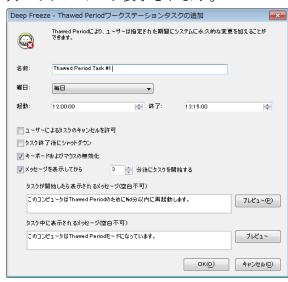


Thawed Period をスケジュール設定するには、次の手順を実行します。

1. 「タスクの種類]ドロップダウンから [Thawed Period] を選択して、[追加]をク リックします。



2. 次のオプションが表示されます。



- > 名前-タスクの名前を指定します。
- > 曜日 タスクが実行される曜日を選択するか、または平日か週末を指定します。
- > 開始 開始時間を選択します。
- > 終了 終了時間を選択します。最短の間隔は15分です。
- > ユーザーによるタスクのキャンセルを許可-タスクの開始前にユーザーによるタスクのキャンセルを許可する場合は、このチェックボックスを選択します。
- > *ローカルでのウェイクアップを試行する* Enterprise Console からの通信を要求 することなく、ワークステーションのウェイクアップをローカルで行う場合は、 このチェックボックスを選択します。



ローカルでのワークステーションのウェイクアップは、お使いのワークス テーションのハードウェア仕様に応じて異なります。このオプションは、 お使いのハードウェアが対応している場合にのみご利用いただけます。

- > タスク終了後にシャットダウン タスクの終了後にコンピュータがシャットダウンされるようにするには、このチェックボックスを選択します。
- > キーボードおよびマウスの無効化 タスクの実行中にキーボードとマウスを無効にするには、このチェックボックスを選択します。
- > メッセージの表示 タスクの前と実行中に、コンピュータにメッセージが表示されるようにするには、このチェックボックスを選択します。タスクが実行されるどのくらい前にメッセージが表示されるようにするかを分で指定して、表示される簡単なメッセージを入力します。
- 3. [OK] をクリックします。



[タスクの前に表示されるメッセージ] フィールドに [メンテナンスのため にこのコンピュータは %d に再起動します。] というメッセージが表示されます。このメッセージは変更できます。メッセージの [%d] の後に [分] という語を追加することができます。



例

システムを保護するためには、アンチウィルスプログラムのウィルス定義は定期的に更新する必要があります。ウィルス定義は Thawed Period 中に更新できます。

上記の画面では、Thawed Period タスクは毎日 12:00 AM から 12:15 AM までの期間として設定されています。ユーザーはタスクが開始する前にタスクをキャンセルできません。メンテナンス期間の後にコンピュータはシャットダウンします。メンテナンス期間中はキーボードとマウスは無効になっています。このタスクでは開始 5 分前にユーザーにメッセージを表示するように設定されています。[コンピュータは 5 分後に再起動して Thawed Period になります。] というメッセージがコンピュータに 11:55 AM に表示されます。

ウイルス定義が永久的に適用されるようにするには、Deep Freeze の Thawed Period タスクが正常に開始した後にウイルス定義の更新が始まり、Thawed Period タスクが終了する前に終わるように、アンチウイルスプログラムのウイルス定義の更新をスケジュール設定します。これにより、アンチウイルスプログラムによってダウンロードされ更新されるウイルス定義は、システムに永久的に適用されます。そのため、システムはアンチウイルスおよび Deep Freeze により完全に保護されます。

**Faronics Anti-Virus:**Faronics Anti-Virus は Deep Freeze と連携し、ウイルス定義の更新のために Thawed Period タスクを必要としません。 Faronics Anti-Virus は、Deep Freeze によって管理されるコンピュータが Frozen モードのときにもウイルス定義を更新できます。



その他のアンチウイルスプログラム: その他のアンチウイルスプログラムは、Thawed Period タスクをスケジュール設定して、ウイルス定義を更新する必要があります。ウイルス定義のダウンロード方法については、お使いのアンチウイルスプログラムのユーザーガイドを参照してください。また、Deep Freeze によって管理されているコンピュータが Thawed モードのときに、手動でウイルス定義を適用できます。バッチファイルタスクを使って、ユーザー操作を必要としないウイルス定義のインストールをスケジュール設定することもできます。

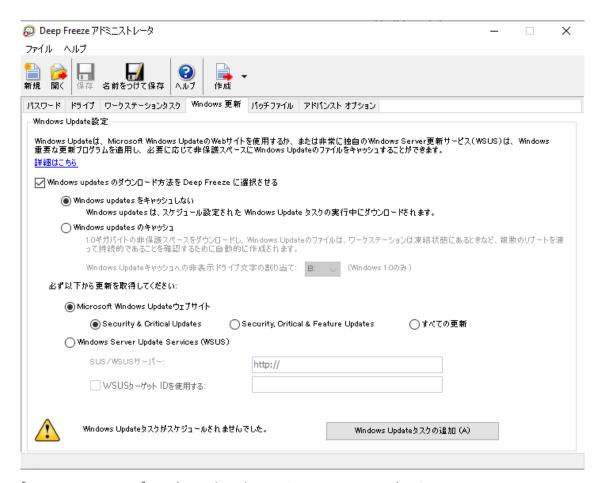


# Windows Update タブ

[Windows Update] タブにより、Windows Update をカスタム設定することができま す。Windows Update タスクを初めて作成すると、[Windows Update] タブで初期設定 を変更するオプションがあります。初期設定の変更は必須ではありません。Windows Update は初期設定でも動作します。[Windows Update] タブの設定はすべての Windows Update タスクに適用されます。



Deep Freeze の [Windows Update] タブの設定は、クライアントの Windows Update 設定より優先されます。



[Windows Update] タブの設定は次のようにカスタマイズできます。

Windows updates のダウンロード方法を Deep Freeze に選択させる :? Windows の更 新プログラムのダウンロード方法を Deep Freeze に選択させるには、このチェック ボックスを選択します。次のオプションがあります。

• Windows Update ダウンロードオプションの選択:



- > Do not cache Windows updates (Windows の更新プログラムをキャッシュしない) Windows Update タスク中にのみ Windows 更新プログラムをダウンロードするには、このオプションを選択します。
- > Cache Windows updates (Windows の更新プログラムをキャッシュする) コンピュータが Frozen または Thawed モードのときにダウンロードして、Windows Update タスク中にインストールするには、このオプションを選択します。このオプションでは 10~GB の ThawSpace が作成され、Windows の更新プログラムは ThawSpace に保存されるため、再起動が繰り返されても、Windows の更新プログラムファイルは維持されます。

Windows 10 以降の場合: Windows Update のキャッシュが選択されているときは、ドライブ文字ドロップダウンリストが有効になっています。このドロップダウンリストから、Windows Update のキャッシュ保存先フォルダに使用する非表示ドライブ文字を選択してください。ここで指定した非表示ドライブ文字は、Windows Explorer では表示されません。



非表示ドライブ文字はワークステーションには表示されません。 Windows 10 以降でのみ利用可能です。

- 必ず以下から更新を取得する:
  - > Microsoft Windows Update ウェブサイト Microsoft Windows Update ウェブサイトから直接更新プログラムをダウンロードするには、このオプションを選択します。

[セキュリティ更新と重要な更新 (Security and Critical updates)]、または [セキュリティ更新、重要な更新、機能の更新 (Security, Critical, and Features updates)]、[すべての更新] のダウンロードを選択できます。

- ~ セキュリティ更新と重要な更新 重要な更新とセキュリティ更新をダウンロードするには、このオプションを選択します。
- ~ セキュリティ更新、重要な更新、機能の更新 重要な更新、セキュリティ更 新、機能の更新をダウンロードするには、このオプションを選択します。
- ~ すべての更新 すべての更新をダウンロードするにはこのオプションを選択します。
- > Windows Server Update Services (WSUS) WSUS サーバーからダウンロードするには、このオプションを選択します。[SUS/WSUS サーバー]を指定します。オプションで、[WSUS ターゲットの使用]を選択して、ターゲットを指定します。Microsoft SUS クライアントおよび SUS/WSUS サーバーは、http://www.microsoft.com/wsus からダウンロードできます。



各クライアント用にログファイルが作成され、クライアント上にローカ ルで保存されます。

Deep Freeze Windows Update ログファイルの初期設定の名前は DFWuLogfile.log で、次の場所に作成されます。

C:\Program Files\Faronics\Deep Freeze\Install C-[X]\DFWuLogfile.log (32-bit systems) and C:\Program Files (x86)\Faronics\Deep Freeze\Install C-[X]\DFWuLogfile.log (64-bit systems).

- このログファイルの名前や場所は変更できません。
- Deep Freeze ログファイルと Windows Update ログファイル (c:\windows\windowsupdate.log) は、Windows の更新プログラ ムをトラブルシューティングする際に非常に便利です。
- X は、クライアントに Deep Freeze をインストールした回数に応じて 増えていく値です。

DFWuLogfile.logのトラブルシューティングに関するご質問は、 Faronics サポート (http://support.faronics.com) までお問い合わせくだ さい。

Windows Update のエラーのトラブルシューティングに関しては、マイ クロソフトのサポートまでお問い合わせください (http://support.microsoft.com/kb/906602 を参照)。

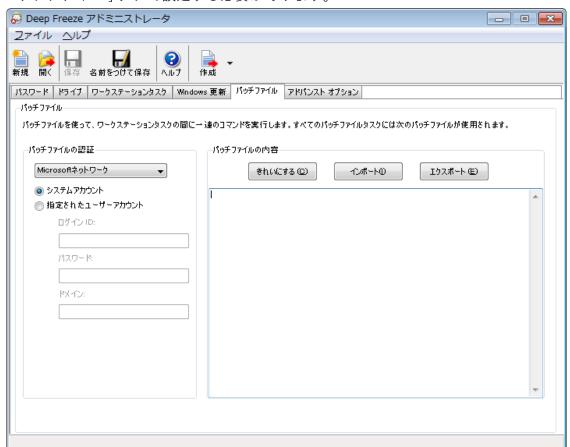
また、http://support.microsoft.com/kb/902093/ に掲載される Microsoft KB 902093 How to read the Windows Update log file (Windows Update ログファイルの解釈) や http://support.microsoft.com を参照してください。





# バッチファイルタブ

[バッチファイル]タブでは、バッチファイルタスクの設定をカスタマイズできます。[クライアントタスク]タブからバッチファイルタスクをスケジュール設定したら、[バッチファイル]タブで設定する必要があります。



次のオプションを設定します。

• バッチファイルの認証

[Microsoft Network] を選択し、使用するアカウントがシステムアカウントか特定ユーザーアカウントかを選択します。[特定ユーザーアカウント]を選択した場合、ログイン ID、パスワード、およびドメインを指定します。Novell Network の場合は、[Novell] を選択し、ログイン ID、パスワード、ツリー、コンテキスト、サーバーを指定します。



Microsoft Network/システムアカウント認証を使ったデフォルト設定は、別の証明書を使用する前にテストする必要があります。このコンピュータレベルのアカウントの使用は、タスクを完了するには十分です。バッチファイルにセキュアなリソースへのネットワークアクセスが必要な場合は、特定ユーザーアカウントの使用が必要な場合があります。



#### • バッチファイルの内容

バッチファイルタスク中に実行するカスタムのバッチファイルを入力します。同じ バッチファイルがすべてのバッチファイルタスクに適用されます。カスタムバッチ ファイルの実行時に次のオプションが使用可能です。

- > 現在のバッチファイルを消去するには、[Clear (消去)]をクリックします。
- > 既存のファイルをロードするには、「インポート〕をクリックして、ファイルの 場所を参照します。
- > フィールドの内容を保存するには、[エクスポート]をクリックして、希望する 保存場所を参照します。

バッチファイルとは、コマンドプロセッサが実行できるコマンドまたは一連のコマ ンドです。スクリプトがコマンドラインから実行されているかのように、バッチ ファイルから呼び出すことにより、サードパーティのスクリプトエンジンの使用を 要求するカスタムスクリプトを実行することができます。

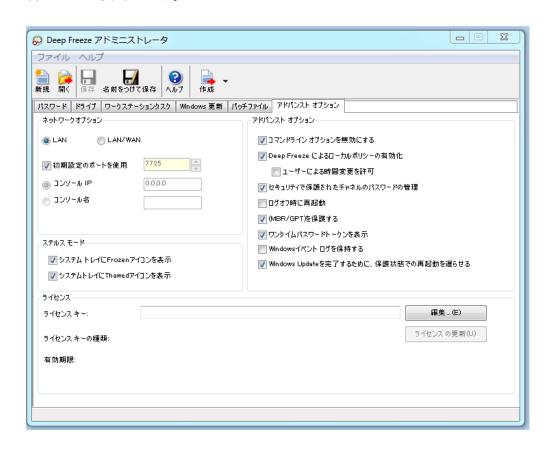


バッチファイルでは、VB スクリプト、PowerShell スクリプト、Ninite、 およびその他のサードパーティソリューションを使用できます。ユーザー の操作を必要としないオプションを含む、スクリプトソリューションの詳 細は、お使いのソフトウェアベンダーに問い合わせるか、サードパーティ ソリューションのユーザーガイドを参照してください。



### アドバンストオプションタブ

この [アドバンストオプション] タブは、コンピュータとコンソールとの通信に使用するネットワークの設定、さまざまなセキュリティオプションの設定、ライセンスキーの管理などに使用します。



## ネットワーク

Deep Freeze Enterprise コンソールと Deep Freeze がインストールされたコンピュータとの間の通信には、LAN モードまたは LAN/WAN モードの 2 つの異なるモードを使用できます。

- LAN: [LAN] を選択すると、Deep Freeze がローカルエリアネットワーク (LAN) 内で 通信するように設定されます。LAN モードは、ポート番号だけが必要な自己設定 モードです。初期設定のポート番号は 7725 です。LAN 上の他のプログラムとポート番号が重複する場合にはポート番号を変更できます。LAN モードでは、Deep Freeze のターゲットコンピュータとコンソールは、UDP ブロードキャスト経由で 通信します。これらのブロードキャストは、コンピュータとコンソールの通信に関連するネットワークトラフィックが少なくなるように、ターゲットコンピュータまたはコンソールが起動した場合にだけ行われます。
- LAN/WAN:[LAN/WAN] を選択すると、Deep Freeze は LAN と広域ネットワーク (WAN) の両方で通信するように設定されます。LAN/WAN は、LAN または WAN のいずれかの環境、およびインターネット上で使用できます。このモードは、ポート 番号に加えて IP アドレスまたはコンピュータ名を使用して、Enterprise コンソールと管理コンピュータの間の通信を許可します。



次の2つの方法を使用して、コンソールを区別できます。

- コンソール IP (静的)を指定します。
- コンソール名を指定します。この場合 IP は動的にできます (ドメインインフラスト ラクチャの一環として、有効な DNS 名の解決ができる場合)

Enterprise コンソールが、ファイアウォールまたは NAT(ネットワークアドレス変換) ルーターの背後にある場合、Enterprise コンソールへのトラフィックがファイア ウォールやルーターを経由するように設定する必要があります。ファイアウォールや ルーターによっては、トラフィックが転送されるように、コンピュータをファイア ウォールの IP アドレスで設定する必要がある場合もあります。



Deep Freeze は Windows Firewall で必要な例外を自動的に設定します。 Windows Firewall を手動で設定する必要はありません。

特定のネットワーク環境での Deep Freeze の設定や使用に関する詳細は、「付録 B] を 参照するか、テクニカルサポートにご連絡ください。

7725という初期設定 (Deep Freeze に登録済み) 以外のポート番号を使用する場合は、 ネットワークで既に実行されているアプリケーションと重複しないように注意します。 よく使われるポート番号(0~1023)は使わないようにします。また設定前に、登録済 みのポート番号 $(1024 \sim 49151)$ とも重複していないことを確認してください。



49152 以上の未割当の範囲でポートを使用することを推奨します。ポート のセグメント化を使って、クライアントおよび Deep Freeze Enterprise コ ンソールでポート番号を設定し、ポート番号別にラボや建物を分離するこ とができます。この方法では、組織全体ではなく、特定のクライアント セットに管理機能を提供できます。これらのポートには UDP と TCP の ポート例外が必要になります。詳細は、[事例3-複数のポート、コンソー ルへのリモートアクセス]を参照してください。

各種アプリケーションに割り当てられたポートの全リストは、Internet Assigned Numbers Authority のウェブサイト、

http://www.iana.org/assignments/port-numbers を参照してください。

## アドバンストオプション

- コマンドラインオプションを無効にする 初期設定でこのオプションが選択されて います。このチェックボックスを外すことで、サイレントインストールシステムを 使ったときに、Deep Freeze インストールプログラムをさらにカスタマイズするこ とができます。このオプションを選択すると、インストール中に既存の設定が変更 されることを防ぎます。
- Deep Freeze によるローカルポリシーの有効化 セキュリティ強化のために、 Deep Freeze は、プログラムのデバック、ファームウェアの修正、システム時間の 変更のローカル権限を削除します。既存の権限を使用するには、このオプションの 選択を解除します。
- ユーザーによる時間変更を許可 Frozen モードのユーザーにシステムクロックの調 整を許可するには、このオプションを選択します。夏時間の期間中にこの機能を有 効にすると、Windows は各季節に自動的に時間を更新します。



- セキュリティで保護されたチャネルのパスワードの管理 セキュリティで保護されたチャネルのパスワードは、すべての Windows オペレーティングシステムの機能で、Windows サーバードメイン環境でシステムを実行しているときにのみ該当します。セキュリティで保護されたチャネルのパスワードは、サーバーとクライアントの間の安全な通信に使用します。このパスワードはオペレーティングシステムの設定によって自動的に変更されます。Deep Freeze を使用していると、変更されたばかりのセキュリティで保護されたチャネルのパスワードは、再起動時に失われます。[セキュリティで保護されたチャネルのパスワードの管理]オプションは、この状況を回避します。Deep Freeze の[セキュリティで保護されたチャネルのパスワードの管理]により、Deep Freeze のモード(Frozen または Thawed)に基づいて、グループポリシーの[最大コンピュータアカウントのパスワードの有効期間]の値が変更されます。
  - > セキュリティで保護されたチャネルのパスワードを Deep Freeze で管理する場合、[ セキュリティで保護されたチャネルのパスワードの管理 ] オプションを選択します。

クライアントが Frozen モードの時 – クライアントでは、セキュリティで保護されたチャネルのパスワードは変更されません。これにより、サーバーとクライアントの安全な通信が常に維持されます。

クライアントが Thawed モードの時 – クライアントでは、セキュリティで保護されたチャネルのパスワードが変更され、サーバーとパスワードが同期されます。

> セキュリティで保護されたチャネルのパスワードを Deep Freeze で管理したくない場合、[セキュリティで保護されたチャネルのパスワードの管理]を選択しないでください。

クライアントが Frozen モードの時 – セキュリティで保護されたチャネルのパスワードが変更され、サーバーと同期されると、再起動時に以前のパスワードにリセットされます。

クライアントが Thawed モードの時 – セキュリティで保護されたチャネルのパスワードが変更された日にクライアントが Thawed になっていると、新しいパスワードが有効になり、クライアントがサーバーと同期されます。

Deep Freeze の [ セキュリティで保護されたチャネルのパスワードの管理 ] は、常にグループポリシーの [ 最大コンピュータアカウントのパスワード の有効期間 ] より優先します。



[セキュリティで保護されたチャネルのパスワードの管理]が機能するために、グループポリシーで次の設定を行います。

ドメインコントローラー – [ コンピュータアカウントのパスワード変更の拒否] を [ 未定義 ] にします。

ドメインメンバー - [コンピュータアカウントのパスワード変更の無効化] を[無効化]にします。

- ログオフ時に再起動 ログオフ時に自動的にコンピュータを再起動するには、この チェックボックスを選択します。このオプションを選択した場合、Frozen モードで ユーザーがログオフするとコンピュータが再起動します。
- (MBR/GPT) を保護する (マスターブートレコードを保護) Deep Freeze でマスターブートレコードを保護する場合は、このチェックボックスを選択します。このオプションを選択すると、マスターブートレコードへの変更は、Frozen モードのときにコンピュータを再起動すると、変更が元に戻ります。
- ワンタイムパスワードトークンを表示 このオプションが選択されていると、Deep Freeze ワークステーションのパスワード入力ダイアログに OTP トークンが表示されます。

OTP 機能を使用しない場合は、このオプションを無効にしておくことを推奨します。

- Windows イベントログを保持する Windows のイベントログを保持する場合はこのチェックボックスを選択します。Deep Freeze は 100 MB の ThawSpace を作成し、コンピュータが Frozen 状態にある場合でも再起動時にこれらが削除されないよう、すべての Windows イベントログを保存します。ログファイルは 100 MB に達した時点でリサイクルされます。ログファイルには、アプリケーション、ハードウェア、システム、セキュリティに関するイベントが含まれます。
- 仮想メモリを管理する RAM が制限されたハードウェアでパフォーマンスの問題が発生するというまれな場合に、この機能を有効にします。このオプションを選択すると、ページファイルサイズを Deep Freeze で管理することができます。



このオプションは、デフォルトで無効に設定されています。このオプションを有効にすると、ページファイルサイズは RAM サイズに一致するように調整され、ワークステーションにより多くのハードドライブスペースが割り当てられます。

ローカル管理者パスワードソリューションの管理 – ローカル管理者パスワードソリューション (LAPS) は、Active Directory または Windows Server Active Directory に参加しているマシンのローカル管理者アカウントのパスワードを自動的に管理し、バックアップする Windows の機能です。

LAPS の設定が検出されたシステムでこのオプションを有効にすると、Deep Freeze は、設定済みのローカル管理者パスワードを変更する LAPS の機能を、保護状態では無効にし、非保護状態では有効にします。この機能により、非保護状態でのみ現在の管理者パスワードの入れ替えが可能となり、Active Directory との同期が保たれます。

・ Windows Update を完了するために、保護状態での再起動を遅らせる – Windows Update タスクで Windows Update の構成またはインストールが進行中の場合、保護状態での再起動を遅らせるにはこのオプションを選択します。このオプションを選択し、Deep Freeze 以外の方法で Windows Update を実行すると、保護状態で再起動のアクションを開始することによって、再起動の前にすべての Windows Update インストールと構成が完了されます。

[Windows Update を完了するために、保護状態での再起動を遅らせる] を選択して、Deep Freeze をインストールすると、Windows Update が完了しているかどうかがインストーラによりチェックされます。Windows Update が完了していなければ、Deep Freeze のインストールは続行されません。その場合、Windows Update が完了したら、Deep Freeze を再度インストールしてください。



[Windows Update を完了するために、保護状態での再起動を遅らせる] を無効にして、Deep Freeze をインストールした場合、手動ですべてのWindows Update が完了していることを確認します。このオプションを無効にすると、Windows Update が完了していないことから、コンピュータが再起動サイクルから抜けられなくなる可能性があります。

例

複数のクライアントを管理する、Windows Server 2008 R2 を使用している Windows ドメイン環境で、サーバーとクライアントの安全な通信のために、セキュリティで保護されたチャネルのパスワードを使用します。



Deep Freeze アドミニストレータで、[アドバンストオプション]タブを開き、[セキュリティで保護されたチャネルのパスワードの管理]を選択します。クライアント用インストールファイルを作成し、クライアントに展開します。

[セキュリティで保護されたチャネルのパスワードの管理]が機能するために、グループポリシーで次の設定を行います。

ドメインコントローラー - [コンピュータアカウントのパスワード変更の拒否]を[未定義]にします。

ドメインメンバー - [コンピュータアカウントのパスワード変更の無効化]を[無効化] にします。

クライアントが Froze モードの時は、セキュリティで保護されたチャネルのパスワードは変更されません。クライアントが Thawed モードの時は、セキュリティで保護されたチャネルのパスワードがクライアントで変更され、サーバーと同期されます。

### ステルスモード

- システムトレイに Frozen アイコンを表示 Deep Freeze がインストールされコンピュータが Frozen モードであることを示すアイコンを表示するには、このオプションを選択します。
- システムトレイに Thawed アイコンを表示 Deep Freeze がインストールされていても、コンピュータが Thawed モードであることを示すアイコンを表示するには、このオプションを選択します。

システムトレイに Deep Freeze アイコンを表示するオプションが選択されていない場合、ログオンダイアログにアクセスするには、キーボードのショートカット、CTRL+ALT+SHIFT+F6 を使用する必要があります。

## ライセンス

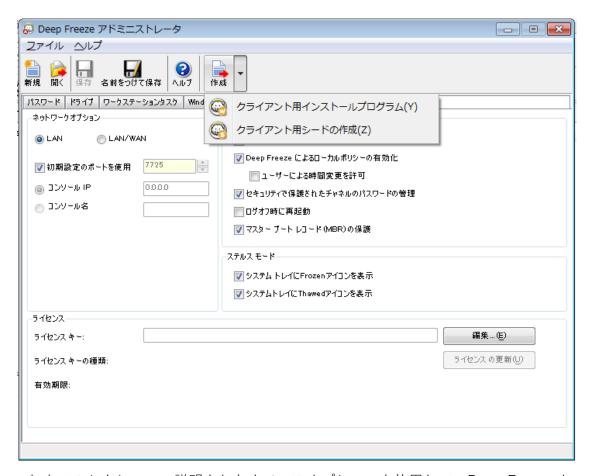
- ライセンス キー [編集]をクリックして、ライセンスキーを入力します。
- ライセンスキーの種類 ライセンスキーの種類が表示されます。このフィールドに は評価版であるか完全版であるかが表示されます。
- 有効期限 Deep Freeze の有効期限が表示されます。

ライセンスキーは次の方法で更新できます。

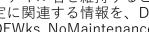
- クライアント用インストールファイルの使用 ライセンスキーはアドミニストレータで更新され、クライアント用インストールファイルが作成されます。これでライセンスキーはクライアント用インストールファイルの一部になります。
- Enterprise コンソールの使用 ライセンス キーは Enterprise コンソールで直接更新できます。Enterprise コンソールでライセンスキーを更新すると、接続されたすべてのコンピュータ上で自動的にライセンス キーが更新されます。コンソールで直接更新する方法に関する詳細は、[ライセンス]のセクションを参照してください。
- 各コンピュータ上で手動で更新 ライセンスキーは、各コンピュータ上で手動で更新できます。詳細は、[ブートコントロール タブ]のセクションを参照してください。



# クライアント用インストールプログラムおよびクライアント用 Seed の 作成



これまでのセクションで説明されたすべてのオプションを使用して、Deep Freeze カ スタムインストールプログラムファイルを作成するには、アドミニストレータのツー ルバーにある「作成〕ボタンをクリックして「クライアント用インストールプログラム の作成〕を選択します。



このプログラムの初期設定でのファイル名は DFWks.exe です。初期設定の ファイル名を維持することを推奨します。ただし、大規模な展開では、設 定に関連する情報を、DFwks\_10gbThawSpace.exe、



DFWks NoMaintenance.exe、DFwks Wed-5pmUpdates.exe のように末 尾に追加すると、組織内でインストーラ機能の特定がしやすくなります。 Deep Freeze 設定ファイル (.rdx) にも同じことが推奨されます。



このファイルは、次の方法により、Deep Freeze をコンピュータにインストールするために使用できます。

- クライアントでのインストール(ユーザーの入力に基づくインストール)
- サイレントインストールー(インストール中に、ユーザーに進捗状況の通知またはメッセージ表示を行わないインストール)サイレントインストールコマンドの詳細は、[サイレントインストール]を参照してください。
- ターゲットインストール Seed がすでにインストールされたクライアントの Deep Freeze Enterprise コンソールまたは同じ Customization Code を使って作成された 以前のバージョンの Deep Freeze から行います。

クライアント用 Seed を作成するには、アドミニストレータのツールバーにある [作成] ボタンをクリックして、[クライアント用 Seed の作成]を選択します。クライアント用 Seed は小さいプログラムで、これにより管理者が Enterprise コンソールからリモートでコンピュータのインストールや管理ができるようになります。 Seed はマスターイメージの一部としてインストールし、イメージングソフトウェアから展開することができます。 Enterprise コンソールには、 Seed がインストールされた LAN 上のすべてのコンピュータが表示されます。このプログラムの初期設定でのファイル名は DFWksSeed.exe です。

すべてのファイルは初期設定で Deep Freeze Enterprise > Install Programs フォルダに保存されます。必要に応じて別の保存場所およびファイル名を変更できます。デフォルトのロケーションとして別の場所を設定するには、インストールプログラムとワークステーション用シードを保存する場所を選択して、[保存]をクリックします。指示されたら、[デフォルトのロケーションを保存先として設定する]チェックボックスを選択します。「OK】をクリックします。

複数のカスタムインストールファイルを作成する場合には、それぞれのファイルに名前 を付けてください。



DFwks.exe、DFwksseed.exe、depfrz.rdx ファイルは、Deep Freeze がインストールされ、同じ Customization Code を使用するコンピュータなら、どのコンピュータでも同じように作成し展開できます。パスワード、ネットワーク設定、標準化されたクライアントタスクなどの基本的な要素が一貫していることを確かにするために、Deep Freeze Seed をテンプレートやプレースホルダーとして使用できます。Seed は設定を使用しませんが、ファイルに設定を保存します。テンプレートとしてファイルを使用するには、アドミニストレータを使って DFwksseed.exe ファイルを開き、必要な変更を加えます。次に、クライアント用インストールを作成するには、[作成] > [クライアント用インストールファイルの作成]をクリックします。



セキュリティの理由により、大規模な環境でのアドミニストレータの使用を制限するよう推奨します。これは、Deep Freeze アドミニストレータをパスワード保護するか、c:\program files\faronics\Deep Freeze Enterprise フォルダから DFadmin.exe ファイルを削除して、使用不能にすることで実行できます。このファイルはドメインアドミニストレータのクライアントに移動し、共通の Deep Freeze Enterprise コンソールから削除することができます。このファイルの復元は、同じバージョンの別のインストールからファイルをコピーして、OTP パスワードを使って認証するか、または同じ Customization Code を使って Deep Freeze Enterprise を再インストールするか、アップグレードすることによって可能です。



# Deep Freeze Enterprise コンソールの使用

この章では Deep Freeze Enterprise コンソールの使用方法について説明します。

### トピック

Deep Freeze の設定

設定生成機能

Deep Freeze Enterprise コンソール

カラムの表示

ステータスに基づく選択

コンソールとクライアントの間の交信管理

リモート コンソール

リモート コンソールへの接続

コンソールによる Deep Freeze の管理

ライセンス

レポート

タグ

注意事項

Deep Freeze タスクのスケジュール設定

スケジュール タスクにクライアントを割り当てる

ネットワークとグループの管理

#### 履歴

グループヘクライアントの追加

カスタム アクションの設定

Console Customizer

Deep Freeze Enterprise コンソールのシャットダウン

クライアントへの Deep Freeze のインストール

コンソールからクライアントの Deep Freeze のアンインストール

サイレント インストールおよびサイレント アンインストール

アップデートをチェックする



# Deep Freeze の設定

Deep Freeze の設定は、ワークステーションでの Deep Freeze の動作を定義する複数 の設定で構成されています。Deep Freeze の設定は Deep Freeze コンソールで作成し て適用できます。

Deep Freeze の設定を作成するには、次の手順を実行します。

- 1. Deep Freeze コンソールを起動します。
- 2. [ ネットワークとグループ ] > [ 利用可能な設定 ] > [Deep Freeze] の順に選択しま
- 3. 右クリックして、「新規設定の作成〕を選択します。



- 4. 「Deep Freeze Enterprise アドミニストレータの使用〕の説明に従って、各タブの設 定を選択または指定します。
- 5. 設定の名前を指定して、[OK] をクリックします。
- 6. 設定をエクスポートするには、オプションでドロップダウンから 「次の形式でエク スポート ] > 「ワークステーション用シード ] または 「次の形式でエクスポート ] > 「ワークステーションインストーラ」を選択します。
- 7. [OK] をクリックします。

# Deep Freeze の設定の適用

一度作成した設定は複数のワークステーションに適用することができます。

Deep Freeze の設定を適用するには、次の手順を実行します。

- 1. [ワークステーション]ペインを開きます。
- 2. ワークステーションを1台または複数選択します。
- 3. 右クリックして、「Deep Freeze を更新 ] > [Deep Freeze] > [設定の名前 ] の順に 選択します。

設定が選択したワークステーションに適用されます。



パスワードやワークステーションタスク、ログオフ時に再起動といった Deep Freeze の設定は、変更して適用する場合、即時適用されます。

インストールファイルの作成時に [設定を更新中に削除]を選択している場合は、設定の適用時に既存の非保護スペースとそこに含まれるデータが削除され、新たな非保護スペースが設定に従い作成されます。

その他すべての設定を有効化するには、再起動が必要です。設定の変更を 適用しても、[コマンドラインの無効化]オプションを変更することはでき ません。

## Deep Freeze の設定の編集

Deep Freeze の設定を編集するには次の手順を実行します。

- 1. Enterprise Console で [ネットワークとグループ] ペインを選択します。
- 2. [利用可能な設定] > [Deep Freeze] > [設定の名前] の順に選択します。
- 3. 選択した設定を右クリックして、[選択した設定の編集]を選択します。
- 4. 必要に応じて、設定を編集します。
- 5. [OK] をクリックします。

## Deep Freeze の設定の削除

Deep Freeze の設定を削除するには次の手順を実行します。

- 1. Enterprise Console で「ネットワークとグループ」ペインを選択します。
- 2. [利用可能な設定] > [Deep Freeze] > [設定の名前]の順に選択します。
- 3. 選択した設定を右クリックして、「選択した設定の削除」を選択します。
- 4. [OK] をクリックします。

## Deep Freeze の設定のエクスポート

Deep Freeze の設定をエクスポートするには次の手順を実行します。

- 1. Enterprise Console で「ネットワークとグループ」ペインを選択します。
- 2. [利用可能な設定] > [Deep Freeze] > [設定の名前] の順に選択します。
- 3. 選択した設定を右クリックして、[次の形式でエクスポート]を選択します。3つのオプションがあります。
  - > ワークステーションインストーラを選択する。名前を指定して、[保存]をクリックします。
  - > ワークステーション用シードを選択する。名前を指定して、[保存]をクリックします。
  - > 設定ファイルを選択する。名前を指定して、「保存〕をクリックします。



# 設定生成機能

Deep Freeze Console には設定生成機能と呼ばれるツールがあります。このツールに より、CSV ファイルで指定したパラメータに基づいて、Deep Freeze インストール ファイルまたは Deep Freeze 設定ファイルを自動的に作成することができます。付属 の CSV サンプルファイルを編集して、無制限の数のエントリを挿入できます。CSV ファイルに含まれる設定のパラメータは、Deep Freeze Enterprise Configuration Administrator の設定と同じです。CSV ファイルの列名は特定の設定を示し、行は1つ の Deep Freeze 設定ファイルまたは Deep Freeze インストールファイルのエントリを 示します。

設定生成機能を使って、複数の Deep Freeze インストールファイルを作成するには、 以下の手順を実行します。

1. Deep Freeze コンソールを起動します。[ツール]>[設定生成機能]を選択しま す。または、Deep Freeze Enterprise Configuration Administrator で [ファイル] > 「設定生成機能」を選択して起動することもできます。



- 2. 設定生成機能で[参照]をクリックします。
- 3. 設定ファイル (.csv) を選択します。
- 4. 「生成〕をクリックします。

Deep Freeze インストールファイルまたは Deep Freeze 設定ファイルが作成されます。



初めて設定生成機能を使用している場合、[CSV サンプル]をクリックし、 テンプレートファイルをダウンロードします。Deep Freeze インストール ファイルまたは Deep Freeze 設定ファイルを作成するために必要な値を 使って、CSV サンプルファイルを更新できます。ファイルの内容を説明す るような名前を使って、ファイルを保存することを推奨します。



### コマンドラインからの設定生成機能の使用

コマンドラインから Deep Freeze インストールファイルまたは Deep Freeze 設定ファイルを作成することもできます。 Deep Freeze がインストールされた場所からコマンドラインを起動し、以下のパラメータを入力して、Enter キーを押します。

32 ビットシステムの場合

[System Drive]:\Program Files\Faronics\Deep Freeze
Enterprise\DFAdmin.exe import [PATH\ConfigurationFile.csv]

64 ビットシステムの場合

[System Drive]:\Program Files (x86)\Faronics\Deep Freeze Enterprise\DFAdmin.exe import [PATH\ConfigurationFile.csv]

Deep Freeze インストールファイルまたは Deep Freeze 設定ファイルが作成され、 CSV ファイルで指定した場所に保存されます。

同期モードでコマンドを実行する場合は、コマンドを次のとおり指定します。

start /wait [System Drive]:\Program Files\Faronics\Deep Freeze
Enterprise\DFAdmin.exe import [PATH\ConfigurationFile.csv]

### 設定ファイルのパラメータ

以下の表は、設定ファイルのパラメータについて説明します。

- 列のヘッダーを変更しないでください。ヘッダーを変更すると、そのセルの値は無視され、Deep Freeze Enterprise Configuration Administrator のデフォルト値が使用されます。
- 複数のエントリがあるパラメータの場合は、複数の列を追加します。たとえば、パスワードや非保護スペースなどは、Password1Enable、Password2Enable、ThawSpace1Drive、ThawSpace2Driveのように複数の列を設定できます。
- エントリを空白にしたり、エントリの列を削除すると、Deep Freeze Enterprise Configuration Administrator のデフォルト値が使用されます。必須フィールドに値がない場合、または必須フィールドの列が削除された場合、Deep Freeze インストールファイルまたは Deep Freeze 設定ファイルは作成されません。エラーメッセージが生成され、ログファイルに保存されます。エラーログを確認するには、設定生成機能の [失敗した設定のログファイルを確認する] リンクをクリックします。
- パラメータ名または値にコンマ(,)を使用しないでください。
- パラメータ名または値は大文字・小文字を区別しません。
- 日付が必要なフィールドには、vvvv/mm/dd の形式が使用されます。
- ・ 時間が必要なフィールドには、hh:mm:ss (24 時間制 ) の形式が使用されます。



列 / パラメータ	説明	
FileName	ファイル名とその保存先のパスを指定します。	
rdx	Deep Freeze 設定ファイルを作成する場合、1 を指定します。Deep Freeze 設定ファイルを作成しない場合、0 を指定します。	
exe	Deep Freeze インストールファイルを作成する場合、1 を指定します。 Deep Freeze インストールファイルを作成しない場合、0 を指定します。	
Password1Enable	password 1 を有効にする場合、1 を指定します。password 1 を無効にする場合、0 を指定します。	
PasswordlType	ワークステーションまたはコマンドラインを指定します。	
Password1UserChange	ユーザーに変更を許可する場合、1を指定します。ユーザーに変更を許可しない場合、0を指定します。	
Password1	パスワードを指定します。	
Password1TimeOut	パスワードにタイムアウトを設定する場合、1 を指定します。パスワードにタイムアウトを設定しない場合、0 を指定します。	
PasswordlActivation	パスワードを有効にする日を指定します。	
PasswordlExpiration	パスワードを無効にする日を指定します。	
FrozenDrives	保護ドライブ文字を1行で指定します (例、CDEF)。	
ThawSpace1Drive	非保護スペースのドライブ文字を指定します。	
ThawSpace1Size	非保護スペースのサイズを指定します。	
ThawSpace1SizeUnit	単位を MB または GB で指定します。	
ThawSpace1HostDrive	非保護スペースのホストドライブ文字を指定します。	
ThawSpace1Visibility	非保護スペースを表示する場合、1を指定します。非保護スペースを非表示にする場合、0を指定します。	
RetainExistingThawSpace	非保護スペースを維持する場合、1を指定します。非保護スペースを削除する場合、0を指定します。	
HonorGPSettings	グループポリシー履行設定を有効にする場合、1 を指定します。グループポリシー履行設定を無効にする場合、0 を指定します。	
USB	USB 外部ドライブを非保護状態にする場合、1 を指定します。USB 外部ドライブを保護状態にする場合、0 を指定します。	
FireWire	FireWire 外部ドライブを非保護状態にする場合、1 を指定します。 FireWire 外部ドライブを保護状態にする場合、0 を指定します。	
LAN_WAN	ワークステーションと Deep Freeze Console の通信を LAN/WAN モードで行う場合、1 を指定します。ワークステーションと Deep Freeze Console の通信を LAN/WAN モードで行わない場合、0 を指定します。	



列 / パラメータ	説明
UseDefaultPort	デフォルトのポート 7725 を使用する場合、1 を指定します。デフォルトのポートを使用しない場合、0 を指定します。
Port	ポートを指定します。
ConsoleIP_NAME	コンソール IP を指定します。静的または名前のいずれかです。
DisableCMD	コマンドラインを無効にする場合、1 を指定します。コマンドラインを 有効にする場合、0 を指定します。
EnableLocalPolicies	Deep Freeze ローカルポリシーを有効にする場合、1 を指定します。セキュリティを強化するため、Deep Freeze ではプログラムのデバッグ、ファームウェアの変更、システム時間の変更に関するローカル権限が除去されます。Deep Freeze ローカルポリシーを無効にする場合、0 を指定します。
AllowChangeClock	保護ユーザーにシステムクロックの調整を許可する場合、1を指定します。保護ユーザーにシステムクロックの調整を許可しない場合、0を指定します。
ManageSCP	セキュリティで保護されたチャネルのパスワードを管理する場合、1を指定します。セキュリティで保護されたチャネルのパスワードを無効にする場合、0を指定します。
RestartOnLogoff	ログオフ時にワークステーションを再起動する場合、1を指定します。 ログオフ時にワークステーションを再起動しない場合、0を指定します。
ProtectMBR	マスターブートレコードを保護する場合、1を指定します。Deep Freeze に よるマスターブートレコードの保護を必要としない場合、0 を指定します。
ShowFrozenIcon	システムトレイに保護アイコンを表示する場合、1を指定します。システムトレイに保護アイコンを表示しない場合、0を指定します。
ShowThawedIcon	システムトレイに非保護アイコンを表示する場合、1を指定します。システムトレイに非保護アイコンを表示しない場合、0を指定します。
DelayFrozenReboot	Windows Update を完了するために、保護状態での再起動を遅らせる設定を有効にする場合、1 を指定します。Windows Update を完了するために、保護状態での再起動を遅らせる設定を無効にする場合、0 を指定します。
BatchAuthentication	バッチ認証をする場合、1を指定します。バッチ認証をしない場合、0を 指定します。
UserAccount	ユーザーアカウントを使用する場合、1を指定します。システムアカウントを使用する場合、0を指定します。
LoginID	ログイン ID を指定します。
Password	パスワードを指定します。
Domain	ドメインを指定します。
Tree	ツリーを指定します。
Context	コンテキストを指定します。



### Server サーバー名を指定します。 ### BatchFile パッチファイルの内容を指定します。1行のみがサポートされています。 ### Windows Update のダウンロード方法を Deep Freeze に選択させる場合、1を指定します。Windows Update のダウンロード方法を Deep Freeze に選択させる場合、1を指定します。Windows Update をキャッシュしない場合、0を指定します。Windows Update をキャッシュしない場合、0を指定します。 ### Windows Update に WSUS を使用する場合、1を指定します。Windows Update に WSUS を使用しない場合、0を指定します。WSUS ターゲットを使用しない場合、0を指定します。WSUS ターゲットを使用しない場合、0を指定します。 ### WSUS の URL を指定します。 ### WSUS ターゲットを指定します。 ### Task1Enabled ワークステーションのタスクを有効にする場合、1を指定します。ワークステーションのタスクを無効にする場合、0を指定します。 ### Task1Name タスクの名前を指定します。再起動、シャットダウン、パッチファイル、Windows Update があります。 ### Task1Day 曜日を指定します。 ### Task1Enable 第日を指定します。 ### Task1Enable 第日を指定します。 ### Task1Enable 第日を指定します。 ### Task1AllowCancel ユーザーにタスクのキャンセルを許可する場合、1を指定します。 ### Task1AllowCancel ユーザーにタスクのキャンセルを許可する場合、1を指定します。 ### Task1ShutdownAfterTask 第1のを指定します。 ### Task1ShutdownAfterTask 第2の多様をにワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。 ### Task1DisableInput キーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。キーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。 ### Task1StartMessage タスクの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。 ### Task1DuringMessage タスクの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。	列 / パラメータ	説明	
Windows Update のダウンロード方法を Deep Freeze に選択させる場合、1を指定します。Windows Update のダウンロード方法を Deep Freeze に選択させない場合、0を指定します。  CacheWU Windows Update をキャッシュする場合、1を指定します。Windows Update をキャッシュする場合、1を指定します。Windows Update に WSUS を使用する場合、1を指定します。Windows Update に WSUS を使用する場合、1を指定します。Windows Update に WSUS を使用しない場合、0を指定します。  WSUS ターゲットを使用する場合、1を指定します。WSUS ターゲットを使用しない場合、0を指定します。  WSUS の URL を指定します。  WSUS ターゲットを指定します。  WSUS ターゲットを指定します。  WSUS ターゲットを指定します。  Task1Enabled ワークステーションのタスクを有効にする場合、1を指定します。ワークステーションのタスクを無効にする場合、0を指定します。  Task1Type タスクのタイプを指定します。再起動、シャットダウン、バッチファイル、Windows Update があります。  Task1Day 曜日を指定します。  Task1Bad 終了時間を指定します。  Task1End 終了時間を指定します。  Task1End 終了時間を指定します。  Task1Start 開始時間を指定します。  オーボードとタスクのキャンセルを許可する場合、1を指定します。ユーザーにタスクのキャンセルを許可しない場合、0を指定します。 クスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。クスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。  Task1ShutdownAfterTask 定します。タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。  Task1ShowMessagePor メッセージを表示する時間を分で指定します。 クスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。	Server	サーバー名を指定します。	
AllowWUDownload 合、1を指定します。Windows Update のダウンロード方法を Deep Freeze に選択させない場合、0を指定します。Windows Update をキャッシュしない場合、0を指定します。Windows Update に WSUS を使用する場合、1を指定します。Windows Update に WSUS を使用する場合、1を指定します。Windows Update に WSUS を使用する場合、1を指定します。WSUS ターゲットを使用しない場合、0を指定します。WSUS ターゲットを使用しない場合、0を指定します。WSUS ターゲットを使用しない場合、0を指定します。 WSUS の URL を指定します。 WSUS の URL を指定します。 WSUS ターゲットを指定します。 Task1Enabled フークステーションのタスクを有効にする場合、1を指定します。ワークステーションのタスクを無効にする場合、0を指定します。 Task1Type タスクのタイプを指定します。再起動、シャットダウン、バッチファイル、Windows Update があります。 Task1Name タスクの名前を指定します。 Task1Day 曜日を指定します。 Task1End 終了時間を指定します。 Task1ShutdownAfterTask タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。 Task1ShutdownAfterTask タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。 Task1ShutdownAfterTask スクのキャンセルを許可しない場合、1を指定します。カーボードとマウスを無効にする場合、1を指定します。キーボードとマウスを無効にする場合、1を指定します。カーボードとマウスを無効にする場合、1を指定します。カーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。カーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。カーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。カーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。カーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。カーボードとマカスを指述します。カーボードとマカスを指述します。カーボードとマカスを指述します。カーボードとマカスを指述します。カーボードとマカスを指述します。カーボードとマカスを指述します。カーボードとマカスの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。カースの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。カースの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。カースの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。カースのよりによりに対します。カースのよりに対します。カースのよりによりに対します。カースのよりに対します。カースのよりによりに対します。カースのよりによりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりによりに対します。カースのよりによりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりによりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりに対します。カースのよりによりに対します。カースのよりに対します。カースのよりによりに対します。カースのよりによりに対します。カースのよりに対します。カースのよりによりに対します。カースのよりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによ	BatchFile	バッチファイルの内容を指定します。1 行のみがサポートされています。	
WSUS Windows Update に WSUS を使用する場合、1 を指定します。Windows Update に WSUS を使用する場合、1 を指定します。 WSUS ターゲットを使用する場合、1 を指定します。WSUS ターゲットを使用しない場合、0 を指定します。WSUS ターゲットを使用しない場合、0 を指定します。 WSUS ターゲットを使用します。 WSUS の URL を指定します。 WSUS ターゲットを指定します。 WSUS ターゲットを指定します。  WSUS ターゲットを指定します。  WSUS ターゲットを指定します。  Task1Enabled ワークステーションのタスクを有効にする場合、1 を指定します。ワークステーションのタスクを無効にする場合、0 を指定します。  Task1Type タスクのタイプを指定します。再起動、シャットダウン、パッチファイル、Windows Update があります。  Task1Day 曜日を指定します。  Task1Day 曜日を指定します。  Task1Start 開始時間を指定します。  Task1Start 開始時間を指定します。  Task1ShutdownAfterTask 終了時間を指定します。  オーボーにタスクのキャンセルを許可する場合、1 を指定します。コーザーにタスクのキャンセルを許可しない場合、0 を指定します。  Task1ShutdownAfterTask によず、タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0 を指定します。  Task1Disab1eInput キーボードとマウスを無効にする場合、1 を指定します。キーボードとマウスを無効にしない場合、0 を指定します。  Task1ShowMessage タスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1 行のみがサポートされています。	AllowWUDownload	合、1 を指定します。Windows Update のダウンロード方法を Deep	
UpdateにWSUSを使用しない場合、0を指定します。 UseWSUSTarget WSUS ターゲットを使用する場合、1を指定します。WSUS ターゲットを使用しない場合、0を指定します。 WSUS の URL を指定します。 WSUS の URL を指定します。 WSUS ターゲットを指定します。  WSUS ターゲットを指定します。  Task1Enabled ワークステーションのタスクを有効にする場合、1を指定します。ワークステーションのタスクを無効にする場合、0を指定します。  Task1Type タスクのタイプを指定します。再起動、シャットダウン、パッチファイル、Windows Update があります。  Task1Name タスクの名前を指定します。  Task1Day 曜日を指定します。  Task1Start 開始時間を指定します。  Task1End 終了時間を指定します。  Task1AllowCancel ユーザーにタスクのキャンセルを許可しない場合、0を指定します。  Task1ShutdownAfterTask タスク終了後にワークステーションをシャットダウンする場合、1を指定します。  Task1ShutdownAfterTask ウェイン・セルを許可しない場合、0を指定します。 カスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。 カスクを指定します。クスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。  Task1ShowMessage タスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。	CacheWU		
wsusserver wsus の URL を指定します。 wsus の URL を指定します。 wsus の URL を指定します。 wsus ターゲットを指定します。  Task1Enabled ワークステーションのタスクを有効にする場合、1を指定します。ワークステーションのタスクを無効にする場合、0を指定します。  Task1Type タスクのタイプを指定します。再起動、シャットダウン、バッチファイル、Windows Update があります。  Task1Name タスクの名前を指定します。  Task1Day 曜日を指定します。  Task1Start 開始時間を指定します。  Task1Start 開始時間を指定します。  Task1Stort にタスクのキャンセルを許可する場合、1を指定します。  Task1AllowCancel ユーザーにタスクのキャンセルを許可しない場合、0を指定します。  クスク終了後にワークステーションをシャットダウンする場合、1を指定します。タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。クトル・デードとマウスを無効にする場合、1を指定します。キーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。  Task1ShowMessageFor メッセージを表示する時間を分で指定します。  Task1StartMessage タスクの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。	WSUS		
WSUS ターゲットを指定します。  Task1Enabled フークステーションのタスクを有効にする場合、1を指定します。ワークステーションのタスクを無効にする場合、0を指定します。  Task1Type タスクのタイプを指定します。再起動、シャットダウン、バッチファイル、Windows Update があります。  Task1Name タスクの名前を指定します。  Task1Day 曜日を指定します。  Task1Start 開始時間を指定します。  Task1Start 開始時間を指定します。  Task1Start 開始時間を指定します。  Task1Stlend 終了時間を指定します。  Task1AllowCancel ユーザーにタスクのキャンセルを許可する場合、1を指定します。ユーザーにタスクのキャンセルを許可しない場合、0を指定します。カスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。クトデーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。カイル・アージを表示がしない場合、0を指定します。  Task1ShowMessageFor メッセージを表示する時間を分で指定します。  Task1ShowMessage タスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。	UseWSUSTarget		
Task1Enabled フークステーションのタスクを有効にする場合、1を指定します。ワークステーションのタスクを無効にする場合、0を指定します。 Task1Type タスクのタイプを指定します。再起動、シャットダウン、パッチファイル、Windows Update があります。  Task1Name タスクの名前を指定します。  Task1Day 曜日を指定します。  Task1Start 開始時間を指定します。  Task1End 終了時間を指定します。  Task1AllowCancel ユーザーにタスクのキャンセルを許可する場合、1を指定します。ユーザーにタスクのキャンセルを許可しない場合、0を指定します。ユーザーにタスクのキャンセルを許可しない場合、0を指定します。ウスク終了後にワークステーションをシャットダウンする場合、1を指定します。タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。のを指定します。のを指定します。カンを指定します。カンのを指定します。カンとがマウスを無効にしない場合、0を指定します。  Task1DisableInput キーボードとマウスを無効にする場合、1を指定します。キーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。  Task1ShowMessage タスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。	WSUSServer	WSUS の URL を指定します。	
Task1Type クステーションのタスクを無効にする場合、0を指定します。  Task1Type タスクのタイプを指定します。再起動、シャットダウン、バッチファイル、Windows Update があります。  Task1Name タスクの名前を指定します。  Task1Day 曜日を指定します。  Task1Start 開始時間を指定します。  Task1End 終了時間を指定します。  Task1AllowCancel ユーザーにタスクのキャンセルを許可する場合、1を指定します。ユーザーにタスクのキャンセルを許可しない場合、0を指定します。  Task1ShutdownAfterTask 定します。タスク終了後にワークステーションをシャットダウンする場合、1を指定します。のを指定します。クスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。クスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。  Task1DisableInput キーボードとマウスを無効にする場合、1を指定します。キーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。  Task1ShowMessage タスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。クスクの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサ	WSUSTarget	WSUS ターゲットを指定します。	
Task1Name タスクの名前を指定します。  Task1Day 曜日を指定します。  Task1Start 開始時間を指定します。  Task1End 終了時間を指定します。  Task1AllowCancel ユーザーにタスクのキャンセルを許可する場合、1を指定します。 ユーザーにタスクのキャンセルを許可しない場合、0を指定します。  Task1ShutdownAfterTask タスク終了後にワークステーションをシャットダウンする場合、1を指定します。 タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。 クを指定します。 タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。 タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。  Task1DisableInput キーボードとマウスを無効にする場合、1を指定します。 キーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。  Task1ShowMessageFor メッセージを表示する時間を分で指定します。  Task1StartMessage タスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。	Task1Enabled		
Task1Day 曜日を指定します。  Task1Start 開始時間を指定します。  Task1End 終了時間を指定します。  Task1AllowCancel ユーザーにタスクのキャンセルを許可する場合、1を指定します。ユーザーにタスクのキャンセルを許可しない場合、0を指定します。  Task1ShutdownAfterTask タスク終了後にワークステーションをシャットダウンする場合、1を指定します。タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。クを指定します。  Task1DisableInput キーボードとマウスを無効にする場合、1を指定します。キーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。  Task1ShowMessageFor メッセージを表示する時間を分で指定します。  Task1StartMessage タスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。  タスクの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。	Task1Type		
Task1Start開始時間を指定します。Task1End終了時間を指定します。Task1AllowCancelユーザーにタスクのキャンセルを許可する場合、1を指定します。ユーザーにタスクのキャンセルを許可しない場合、0を指定します。Task1ShutdownAfterTaskタスク終了後にワークステーションをシャットダウンする場合、1を指定します。タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。Task1DisableInputキーボードとマウスを無効にする場合、1を指定します。キーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。Task1ShowMessageForメッセージを表示する時間を分で指定します。Task1StartMessageタスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。Task1DuringMessageタスクの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。	Task1Name	タスクの名前を指定します。	
Task1End終了時間を指定します。Task1AllowCancelユーザーにタスクのキャンセルを許可する場合、1を指定します。ユーザーにタスクのキャンセルを許可しない場合、0を指定します。Task1ShutdownAfterTaskタスク終了後にワークステーションをシャットダウンする場合、1を指定します。タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。Task1DisableInputキーボードとマウスを無効にする場合、1を指定します。キーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。Task1ShowMessageForメッセージを表示する時間を分で指定します。Task1StartMessageタスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。Task1DuringMessageタスクの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサ	Task1Day	曜日を指定します。	
Task1AllowCancelユーザーにタスクのキャンセルを許可する場合、1を指定します。ユーザーにタスクのキャンセルを許可しない場合、0を指定します。Task1ShutdownAfterTaskタスク終了後にワークステーションをシャットダウンする場合、1を指定します。タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。Task1DisableInputキーボードとマウスを無効にする場合、1を指定します。キーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。Task1ShowMessageForメッセージを表示する時間を分で指定します。Task1StartMessageタスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。Task1DuringMessageタスクの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサ	Task1Start	開始時間を指定します。	
### Task1ShutdownAfterTask が一にタスクのキャンセルを許可しない場合、0を指定します。 タスク終了後にワークステーションをシャットダウンする場合、1を指定します。タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。  ### Task1DisableInput おーボードとマウスを無効にする場合、1を指定します。キーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。  ### Task1ShowMessageFor メッセージを表示する時間を分で指定します。  ### Task1ShowMessage タスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。  ### PuringMessage タスクの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサ	Task1End	終了時間を指定します。	
Task1ShutdownAfterTask 定します。タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない場合、0を指定します。  Task1DisableInput キーボードとマウスを無効にする場合、1を指定します。キーボードとマウスを無効にしない場合、0を指定します。  Task1ShowMessageFor メッセージを表示する時間を分で指定します。  Task1StartMessage タスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサポートされています。  タスクの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサ	Task1AllowCancel		
Task1DuringMessageタスクの実行中に表示されるメッセージを入力します。1行のみがサ	Task1ShutdownAfterTask	定します。タスク終了後にワークステーションをシャットダウンしない	
Task1DuringMessage タスクが開始する際に表示されるメッセージを入力します。1 行のみがサポートされています。 タスクの実行中に表示されるメッセージを入力します。1 行のみがサ	Task1DisableInput		
サポートされています。 タスクの実行中に表示されるメッセージを入力します。1 行のみがサ	Task1ShowMessageFor	メッセージを表示する時間を分で指定します。	
	Task1StartMessage		
	Task1DuringMessage		



# Deep Freeze Enterprise コンソール

Enterprise コンソールでは、Deep Freeze がインストールされた、ネットワーク上にあるすべてのコンピュータの状態 (保護・非保護あるいはシードのみ) が表示されます。管理者は、これらのコンピュータに対する特定のタスクをコンピュータ上で実行することができます。詳しい状態は、抜粋またはグループにしてレポートで見ることができます。

コンピュータを検索するには、コンソールの右上に表示されている検索バーをクリック し、検索文字列を入力します。検索時にワイルドカードを使用できます。この機能によ り、すべての列が検索されます。

管理者はコンソールを使って次のタスクをリモート操作することができます。

- クライアントをターゲットにした Deep Freeze のインストール
- 1台以上のクライアントで選択的に保護、非保護、非保護ロック
- 選択したクライアントのロックまたはロック解除
- クライアントの再起動またはシャットダウン
- 定期メンテナンスの停止
- Wake-on-LAN のネットワークカードを搭載するクライアントの起動
- Deep Freeze ソフトウェアの更新
- コンソールから直接スケジュールタスクを実行
- メッセージをクライアントに送信
- アクティブ ディレクトリからグループやコンテナをインポート
- 一時パスワードを生成
- アクションのスケジュール設定
- Enterprise コンソールのカスタマイズ
- ライセンス キーの更新
- ユーザーのログイン
- コンピュータにタグやメモを追加する
- コンピュータのパフォーマンス、現在のステータス、履歴に関するレポートの表示 とエクスポート

コンソールは、WOL パケット受信時に電源が入るように設定されているクライアントに限り、パワーダウン状態から、ウェイク(電源投入)させることが可能です。

# Enterprise コンソールの起動

Enterprise コンソールは、Deep Freeze アドミニストレータとともにインストールされます。[スタート]メニューから、次のように選択して、コンソールを開きます。

スタート > すべてのプログラム > Faronics > Deep Freeze Enterprise > Deep Freeze コンソール



## Enterprise コンソールの有効化

Deep Freeze Enterprise のセキュリティ機能として、OTP 機能は未承認の Deep Freeze Enterprise コンソールの使用を禁止します。DFConsole.exe ファイルが新しい クライアントにコピーされると、コンソールを有効にする必要があります。新しいク ライアントで最初に実行されると、OTPトークンを示すダイアログが表示されます。

ネットワーク管理者は、このトークンをアドミニストレータの OTP 生成システムに入力 します。OTP が生成されます。これをダイアログに入力して、コンソールは有効化さ れます。

コンソールをインストールするコンピュータは、(同じポートを使用して)クライアン トのシードや Deep Freeze のフル インストールが実施されていないことが条件です。

### ステイタスを表すアイコン

コンソールでは、ローカル ネットワーク上に存在するクライアントのステイタスを示 す次のアイコンが表示できます。これらのアイコンは、[表示]の設定によって、クラ イアント名の横、または上部に表示することが可能です。

クラシックな外観	モダンな外観	定義
	<b>A</b>	ターゲット: シードがインストールされているが Deep Freeze はインストールされていない。Deep Freeze はこのアイコン でのみ遠隔操作によりインストールされます。
<b>(3)</b>		Deep Freeze がインストールされ、保護状態のクライアント
		Deep Freeze がインストールされ、非保護状態のクライアント
	<b>6</b> *×	Deep Freeze がインストールされ、非保護ロック状態のクライアント
<b>©</b>	Ф	電源がオフになっているクライアント
	**	現在メンテナンス モードのクライアント
1	!	コンソールとの通信が中断されているクライアント



クラシックな外観	モダンな外観	定義
<b>₹</b>	<b>A</b>	ロックされているクライアント
		非保護アラート設定で定義されている期間を超えて非保護状態 になっているコンピュータ
		非保護アラート設定で定義されている期間を超えて非保護ロッ ク状態になっているコンピュータ



# カラムの表示

Deep Freeze Enterprise コンソールを使用して、[ワークステーション]ペインに表示 されるカラムを指定できます。目的のカラムを表示するには、次の手順を実行します。

- 1. [表示]>[カラム]を選択します。
- 2. 表示するカラムを以下の中から選択します。
  - > 設定
  - > 設定日
  - > 有効期限
  - > インストールファイル
  - > IP アドレス
  - > ライセンスステータス
  - > ログイン名
  - > MAC アドレス
  - > メモ
  - > オペレーティングシステム
  - > ポート
  - > ステータス
  - > タグ
  - > Thawed 状態の時間数
  - > フリーの非保護スペース (GB)
  - > バージョン
  - > ワークグループ
  - > ワークステーション
  - > Anti-Virus



## ステータスに基づく選択

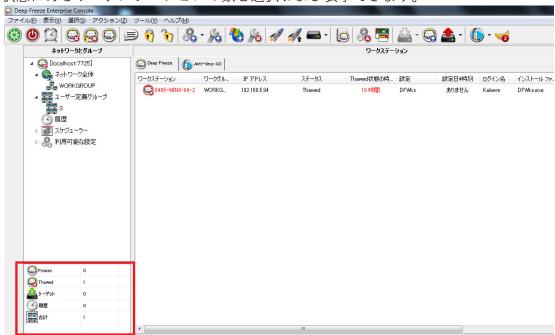
管理されているワークステーション上の Deep Freeze ステータスに基づいてワークステーションを選択できます。ステータスに基づく選択は、Deep Freeze Enterprise コンソールの [ 選択 ] メニューで実行できます。[ 選択 ] メニューには次のオプションがあります。

- Frozen をすべて選択 Frozen 状態のワークステーションを選択します。なお、 Frozen ロック状態のワークステーションも選択されます。
- Thawed をすべて選択 Thawed 状態のワークステーションを選択します。なお、 Thawed ロック状態のワークステーションも選択されます。
- ターゲットをすべて選択 Deep Freeze をインストール可能なすべてのターゲット コンピュータを選択します。
- すべて選択 すべてのワークステーションを選択します。

また、[ステータス]ペインから以下のオプションを使用することもできます。

- Frozen Frozen 状態のワークステーションを選択します。なお、Frozen ロック状態のワークステーションも選択されます。
- Thawed Thawed 状態のワークステーションを選択します。なお、Thawed ロック 状態のワークステーションも選択されます。
- ターゲット Deep Freeze をインストール可能なすべてのターゲットコンピュータ を選択します。
- 履歴 履歴を表示します。
- すべて-すべてのワークステーションを選択します。

また、Deep Freeze Enterprise コンソールの [ ステータス ] ペインを使用して、特定の 状態にあるワークステーションの数を選択および表示できます。





## コンソールとクライアントの間の交信管理

コンソールからクライアント、クライアントからコンソールという 2 種類の交信があ ります。

- 1. ローカル接続 これらの接続のホストである Enterprise コンソールのみがアクセス 可能な接続
- 2. リモート コントロールが有効化された接続 遠隔接続されたその他のコンソールの ホストでもあるコンソールがアクセス可能な接続



Deep Freeze 6.5 のサーバ サービスは、Deep Freeze 6.4 以前のサーバ サービスを自動的に更新しません。同じコンピュータに両方のサービスをインストールできますが、一度に1つのサービスしか実行できません。

コンソールとクライアントの間の交信は、次の理由等で途絶える場合があります。

- クライアントの電源が手動でオフになった。または警告なしにシャットダウンされ た。
- ネットワークの混雑、または切断や停電による機能停止状態。
- クライアントのネットワーク設定が変更され新しいコンソールを表示している。

ほとんどの場合、クライアントの交信はクライアントの電源がオンになったり、また は原因が解消されると交信は再確立されます。クライアントがコンソールにレポート を返して交信を再確立するまでに数分かかる場合があります。交信の再確立が出来な い場合は、テクニカルサポートまでご連絡の上、指示に従ってください。

## ローカル サービスの構成

ローカル サービスとは、クライアントへの接続の設定、保守を行うサービスです。

#### ローカル サービスの有効化

初期設定では、ローカル サービスはコンソールを最初に実行した際にインストールさ れ有効化されます。

ローカル サービスが無効になっている (またはアンインストールされている、もしく はその両方)場合、再び有効にするには、次の手順を実行します。

1. [ツール] > [ネットワーク設定] を選択します。

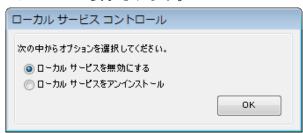


2. ローカル サービスを有効化するには、[ローカル サービスの有効化] チェックボック スを選択します。



ローカル サービスの無効化

[ローカル サービスの有効化] チェックボックスを選択解除し、[OK] をクリックすると、ローカル サービスを無効にするか、またはローカル サービスをアンインストールする オプションが表示されます。



#### ローカル サービス接続の追加

- 1. ローカル サービス接続を追加するには、[ツール] > [ネットワーク設定]を選択します。
- 2. 接続を追加するには、「追加」を選択してポート番号を指定します(ここでは 7725)。
- 3. コンソールの遠隔操作を有効にするには、[リモート コントロールを許可] チェックボックスを選択して、パスワードを指定します。

[追加] を選択後、ポート 7725 への接続がローカル サービスの接続リストおよびコンソールのネットワーク ペインに作成されます。





#### ローカル サービス接続の編集または削除

ローカル サービス接続を追加すると、[ツール]>[ネットワーク設定]を選択して編集 または削除できます。

ローカル サービス接続を編集するには、次の手順を実行します。

- 1.「ローカル サービスの有効化】オプションが選択されていることを確認します。
- 2. ローカル サービス接続リストからポートを選択し、「編集〕をクリックします。
- 3. 「編集】ダイアログが表示され、ポートの遠隔管理やパスワードによる保護が行えま す。
- 4. ローカル サービスからポートを削除するには、ポートをハイライト表示して「削除 ]をクリックします。この操作では、Enterprise コンソールの [ネットワークとグ ループ | ペインからエントリは削除されません。ローカル サービス接続リストから 削除されるだけです。
- 5. コンソールのネットワーク ペインからエントリを削除するには、エントリを選択し てサイドバーにある[削除]アイコンをクリックします。

## プロキシサーバー接続の設定

プロキシサーバーを使ってインターネットに接続している場合、次の機能が正しく機 能するために、プロキシサーバーの設定を指定する必要があります。

- ・ 更新の確認
- お知らせ
- ライセンスのアクティベート

プロキシサーバーを設定するには、次の手順を実行します。

- 1. 「ツール ] > 「ネットワーク設定 ] を選択します。
- 2. [プロキシサーバー]タブに進みます。



3. [プロキシサーバーを有効にする] チェックボックスを選択し、プロキシサーバーを 有効にします。



- 4. 次のプロキシサーバー設定を指定します。
  - > アドレス プロキシサーバーの IP アドレスを指定します。
  - > ポート-プロキシサーバーのポート番号を指定します。
- 5. この手順はオプションです。プロキシサーバーを認証する必要がある場合、次の手順を実行します。[ プロキシサーバーの認証情報 ログオン証明書 ] を選択し、次のフィールドに値を指定します。
  - > 認証タイプ-認証タイプを選択します。
  - > ユーザー名 ユーザー名を指定します。
  - > パスワード-パスワードを指定します。
  - > ドメイン ドメインを指定します。
- 6. [OK] をクリックします。



## リモート コンソール

リモート コンソールとは、他のコンソールとの接続を許可する 1 つまたは複数の接続 のホストとなるコンソールです。既存の接続を編集し、リモート アクセスが可能にな るようにする必要があります。

### リモート コントロールが有効化された接続の設定

接続にリモートアクセスできるようにするには、次の手順を実行します。

- 1. [ツール] > [ネットワーク設定] を選択します。
- 2. 「ローカル サービスの有効化 ] チェックボックスを選択します。
- 3. リストからポートを選択し、[編集] をクリックします。
- 4. [リモート コントロールを許可]が選択されていることを確認します。
- 5. パスワードを指定します。
- 6. [OK] をクリックします。



## リモート コンソールへの接続

ホスティング コンソールによりリモート コンソールが確立されると、他のマシンから 他のコンソールがアクセスできるようになります。

1. サイドバーの [ リモート コンソールへの接続 ] アイコンを選択するか、ネットワーク 項目を右クリックします。選択すると、[ リモート コンソールへの接続 ] ダイアログ が表示されます。



2. [リモート コンソールへの接続] ダイアログで、リモート コンソール名やリモート コンソール IP、ポート番号、パスワードなどの接続の詳細を指定します。この情報 は、ホストコンソールの管理者から入手してください。入力終了後、[ネットワーク とグループ] ペインでポートを右クリックし[プロパティ] を選択すると、この情報 が表示されます。



リモート コンソールへの接続が切断された場合には、サイドバーにある [リモート コンソールに再接続] アイコンをクリックするか、[ネットワークとグループ] ペインでエントリを右クリックすると再接続することができます。



# コンソールによる Deep Freeze の管理

コンソールの画面上部にあるツールバーを使ってコンソールの機能にクイック アクセ スできます。

[表示]>[クラシック表示]を選択すると、アイコンを従来の Windows 形式で表示で きます。



「表示 】> 「モダン表示 〕 を選択すると、アイコンを新しい Windows 形式で表示できま す。



これらのコマンドはコンテキスト テキスト メニューを使用してもアクセスできます。 1つ以上のクライアントを右クリックすると、次のメニューが表示されます。特定のア イコンを選択すると、選択されたクライアントは指定動作を実施し、ステイタスを示 すアイコンが更新されます。複数のクライアントを選択した場合、アクションは該当 するクライアントのみに適用されます。たとえば、[Thawed] および [Frozen] のクラ イアントを選択し、[非保護モードで再起動]アクションを適用した場合、[Frozen]の クライアントのみが [Thawed] 状態になります。つまりこのアクションは、すでに [Thawed] 状態のクライアントには適用されません。

#### クラシック表示

#### モダン表示



選択したコンピュータで指定動作がサポートされない場合、そのアイコンは無効に なっています。たとえば、ターゲットアイコンのついたコンピュータでは、プログラ ムがまだインストールされていないため、「非保護」や「保護」のオプションは表示さ れません。



#### 割り当てられた回数で非保護状態で再起動/非保護ロック状態で再起動

非保護状態または非保護ロック状態のワークステーションを、割り当てられた回数再起動するために選択します。このオプションを選択すると、次回割り当てられた再起動を実行するたびにワークステーションは非保護状態に維持されます。

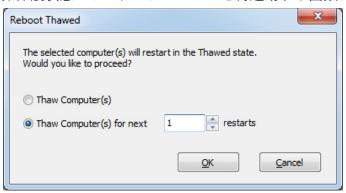
以下の手順を実行します。

- 1. 1つまたは複数のワークステーションを選択します。
- 2. 右クリックして [非保護状態で再起動] または [非保護ロック状態で再起動] を選択します。
- 3. 次の X 回の再起動を実行し、再起動回数を割り当てる非保護状態のコンピュータを 選択します。

このオプションを選択すると、割り当てられた再起動の際には、非保護状態または 非保護ロック状態でワークステーションが再起動されます。

たとえば、再起動回数として[3]を割り当てている場合、ワークステーションは次の3回の再起動後、非保護状態または非保護ロック状態で維持されます。

非保護状態でワークステーションを再起動する回数は、最大 99 まで選択できます。



## ログインユーザー

管理者は、各コンピュータまで移動することなく、選択したコンピュータでユーザーのログインを行うことができます。

この機能を利用するためには、Windows ログオン画面からユーザーアカウントを非表示にし、ログオン時に[ユーザー名]と[パスワード]フィールドが表示されるように設定する必要があります。



このポリシーは、Deep Freeze で [ログインユーザー]機能を有効にするために必須です。

Windows ウェルカム画面で最後にログオンしたユーザーの名前を非表示にするには、 [ローカルセキュリティポリシー] > [セキュリティ設定] > [ローカルポリシー] > [セキュリティオプション] > [インタラクティブログオン:最後のサインインを表示しない (サインイン時のユーザー名)] > [有効] を選択します。このポリシーはデフォルトでは無効にされていますのでご注意ください。

ユーザーが Windows にログオンするために CTRL + ALT + DEL が必要な場合、さらに以下のポリシーを設定する必要があります。



- 「ローカルセキュリティポリシー】>「セキュリティ設定】>「ローカルポリシー】> [セキュリティオプション] > [インタラクティブログオン:CTRL+ALT+DELETE を必要としない]>「有効]を選択します。
- 「ローカルコンピュータポリシー】> 「管理者テンプレート】> 「Windows コンポー ネント] > 「Windows ログオンオプション] > 「ソフトウェアセキュアアテンショ ンシーケンス(またはSAS)を無効化/有効化]に移動します。「有効化]を選択 し、その後「サービスおよび簡易アクセスアプリケーション〕を選択してください。

Deep Freeze ライセンスの有効期限が切れている場合、この機能は動作し ません。



過去 10 回のユーザーログインが記憶され、ユーザーを選択するたびにパス ワードを入力する必要があります。

この機能は、ワークステーション用シードのみがインストールされている コンピュータでは使用できません。



### コンピュータへのメッセージ送信

テキストメッセージを1台または複数のコンピュータに送信するには、次の手順を実 行します。

- 1. メッセージを送信するコンピュータを選択します。
- 2. 右クリックして、コンテキスト メニューから [メッセージを送信]を選択します。
- 3. 表示されたダイアログにメッセージを入力して[送信]をクリックします。あるい は、履歴ドロップダウンから過去に送信したメッセージを選んで送信することもで きます。選択したクライアントにメッセージを送信する確認を求めるダイアログが 表示されます。
- 4. 送信するには、[OK] をクリックし、メッセージを送信せずにダイアログを閉じるに は、「キャンセル」をクリックします。



## Deep Freeze 設定ファイルの更新

既存の .rdx ファイルを使って 1 台以上のコンピュータの設定を更新するには、次の手順を実行します。(.rdx ファイルは、Deep Freeze 設定アドミニストレータで指定された条件を含むファイルです。)

- 1. コンピュータ名(複数可)を右クリックし、「設定の更新」を選択します。
- 2. 既存の .rdx ファイルを探すように指示するメッセージが表示されます。
- 3. [OK] をクリックします。通常の [ファイルを開くダイアログが表示され、.rdx ファイルを選択することができます。
- 4. ファイルを選択して、[ 開く ] をクリックし、選択したコンピュータの設定を .rdx ファイルの内容で更新します。設定の更新を中止するには、[キャンセル] をクリックします。

## Windows Update の実行

Windows Update は右クリックして表示されるコンテキストメニューを使って必要に応じて適用できます。

ワークステーションで Windows Update を実行するには、次の手順を実行します。

- 1. コンピュータ名 (複数可)を右クリックし、[Windows Update の実行]を選択します。
- 2. [OK] をクリックします。

Windows Update が選択したワークステーションに適用されます。 [Windows Update タブ] タブで行った設定が使用されます。

右クリックによるコンテキストメニューを使って必要に応じて Windows Update を適用する以外に、Windows Update タスクをスケジュール設定することもできます。 Windows Update のタスクをスケジュール設定する方法は、[Deep Freeze タスクのスケジュール設定] を参照してください。



新しい設定でネットワーク・オプションが変更されている場合、クライアントは既存のコンソールとの交信を失うことがあります。クライアントの交信を失った場合は、更新したクライアントのネットワークの設定を確認し、コンソールのポート番号および/または IP アドレスが変更されていないことを確認してください。



パスワードの変更は即有効になります。すべての変更はクライアントが再起動してから有効となります。非保護スペースおよび / または保護ドライブは設定ファイルを更新しても変更されません。



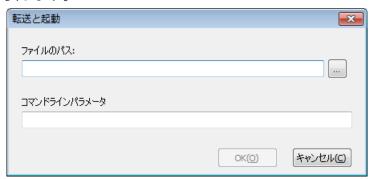
### 遠隔起動

この機能により、IT 管理者は管理されているワークステーションで実行可能ファイル をリモートで起動できます。Deep Freeze により管理されたネットワーク上の複数の ワークステーションに、実行可能ファイルをリモートでインストールできます。対応 可能なファイルタイプは、exe(実行可能ファイル)、.msi(MSIインストーラ)、 .bat/.cmd ( バッチスクリプトファイル ) , .vbs (VB script), .ps1 (PowerShell) 。MSI イ ンストーラを選択した場合、Deep Freeze は MSIEXEC を使ってこれを実行します。

ウェブの URL や FTP のロケーションを指定して、実行ファイルをダウンロードしてイ ンストールすることもできます。指定のロケーションからファイルが自動的にダウン ロードされ、ワークステーション上で起動します。

ワークステーショントで実行可能ファイルを起動するには、次の手順を実行します。

- 1. 以下のいずれかの方法で、ワークステーション上で実行可能ファイルを起動できま す。
  - > 1点または複数のワークステーションを右クリックし、コンテキストメニューか ら[リモートで起動]を選択します。
  - > Deep Freeze タスクを通じてスケジュールを設定します。
- 2. 次のフィールドで値を指定するか、履歴ドロップダウンから過去に指定した値を選 択します。



- > ファイル名とパス ファイル名と、ターゲットコンピュータ上のファイルの場所 を示すパスを指定します。または、実行可能ファイルを参照の上選択します。 または URL か FTP のロケーションを指定します。サポートされるファイルタイ プは、.exe、.msi、.bat/.cmd、.vbs、.ps1。MSI インストーラは、デフォルトで はインストールモードで実行されます。たとえば、実行可能な MyApplication.exe ファイルが C:/AppFolder にある場合は、 [C:/AppFolder/MyApplication] を指定します。
- 3. 環境変数を伴うコマンドラインパラメータを指定します (オプション)。
  - > 引数 この実行ファイルに適用する引数を指定します。たとえば、実行ファイル をコマンドプロンプトから C:\AppFolder\MyApplication -o logFile.logというコマンドで実行する場合、引数には -o logFile.log を指定 します。.msi ファイルの場合は、MSIEXEC で .msi ファイルを起動する際に通 常指定する引数を指定します。.msi ファイルに引数を指定しなかった場合、 Deep Freeze が自動的に [/i] (インストール) を付加します。また、Deep Freeze はすべての表示オプションを [/qn](クワイエット、UI なし) で置換します。
- 4. [OK] をクリックします。

これで、選択されたワークステーション上でファイルが遠隔で起動されます。



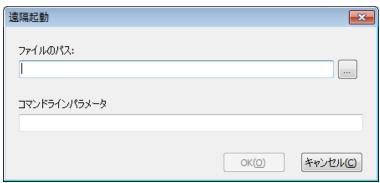
#### 転送と起動

この機能により、IT 管理者は管理されているワークステーションで実行可能ファイルを転送および起動できます。Deep Freeze により管理されたネットワーク上の複数のワークステーションに、実行可能ファイルをリモートでインストールできます。

ウェブの URL や FTP のロケーションを指定して、実行ファイルをダウンロードしてインストールすることもできます。指定のロケーションからファイルが自動的にダウンロードされ、ワークステーション上で起動します。

管理されているワークステーション上のファイルを転送および起動するには、次の手順 を実行します。

- 1. 以下のいずれかの方法で、ワークステーション上で実行可能ファイルを起動できます。
  - > 1点または複数のワークステーションを右クリックし、コンテキストメニューから「転送および起動」を選択します。
  - > Deep Freeze タスクを通じてスケジュールを設定します。
- 2. 参照してファイルパスを選択するか、ファイルパスを指定します(または、履歴ドロップダウンから過去に指定した値を選択します)。



- > ファイル名とパス ファイル名と、コンソールコンピュータ上のファイルの場所を示すパスを指定します。または、実行可能ファイルを参照の上選択します。または URL か FTP のロケーションを指定します。サポートされるファイルタイプは、.exe、.msi、.bat/.cmd、.vbs、.ps1。MSI ファイルは、デフォルトではインストールモードで実行されます。たとえば、実行可能な MyApplication.exe ファイルが C:/AppFolder にある場合は、[C:/AppFolder/MyApplication] を指定します。
- 3. 環境変数を伴うコマンドラインパラメータを指定します(オプション)。
  - > 引数 この実行ファイルに適用する引数を指定します。たとえば、実行ファイルをコマンドプロンプトから C: \AppFolder\MyApplication -o logFile.log というコマンドで実行する場合、引数には -o logFile.log を指定します。.msi ファイルの場合は、MSIEXEC で .msi ファイルを起動する際に通常指定する引数を指定します。.msi ファイルに引数を指定しなかった場合、Deep Freeze が自動的に [/i] (インストール)を付加します。また、Deep Freeze はすべての表示オプションを [/qn](クワイエット、UI なし)で置換します。
- 4. [OK] をクリックします。

これによって、ファイルが選択されたワークステーションに転送され、選択されたワークステーション上で遠隔から起動されます。

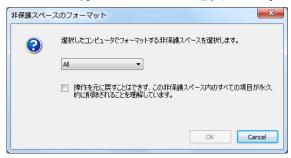


## ThawSpace のフォーマット

Deep Freeze Enterprise コンソールを使用して、管理されているワークステーション 上の一部またはすべての ThawSpace をフォーマットできます。

ThawSpace をフォーマットするには、次の手順を実行します。

- 1. 1 つまたは複数のワークステーションを選択します。
- 2. 右クリックして、「ThawSpace」 > [ThawSpace のフォーマット] を選択します。ま たは、ツールバーにある ThawSpace のフォーマットのアイコンをクリックします。
- 3.[ThawSpace のフォーマット]ダイアログが表示されます。[ すべて ] またはフォー マットする特定のドライブを選択します。



- 4. [操作を元に戻すことはできず、この ThawSpace 内のすべての項目が永久的に削 除されることを理解しています。〕を選択します。
- 5. [OK] をクリックします。



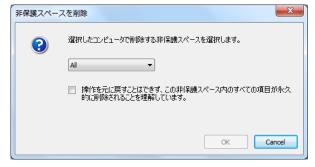
[ThawSpace のフォーマット] コマンドを使用すると、ThawSpace 上のす べてのデータが削除されます。削除されたデータを回復することはできま せん。ThawSpace をフォーマットする前に、重要なファイルをバックアップしてください。

# ThawSpace の削除

Deep Freeze Enterprise コンソールを使用して、管理されているワークステーション 上の一部またはすべての ThawSpace を削除できます。

ThawSpace を削除するには、次の手順を実行します。

- 1. 1 つまたは複数のワークステーションを選択します。
- 2. 右クリックして、[ThawSpace] > [ThawSpace の削除] を選択します。または、 ツールバーにある Thaw Space の削除のアイコンをクリックします。
- 3. [ThawSpace の削除] ダイアログが表示されます。[すべて] または削除する特定の ドライブを選択します。

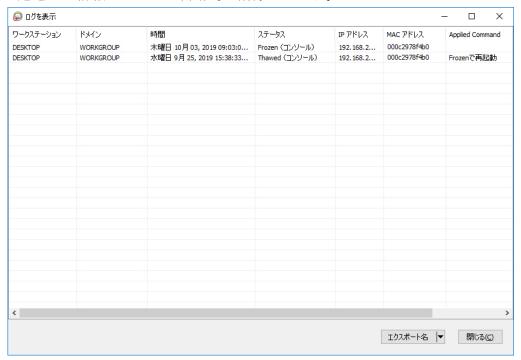




- 4. [操作を元に戻すことはできず、この ThawSpace が永久的に削除されることを理解しています。]を選択します。
- 5. [OK] をクリックします。

#### コンソール ログ ファイルの表示

Enterprise コンソールでは、接続されたすべてのクライアントのステイタスと動作履歴のログが保管されます。ログには過去7日間の情報が保存されます。保存期間が7日間を超過した情報はログから自動的に削除されます。



- 1つ以上のクライアントのログファイルを表示するには、クライアント名を右クリックして、*[ログの表示]*を選択します。
- ログファイルを並び替えるには、見出しをクリックします。次のカラムがあります。
  - > ワークステーション
  - > ドメイン
  - > 時間
  - > ステータス

[ステータス] 列には、コンピュータの今の状態と再起動された方法が表示されます。

たとえば、コンピュータがコンソールから非保護状態に再起動された場合、状態は[非保護(コンソール)]と表示されます。

- > IPアドレス
- > MAC アドレス
- > 適用コマンド(Frozen、Thawed、再起動、シャットダウン)
- > インストール ファイル
- ログファイルをエクスポートするには、[エクスポート形式]をクリックして、[テキスト]または[CSV]を選択します。ファイル名を指定して、[OK]をクリックします。



## Deep Freeze のターゲット インストール

シードがインストールされているクライアントには、次の方法で、Deep Freeze のクライアント用インストール プログラムを、リモート インストールすることが可能です。

- 1.Deep Freeze をインストールする 1 つ以上のクライアントを右クリックし、「インス トール」を選択します。インストールを続行するかどうかを確認するダイアログが 表示されます。[OK] をクリックします。
- 2.ダイアログ ボックスが表示されたら、リモート クライアントにインストールする ファイルを選択します。
- 3. 使用するインストール ファイルを選択し、「開く」 をクリックします。
- 4. クライアントに Deep Freeze がインストールされ、再起動します。
- 5. インストールが終了すると、コンソールに変更が反映されます。クライアントのス テイタス アイコンで、そのクライアントが Deep Freeze で*保護されている*ことが 表示されます。

## Deep Freeze ソフトウェアの更新

Deep Freeze コンピュータ (Deep Freeze 7.7 以降がインストールされているもの)を新 しいバージョンに更新するには、次の手順を実行します。

- 1. Enterprise Console で、更新するコンピュータを選択します。これらのコンピュー タは保護または非保護のいずれかの状態となっています。
- 2. 右クリックして、コンテキストメニューから [Deep Freeze を更新] を選択します。
- 3. 選択したコンピュータが現在のバージョンの設定をすべて保持した状態で新しい バージョンの Deep Freeze ソフトウェアに更新されます。コンピュータが 2 回再起 動して更新が完了します。

### Thawed アラート

コンピュータの Thawed 状態保持期間が指定した期間を超えた場合、Thawed Alert に より管理者への通知が行われます。ワークステーションのアイコンは赤で表示され、 ワークステーションが Thawed 状態であった時間数が [Thawed 状態の時間数] のカラ ムに表示されます。

Thawed アラート を設定するには、次の手順を実行します。

- 1. [ツール] > [Thawed アラート] の順に選択します。
- 2. [Thawed アラート] ダイアログが表示されます。[ワークステーションがx時間以上]Thawed である場合に Thawed Alert を有効化 ] を選択します。x の値を選択します。



- 3. ワークステーションのメンテナンス実行中にアラートを受け取りたくない場合は、「 ワークステーションがメンテナンスモードの場合はアラートを非表示にする〕を選 択します。
- 4. [OK] をクリックします。



#### ライセンス

ライセンスキーは Deep Freeze Enterprise Console から更新することができ、ワークステーションのライセンスは自動または手動のいずれかでアクティベートできます。

Deep Freeze ワークステーションのライセンスを自動的にアクティベートするには、次の手順を実行します。

- 1. Deep Freeze Enterprise Console を起動します。
- 2. [ツール]>[ライセンス]を選択します。
- 3. 「ライセンス〕ダイアログが表示されます。



- 4. [編集]をクリックし、[ライセンスキー]フィールドにライセンスキーを入力します。
- 5. [ライセンスの更新]をクリックします。これにより、Deep Freeze は評価版からライセンス許諾版になります。[ライセンスキーの種類]フィールドにライセンスの種類が表示されます。[有効期限]にライセンスの有効期限が終了する日時が表示されます。

Deep Freeze は、Enterprise Console から、または Faronics License Activation Server に直接接続して、各ワークステーションのライセンスを自動的にアクティベートします。



お使いの製品が正規品であることを証明し、有効期限の終了を避けるために、製品のライセンスをアクティベートする必要があります。搭載された Deep Freeze が 30 日以内にアクティベートされなかった場合、そのワークステーションを保護状態にすることはできません。



ワークステーションは、ローカルのコンソールから、または直接 Faronics Activation Server に接続し、インターネットへの接続が利用可能になると、お使いのコンピュータに関連する情報(製品のバージョン、ライセンスキー、マシンの ID、OS のバージョン、MAC アドレス、CPU の ID、コンソールマシンの ID など)をセキュアなサーバーに送信します。



#### 手動によるアクティベート

Deep Freeze ワークステーションのライセンスを手動でアクティベートするには、ま ず上記の1~5の手順を実行します。その後で、次の手順を実行します。

1. [今アクティベートする]をクリックします。次の2つのオプションがあります。



- > 「オンラインでアクティベート]を選択すると、インターネットを通じて Deep Freeze ライセンスがアクティベートされます。ワークステーションのライセン スは、[ 次へ] をクリックすると、アクティベートされます。オンラインでアク ティベートするには、コンピュータがインターネットに接続されていなければ なりません。
- > 「オフラインでアクティベート ] を選択すると、Deep Freeze ワークステーショ ンのライセンスは Faronics への電子メールまたは電話でアクティベートします。 「次へ〕をクリックします。「オフラインでアクティベート〕画面が表示されま す。





2. [オフラインでのアクティベートのリクエストファイルの作成]をクリックし、[保存]をクリックします。このファイルを activation@faronics.com に送信すると、アクティベート応答ファイルを受け取ります。Faronics から受信したアクティベート応答ファイルを探して選択します。[オフラインでのアクティベートのリクエストファイルの適用]をクリックします。



ライセンスキーは Enterprise Console と通信するすべてのコンピュータで自動的に更新されます。コンピュータがオフライン (シャットダウンまたはネットワークから切断されている状態) の場合、コンピュータが Enterprise Console と通信するとライセンスキーが更新されます。

#### ライセンスアイコン

ワークステーションの Deep Freeze ライセンスが Faronics License Activation Server でアクティベートされていない場合、ツールバーにアクティベートアイコンが表示されます。ワークステーションのアクティベートをオンラインまたはオフラインで行うことができます。

アクティベートアイコンを使ってワークステーションをアクティベートするには、次の 手順を実行します。

1. アクティベートアイコンのドロップダウンをクリックします。

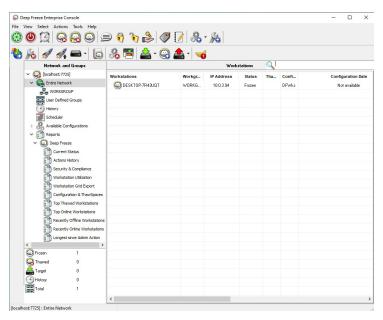


- 2. [オンラインですべてをアクティベートする]を選択します。Deep Freeze Console は Faronics License Activation Server に接続し、ライセンスをアクティベートします。オンラインでアクティベートするには、インターネット接続が必要です。
- 3. または、[オフラインですべてをアクティベートする]を選択します。オフラインでのアクティベートの詳細は、手動によるアクティベートを参照してください。



## レポート

Deep Freeze コンソールは、ワークステーションのパフォーマンス、現在のステータ ス、履歴、および AAnti-Virus レポートに関するさまざまなレポートを作成します。 ネットワークとグループパネルから以下のレポートにアクセスできます。。



XLS としてエクスポートをクリックすると、情報をスプレッドシート形式にエクス ポートできます。

- 現在のステータス:ワークステーションのディープフリーズのステータスを表示 し、ワークステーションが解凍状態にある時間を示します。
- アクション履歴:ワークステーションに適用されたアクション(アクションのタイ ミング、更新後の Deep Freeze のバージョン、構成、関連するタグまたはユーザ定 義グループなど)を記録します。
- セキュリティとコンプライアンス:Deep Freeze のセキュリティステータスの詳細 が表示され、製品の更新やアクティベーションが必要であるか、長期間解凍状態で あるかを示します。
- ワークステーションの利用:選択した期間における各ワークステーションの使用状 況の詳細を表示します。
- ワークステーションのグリッドエクスポート:エクスポートされると、レポートの 内容は、現在のワークステーションのグリッドの正確なバージョンとなり、表示さ れる列の順序を含め、コンソールに表示されるグリッドの構造と形式が保持されま す。
- コンフィギュレーションと ThawSpaces:ワークステーションの設定、 ThawSpaces、スケジュールされたタスクの詳細を提供します。
- フルコンフィギュレーションレポート:すべての利用可能な構成、RDX、およびイ ンストールファイル内の各構成設定の包括的なレポートを表示します。
- 解凍されたワークステーションのトップ:解凍状態が最も長いワークステーション を特定します。



- トップ・オンライン・ワークステーション稼働時間が最も高いワークステーション を特定します。
- 最近オフラインになったワークステーション: Deep Freeze コンソールとの通信が 最近停止したワークステーションを特定します。
- 最近のオンライン・ワークステーション:最近ディープフリーズコンソールと通信 したワークステーションを識別します。
- 管理操作からの最長期間:コンソールやワークステーションの UI コマンドを長期間 受信していないワークステーションを特定し、放置されているマシンや優先度の低いマシンを浮き彫りにする可能性があります。

### グリッドのカスタマイズ

#### レポートの表示と非表示

レポートを表示または非表示にするには、Deep Freeze を右クリックし、表示または非表示にするレポートを選択 / 解除します。

#### グリッド内のカラムを整理

列のヘッダーをクリックして新しい場所にドラッグすることで、情報の表示方法をカスタマイズできます。

#### 検索とフィルタ

各列の右上にあるフィルタをクリックして、ビューをフィルタリングしたり、条件パラメータでフィルタをカスタマイズすることができます。

- 等しい
- 等しくない
- 未満
- 等しいまたは以下
- 以上
- 等しいまたは以上
- と同じ
- ・ と同じでない
- 含む
- 含まない
- 開始
- 終了
- が空欄
- が空欄でない
- の間
- の間でない
- これらの内どれか
- これらの内どれでもない



利用可能な場合は、下部のタイムスタンプをクリックし、事前に定義された日付範囲 から選択することにより、ビューをフィルタリングするか、または日付の好みをカス タマイズし、フィルタを適用をクリックして選択することができます。

#### フィルターのカスタマイズ

フィルタを追加した後は、フィルタをカスタマイズしたり、フィルタの組み合わせを 追加して、フィルタのセットを作成し、保存、再利用、後でクリックするだけでアク セスできるようにすることができます。右下のカスタマイズをクリックし、フィル タービルダーで条件を追加、グループを追加、すべてをクリアのいずれかを選択しま

フィルター > 条件の追加をクリックして新しい条件を追加し、この形式で条件を指定 します:カラム名、パラメータ、式。

例:ワークステーション名 = (イコール)デスクトップ。

または、新しい条件を追加するボタンをクリックします。

フィルター > グループを追加をクリックしてサブグループ条件を追加し、この条件の パラメータを指定します。

名前を付けて保存をクリックして、フィルターをネットワーク上に保存します。 開くをクリックし、保存されたフィルターから選択してフィルターを適用します。

#### グループ別

また、その列でグループ化するには、列のヘッダーをここにドラッグしてくださいと 表示されている領域に列のヘッダーをドラッグして、グループごとにビューを整理す ることもできます。



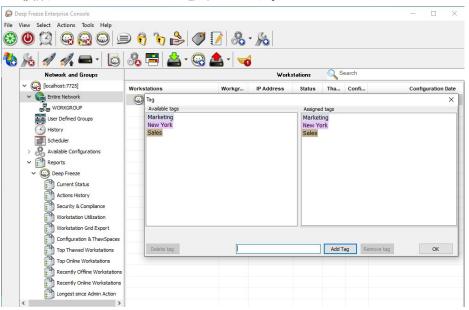
タグ

タグとは、ある項目(コンピュータ、グループなど)に関する詳細を提供する簡単な データ(通常は1単語の説明、キーワード、ラベルなど)で、これを使用することで ウェブ閲覧や検索で関連する項目を簡単に見つけられるようになります。

たとえば、コンピュータにタグを付ける場合、顧客、マーケティング、営業など、部門 別のタグを付けることができます。その後「顧客」というタグを検索すると、指定した タグが付いたすべての項目が表示されます。

#### タグの作成/割り当て

タグは複数のコンピューターに適用できます。



タグを作成または割り当てるには、以下の手順に従います:

- 1. グリッドからワークステーションを選択します。
- 2. ツールバーのタグアイコンをクリックします。
- 3. タグ・コンピューターフィールドで、最初の数文字を入力し、リストから選択する か(すでにタグが存在する場合)、まったく新しいタグを作成し、「タグを追加」を クリックします。

新しいタグは、選択したコンピュータに自動的に割り当てられます。

または、利用可能なタグのいずれかをダブルクリックして、ワークステーションにタグ を割り当てます。

# タグの削除/割り当て解除

タグを削除または割り当て解除するには、以下の手順を実行します:

1. グリッドからワークステーションを選択します。



- 2. ツールバーのタグアイコンをクリックします。
- 3. 割り当てられたタブペインで、削除/未割り当てにするタグを選択します。
- 4. タグの削除をクリックします。

タグは自動的に削除され、選択したコンピューターに割り当てられなくなります。



コンピュータから割り当てが解除されたタグは削除されるだけで、タグの リストから削除されることはありません。

## タグの削除

タグを削除するには、以下の手順に従います:

- 1. グリッドからワークステーションを選択します。
- 2. ツールバーのタグアイコンをクリックします。
- 3. 使用可能なタグのリストからタグを選択します。
- 4. タグの削除をクリックします。



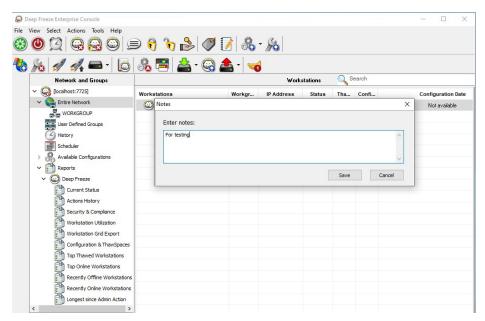
削除されたタグは、(ワークステーションからだけでなく) リストからグローバルに削除され、タグが割り当てられているコンピュータから自動的に削除されます。



## 注意事項

メモは、選択したワークステーションの情報を説明、注釈、または追加するために使用される追加のコンテキストまたは説明を提供します。

#### メモを追加



メモを追加するには、以下の手順を実行します:

- 1. グリッドからワークステーションを選択します。
- 2. ツールバーのメモアイコンをクリックします。
- 3. メモを入力してください (最大 260 文字まで)。
- 4. [保存] をクリックします。

グリッドのノート上にマウスを置くと、ノートがツールチップとして表示されます。 メモは1台のワークステーションにのみ適用できます。



# Deep Freeze タスクのスケジュール設定

Deep Freeze Enterprise は、2 種類の Deep Freeze タスクを提供しています。

- シングルタスク 1 点の Deep Freeze タスクのみを含みます。
- コンビネーションタスク 最大 5 点の Deep Freeze タスク ( 最長 20 時間 ) を含みます。コンビネーションタスクは即時実行することはできず、必ずスケジュールす る必要があります。

スケジュールタスクウィザードを使用して Enterprise コンソールでシングルタスクを スケジュールするには、次の手順を実行します。

- 1. 次のいずれかの方法で、スケジュールタスクウィザードを開きます。
  - > 「ネットワークとグループ」ペインの「スケジューラ」をクリックして、「タスクを 追加〕アイコンをクリックします。
  - > 「ネットワークとグループ ] ペインの [スケジューラ ] を右クリックして、 [タスク を追加〕を選択します。

次の画面が表示されます:



- 2. 優先タスクを選択するか、タスクを選択して「次へ」をクリックします。Deep Freeze では次のタスクを実行できます。。
  - > コンビネーションタスク
  - > 再起動
  - > シャットダウン
  - > Wake-on-LAN
  - > Frozen で再起動
  - > Thawed で再起動
  - > Thawed Locked で再起動
  - > メッセージを送信
  - > ログインユーザー
  - > Windows Update を実行する
  - > 遠隔起動
  - > 転送と起動



- > 更新
- > ThawSpace のフォーマット
- 3. 以下の画面で、タスク名を入力して必要なタスクの実行スケジュールを選択します。 毎日、毎週、毎月、1回限定。タスク名は固有でなければなりません。2 つのタスク に同じ名前をつけることはできません。[次へ]をクリックします。



4. どのタスク実行を選択したかにより、以後の時間および日付設定オプションは異なります。[次へ]をクリックします。





5. 設定が終了したら、[完了]をクリックします。





初期設定によるタスクの開始時間は、現在の時間の5分後です。

スケジュールタスクウィザードを使用して Enterprise コンソールでコンビネーション タスクをスケジュールするには、次の手順を実行します。

- 1. 次のいずれかの方法で、*スケジュールタスクウィザード*を開きます。
  - > 「ネットワークとグループ」ペインの「スケジューラ」をクリックして、「タスク を追加しアイコンをクリックします。
  - > [ネットワークとグループ]ペインの[スケジューラ]を右クリックして、[タス クを追加]を選択します。

次の画面が表示されます:





- 2. [コンビネーションタスク]を選択して、[次へ]をクリックします。
- 3. 以下の画面で、タスク名を入力して必要なタスクの実行スケジュールを選択します。 毎日、毎週、毎月、1回限定。タスク名は固有でなければなりません。2 つのタスク に同じ名前をつけることはできません。[次へ]をクリックします。



4. どのタスク実行を選択したかにより、以後の時間および日付設定オプションは異なります。[次へ]をクリックします。



5. ドロップダウンからタスクを選択して時間を指定します。別のタスクを追加するには + 記号をクリックします。この手順を繰り返し、20 時間以内の範囲で最大 5 点のタスクを追加します。[次へ]をクリックします。



6. タスクリストを確認して[完了]をクリックします。

#### スケジュール済みタスクの編集

スケジュール済みタスクを編集するには、タスクを右クリックして [タスクの編集] を選択します。 [Deep Freeze タスクのスケジュール設定] の手順  $1 \sim 5$  を実行します。



# スケジュール タスクにクライアントを割り当てる

タスクをスケジュールすると、コンソールの [ネットワークとグループ] ペインの [スケジューラ] に表示されます。



タスクにクライアントを割り当てるには、コンソールの [クライアント] ペインからクライアントを選択して、タスクにドラッグします。または、グループをタスクにドラッグします。

特定のタスクにどのクライアントが割り当てられているかを表示するには、タスクをクリックします。割り当てられたクライアントが[クライアント]ペインに表示されます。

タスクからクライアントを削除するには、クライアントをクリックして、[削除]を押します。

## タスクの追加

タスクを追加するには、スケジューラーを右クリックして [タスクの追加] を選択します。

# タスクの編集

タスクを編集するには、タスクを右クリックして[タスクの編集]を選択します。

# タスクの一時停止

タスクを一時停止するには、スケジューラーを右クリックして [タスクの一時停止] を 選択します。

## タスクの再開

タスクを再開するには、スケジューラーを右クリックして [タスクの再開] を選択します。



### タスクの削除

タスクを削除するには、タスクを右クリックして[タスクの削除]を押します。

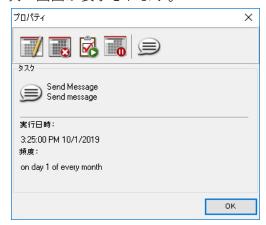
#### タスクをただちに実行する

タスクをただちに実行するには、タスクを右クリックして [タスクの実行] を選択します。

## スケジュールされたタスクのプロパティ

タスクのプロパティを表示するには、タスク名を右クリックして、[プロパティを表示] を選択します。

次の画面が表示されます。





ローカル サービスが有効化されており、ネットワーク接続が Enterprise コンソール終了時にシャットダウンされていない場合には、Enterprise コンソールが閉じていても、定期タスクは実行されます。



## ネットワークとグループの管理

コンソールでは、ワークグループまたはドメイン別に、クライアントを自動的に配列できます。該当するワークグループあるいはドメインをクリックすると、そのワークグループあるいはドメインのクライアントが表示されます。

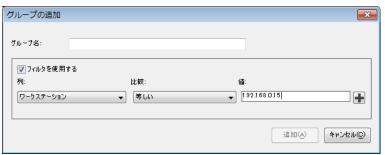
コンソールを使って特定のグループを定義することで、クライアントの配列整理ができます。

### グループの追加

[グループの追加]ダイアログでは、複数のフィルタを設定してワークステーションを 異なるグループにソートできます。このフィルタにより、選択されたパラメータの変更 に基づいてワークステーションのリストが自動的に更新されます。

フィルタを使用してグループを追加するには、次の手順を実行します。

- 1. [ネットワークとグループ]ペインの[ユーザー定義のグループ]を右クリックします。
- 2. [グループの追加]を選択します。[グループの追加]ダイアログが表示されます。



- 3. 「グループ名〕を指定します。
- 4. [カラム]を選択します。
- 5. [比較]を選択します。
- 6. [オプション](フィルタを追加する場合は、[および]/[または])を選択します。
- 7. 「値〕または「正規表現〕を指定します。
- 8. 「追加〕をクリックします。



# 次の表は、カラム、比較、オプション、値を示しています。

カラムの選択	比較の選択	オプションの選択	値または正規表現の指定
ワークステーション	等しい 等しくない 正規表現 が次を含む	および または	[値]または[正規表現] を指定します。
ワークグループ	等しい 等しくない 正規表現 が次を含む	および または	[値]または[正規表現] を指定します。
IPアドレス	等しい 等しくない 正規表現 が次を含む	および または	[値]または[正規表現] を指定します。
ステータス	等しい 等しくない	および または	Frozen Frozen ロック Thawed Thawed ロック Windows Update の適用 バッチファイルの適用 Thawed 期? メンテナンスモード ライセンス期限が切れ WKS シード オフライン
タグ	等しい 等しくない	およびまたは	[値]または[正規表現] を指定します。
注意事項	が次を含む	および または	[値]または[正規表現] を指定します。
設定	等しい 等しくない 正規表現 が次を含む	および または	[値]または[正規表現] を指定します。



カラムの選択	比較の選択	オプションの選択	値または正規表現の指定
設定日	等しい 等しくない 大きい 以上 未満 以下	および または	[日付]を指定します。
インストール ファ イル	等しい 等しくない 正規表現 が次を含む	および または	[値]または[正規表現] を指定します。
バージョン	等しい 等しくない 大きい 以上 未満 以下	および または	[値]または[正規表現] を指定します。
オペレーティングシ ステム	等しい 等しくない 正規表現 が次を含む	および または	[値]または[正規表現] を指定します。
MAC アドレス	等しい 等しくない 正規表現	および または	[ 値 ] または [ 正規表現 ] を指定します。
ログイン名	等しい 等しくない 正規表現	および または	[ 値 ] または [ 正規表現 ] を指定します。
Thawed 状態の時間 数	大きい 以上 未満 以下	および または	値を指定します。
フリーの非保護ス ペース (GB)	等しい 等しくない 正規表現	および または	[ 値 ] または [ 正規表現 ] を指定します。



### ユーザ定義グループ構造の作成

グループを追加した後、その下に1つ以上のサブグループを追加できます。さらに、 次の例のように、環境を区別する方法として、さらにサブグループを無限に追加でき ます。



#### アクティブ ディレクトリからグループをインポート

グループ構造がアクティブ ディレクトリ内にすでに設計されている場合は、その構造 を Enterprise コンソールに直接インポートすることができます。アクティブ ディレク トリからインポートするには、次の手順を実行します。

- 1. 「ツール ] > 「アクティブ ディレクトリからグループをインポート〕を選択するか、 サイドバーの [LDAP] アイコンをクリックします。
- 2. 次のダイアログが表示されます。[Microsoft] タブまたは [Novell] タブを選択しま



- 3. インポート場所である LDAP サーバ情報を入力します。匿名でログインするオプ ションもあります。このチェックボックスを選択しないと、ユーザ名とパスワード が必要とされます。
- 4. ネットワークにセキュリティで保護された LDAP を使用している場合、[ セキュリ ティで保護された LDAP] を選択します (セキュリティで保護された LDAP の詳細 については、https://support.microsoft.com/en-ca/kb/321051 を参照)。
- 5. 「接続〕をクリックします。「アクティブ ディレクトリ〕の階層が表示されます。必 要なエントリを選択して、「インポート」をクリックします。



#### 履歴

Enterprise コンソールにはターゲットコンピュータの履歴が保存されます。

コンピュータがネットワークから切断されていたり、シャットダウンまたは再起動すると、Enterprise コンソールでそのコンピュータに感嘆符 (!) が表示されます。コンピュータがオンラインに戻ると、感嘆符は消えます。

コンピュータが永久的にオフラインになると(例えば、コンピュータがネットワークから永久的に切断された場合)、またはコンピュータがシャットダウンすると、感嘆符は表示されたままになります。

Enterprise コンソールで、[ファイル] > [終了]を選択します。[閉じてネットワーク接続をシャットダウンする]というオプションを選択して、[OK]をクリックします。 Enterprise コンソールを再び開くと、感嘆符 (!) が付いたコンピュータは [履歴]に表示されます。Wake-on-LAN ハードウェアが搭載されたコンピュータがシャットダウンした場合、[履歴]でそのコンピュータを右クリックし、[Wake-on-LAN]を選択して、コンピュータをウェイクします。

#### 履歴のオプション:

- 履歴を表示するには、[ネットワークとグループ]ペインで[履歴]をクリックします。
- 履歴からコンピュータを削除するには、コンピュータを選択して、右クリックし、 コンテキストメニューから[履歴から削除]を選択します。

Wake-on-LAN を使ってコンピュータをウェイクするには、コンピュータ(複数可)を選択して、右クリックし、コンテキストメニューから [Wake-on-LAN] を選択します。



# グループヘクライアントの追加

クライアントをグループに追加するには、「クライアント ] ペインからドラッグ アンド ドロップするか、グループ作成時に自動フィルター セットを使用します。

自動グループ フィルタリングにより、ユーザ定義のグループにクライアントを自動的 に追加することができます。クライアントはそのクライアント(コンピュータ)名に基 づいて追加されます。

ワイルドカード (\*、?)を使用すると、名前の特定部分が該当するクライアントのグ ループを含めることができます。

例:  $\lceil Lab1-* \rceil$ と指定すると、 $\lceil Lab1- \rceil$  で始まるすべてのクライアントが追加されます。

#### グループをアルファベット順に並び替え

ユーザ定義グループをアルファベット順に並び替えるには、「ユーザ定義グループ」を 右クリックして、「グループをアルファベット順に並べ替え」を選択します。

#### ユーザ定義グループからクライアントを削除

グループからクライアントを削除するには、「ユーザ定義グループ」のクライアントを 右クリックして、「グループから削除」を選択します。

#### グループをファイルからインポートまたはエクスポート

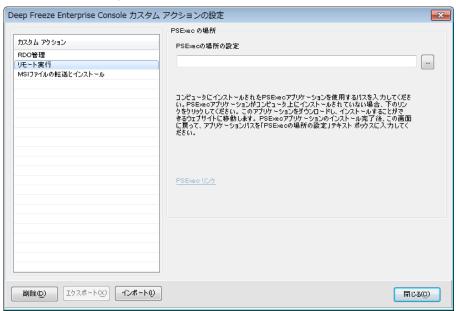
グループをファイルからインポート、またはファイルにインポートするには、[ツール] メニューからオプションを選択します。



## カスタム アクションの設定

### RDC 管理

このオプションにより、Microsoft のリモート デスクトップ プロトコルを使ってクライアントに接続できます。このプロトコルはターゲット コンピュータで有効になっている必要があります。

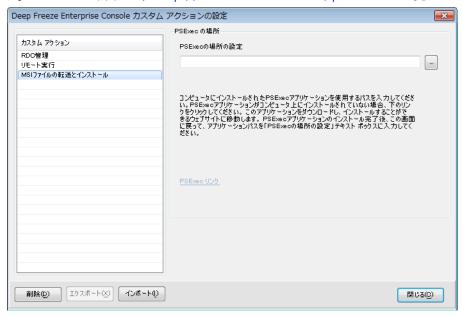


- 1. 「アクション】> 「カスタム アクション】を選択します。
- 2. [RDC 管理] を選択します。
- 3. [実行ファイルのパス]を入力するか、参照して場所を選択します。
- 4. 「作業ディレクトリーを入力します。
- 5. [適用]をクリックします。



#### リモート実行

リモート実行オプションにより、実行可能ファイルをクライアントでリモート実行できます。PsExec は、実行ファイルをクライアントでリモート実行するためのツールです。このツールをダウンロードして、クライアントにインストールされている必要があります。PsExec の詳細は、http://www.faronics.com/pstools をご覧ください。



#### 設定

- 1. [アクション] > [カスタム アクション] を選択します。
- 2. 「リモート実行」を選択します。
- 3. 「PSExec の場所〕を入力するか、参照して場所を選択します。
- 4. [実行ファイルのパス]と[作業ディレクトリ]が自動的に追加されます。この2つは後で変更できます。
- 5. 「閉じる〕をクリックします。

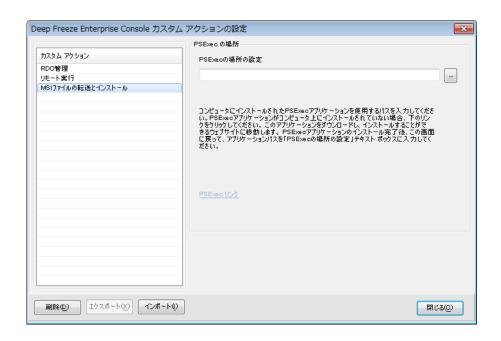
#### 実行

- 1. 「クライアント」ペインからクライアントを選択します。
- 2. [アクション][リモート実行]を選択します。
- 3.「リモート実行」ダイアログが表示されます。
- 4. [ユーザ名]、[ パ*スワード]、[コマンド]* を入力します。
- 5. *[OK]*をクリックします。



## MSI ファイルの転送とインストール

[MSI ファイルの転送とインストール] オプションにより、Enterprise コンソールから .msi ファイルをクライアントに転送してインストールできます。



#### 設定

- 1. [アクション] > [カスタム アクション]を選択します。
- 2. [MSI ファイルの転送とインストール] を選択します。
- 3. [PSExec の場所]を入力するか、参照して場所を選択します。
- 4. [実行ファイルのパス]と[作業ディレクトリ]が自動的に追加されます。この2つは後で変更できます。
- 5. [閉じる] をクリックします。

#### 実行

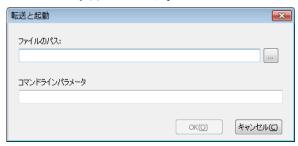
- 1. 「クライアント」ペインからクライアントを選択します。
- 2. [アクション] > [MSI ファイルの転送とインストール] を選択します。
- 3. [MSI ファイルの転送とインストール] ダイアログが表示されます。
- 4. [ユーザ名]、[ パスワード]、[ファイル名]、[ドライブ文字] を入力します。
- 5. [OK] をクリックします。



#### 転送と起動

管理されているワークステーション上のファイルを転送および起動できます。 管理されているワークステーション上のファイルを転送および起動するには、次の手順を実行します。

- 1. 「ワークステーション」ペインから1つ以上のワークステーションを選択します。
- 2. 右クリックして、[ アクション ] > [ 転送と実行 ] を選択します。<math>[ 転送と起動 ] ダイアログが表示されます。



- 3. ファイルパスを参照の上選択するか、ファイルパスを指定します。
  - > [ファイル名とパス] ファイル名と、コンソールコンピュータ上のファイルの場所を示すパスを指定します。または、実行ファイルを参照の上選択します。サポートされるファイルタイプは、.exe(実行ファイル)および.msi(MSIインストーラ)です。MSIファイルは、デフォルトではインストールモードで実行されます。たとえば、実行可能な MyApplication.exe ファイルが C:/AppFolder にある場合は、[C:/AppFolder/MyApplication] を指定します。
- 4. 環境変数を伴うコマンドラインパラメータを指定します(オプション)。
  - > 引数 この実行ファイルに適用する引数を指定します。たとえば、実行ファイルをコマンドプロンプトから C:\AppFolder\MyApplication o logFile.log というコマンドで実行する場合、引数には -o logFile.log を指定します。.msi ファイルの場合は、MSIEXEC で.msi ファイルを起動する際に通常指定する引数を指定します。.msi ファイルに引数を指定しなかった場合、Deep Freeze が自動的に [/i](インストール)を付加します。また、Deep Freeze はすべての表示オプションを /qn(クワイエット、UI なし)で置換します。
- 5. [OK] をクリックします。

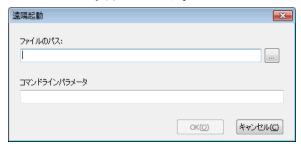
これによって、ファイルが選択されたワークステーションに転送され、選択されたワークステーション上で遠隔から起動されます。



#### 遠隔起動

管理されているワークステーション上のファイルを遠隔から起動および実行できます。 管理されているワークステーション上のファイルを遠隔から実行するには、次の手順を 実行します。

- 1. 「ワークステーション」ペインから1つ以上のワークステーションを選択します。
- 2. 右クリックして、[アクション]>[リモート実行]を選択します。[リモート実行] ダイアログが表示されます。



- 3. ファイルパスを参照の上選択するか、ファイルパスを指定します。
  - > [ファイル名とパス] ファイル名と、コンソールコンピュータ上のファイルの場所を示すパスを指定します。または、実行ファイルを参照の上選択します。サポートされるファイルタイプは、.exe(実行ファイル)および.msi(MSIインストーラ)です。MSIインストーラは、デフォルトではインストールモードで実行されます。たとえば、実行可能な MyApplication.exe ファイルが C:/AppFolderにある場合は、[C:/AppFolder/MyApplication] を指定します。
- 4. 環境変数を伴うコマンドラインパラメータを指定します(オプション)。
  - > 引数 この実行ファイルに適用する引数を指定します。たとえば、実行ファイルをコマンドプロンプトから C:\AppFolder\MyApplication o logFile.log というコマンドで実行する場合、引数には -o logFile.log を指定します。.msi ファイルの場合は、MSIEXEC で .msi ファイルを起動する際に通常指定する引数を指定します。.msi ファイルに引数を指定しなかった場合、Deep Freeze が自動的に [/i](インストール)を付加します。また、Deep Freeze はすべての表示オプションを /gn(クワイエット、UI なし)で置換します。
- 5. [OK] をクリックします。

これによって、選択されたワークステーション上でファイルが遠隔から実行されます。

## カスタム アクションの削除、インポート、エクスポート

#### カスタム アクションの削除

カスタムアクションを削除するには、次の手順を実行します。

- 1. [アクション]>[カスタム アクション]を選択します。
- 2. 削除するカスタム アクションを選択します。
- 3. 「削除〕をクリックします。

#### カスタム アクションのインポート

カスタムアクションをインポートするには、次の手順を実行します。

- 1. 「アクション ] > [カスタム アクション ] を選択します。
- 2. [インポート] をクリックします。
- 3. 参照して、インポートする .xml ファイルを選択します。
- 4. 「開く」をクリックして、ファイルをインポートします。

#### カスタム アクションのエクスポート

カスタム アクションをエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1. 「アクション】> 「カスタム アクション】を選択します。
- 2. エクスポートするカスタム アクションを選択します。
- 3. [エクスポート]をクリックします。
- 4. 「カスタム アクションをファイルへエクスポート」ダイアログが表示されます。
- 5. [ファイル名] を指定して、[保存] をクリックします。



#### **Console Customizer**

Console Customizer により、コンソールで使用したい機能とコマンドを指定して、新しいコンソールとして保存し、組織内で配布することができます。

使用できる設定はカテゴリ別(コンソール機能、クライアントコマンド、Deep Freeze コマンド、クライアントのインストールとアンインストールコマンド、スケジューラーコマンド)にグループ化できます。各カテゴリの左側にあるプラス (+) 記号をクリックすると、カテゴリで使用できる設定がすべて表示されます。

必要に応じて、個々のチェックボックスを選択または選択解除します。また、一度にカテゴリ全体を選択または選択解除することもできます。選択解除されている設定は、新規作成する Enterprise コンソールでは使用できません。Console Customizer の実際の使用例は、付録 D を参照してください。

機能制限されたコンソールを作成するには、次の手順を実行します。

- 1. [ツール] > [Console Customizer] を選択します。
- 2. [Console Customizer] が表示されます。



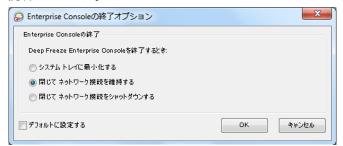
- 3. 新しいコンソールに含める機能を選択します。
- 4. [名前をつけて保存] をクリックして、コンソールを保存します。ファイルの名前を指定します。
- 5. 作成したばかりの .exe ファイルをダブルクリックすると、機能制限されたコンソールが起動します。



# Deep Freeze Enterprise コンソールのシャットダウン

Deep Freeze コンソールをシャットダウンするには、「ファイル ] > 「終了 ] を選択す るか、ウィンドウを閉じるボタンをクリックします。終了する際に、次のオプション を選択できます。

- システムトレイに コンソールを最小化する これによりコンソールは停止せず、接続は有効になったままとなります。Deep Freeze コンソールアイコンがシステム トレイに表示されます。定期タスクは今まで 通りに実行されます。Deep Freeze Enterprise コンソールを再び開くには、タス クバーにあるアイコンを右クリックして [Deep Freeze コンソールを元に戻す]を 選択します。
- Deep Freeze コンソールを閉じてネットワーク接続を維持する これによりコンソールは閉じますが、クライアントへの接続は有効なままとなりま す。定期タスクは今まで通りに実行されます。
- Deep Freeze コンソールを閉じてネットワーク接続をシャットダウンする これによりコンソール プロセスは停止し、接続(ローカル サービスを含む)は終了 し、定期タスクは実行されません。ただし、すでに実行開始している定期タスクは 続行されます。



「デフォルトに設定する〕オプションを選択すると、今後終了時にこのダイアログは表 示されません。これらの設定を変更するには、「ツール ]> 「終了オプション ] を選択 します。



# クライアントへの Deep Freeze のインストール

アドミニストレータを使用してカスタマイズ インストールプログラム ファイルを作成した後、Deep Freeze の展開は Attended Install (アテンデッド インストール)、Target Install (ターゲット インストール)、Silent Install System (サイレント インストールシステム) を使用するか、イメージングプロセスの一部として行うことができます。



インストール前には、すべてのバックグラウンドユーティリティおよびウイルス対策ソフトウェアを無効にし、すべてのアプリケーションを閉じる必要があります。これらのプログラムがインストール中に干渉すると、Deep Freeze が正しく動作しなくなることがあります。

インストールの方法にかかわらず、インストールの終了後にクライアントは再起動されます。どのような種類のアンインストールでも、正常に実行するには、必ず Deep Freeze の保護を解除しておく必要があります。

次の状態でアンインストールをすると、既存の非保護スペースは削除されます。

- アドミニストレータで非保護スペースの設定時に、[既存の非保護スペースを保持]を選択していない場合。
- 非保護スペースが、バージョン 5 以前の Deep Freeze Enterprise で作成されている場合。

#### クライアント コンピュータでのインストールおよびアンインストール

Deep Freeze をインストール (またはアンインストール) するには、次の手順を実行します。

- 1. クライアント コンピュータでインストール・プログラム (DFWks.exe) を実行します。次の画面が表示されます。
- 2. [インストール] をクリックして、インストールを開始します。次に表示される画面の手順に従います。ライセンス契約をよくお読みになり、同意します。Deep Freeze がインストールされて、クライアントが再起動します。



Deep Freeze をアンインストールするには、[アンインストール]をクリックします。[アンインストール]は、Deep Freeze がインストールされており、コンピュータが現在非保護状態の場合にのみクリックできます。既存の非保護スペースがあれば、Deep Freeze では、保持するか削除するかを尋ねるダイアログが表示されます。



ハードドライブの断片化が多すぎると、非保護スペースを作成することはできません。インストールを中止するか、非保護スペースなしで Deep Freeze をインストールするよう指示するメッセージが表示されます。

[Windows Update を完了するために、保護状態での再起動を遅らせる] (Configuration Administrator の [詳細オプション]タブ)を選択して、Deep Freeze をインストールすると、Windows Update が完了しているかどうかがインストーラによりチェックされます。Windows Update が完了していなければ、Deep Freeze のインストールは続行されません。その場合、Windows Update が完了したら、Deep Freeze を再度インストールしてください。

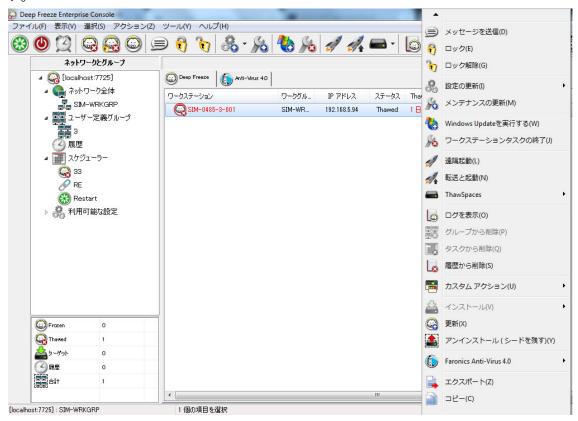


[Windows Update を完了するために、保護状態での再起動を遅らせる] を無効にして、Deep Freeze をインストールした場合、Deep Freeze を使用せずに、すべての Windows Update が完了していることを確認します。このオプションを無効にすると、Windows Update が完了していないことから、コンピュータが再起動サイクルから抜けられなくなる可能性があります。



## コンソールからクライアントの Deep Freeze のアンインストール

コンソールを使用して、Deep Freeze を完全にアンインストール、あるいは、シードを残したまま Deep Freeze をアンインストールできます。該当するクライアント コンピュータは、アンインストールを開始する前に非保護モードにしておく必要があります。



シードを残して Deep Freeze をクライアント コンピュータからアンインストールするには、非保護モードの該当クライアント名を右クリックし、[ アンインストール シードを残す ] を選択します。(上図参照)またはツールバーでアイコンをクリックしても同じです。

Deep Freeze とシードを完全にアンインストールするには、アンインストールするクライアントを選択して、ツールバーの *[アンインストール]*アイコンをクリックします。



Deep Freeze をアンインストールする前に必ずそのクライアント コンピュータが非保護モードであることを確認します。コンソールから確認を求められます。アンインストールの確認が行われると、Deep Freeze はアンインスールされ、クライアントコンピュータは再起動します。



## サイレント インストールおよびサイレント アンインストール

Deep Freeze ではサイレント インストール システムを使って、ネットワーク上の複数 のコンピュータに迅速にインストールすることが可能です。遠隔クライアントでコ マンド ラインが実行可能な展開ユーティリティであれば、サイレント インストールを 実行することができます。サイレント インストールが完了すると、コンピュータは即 座に再起動します。コマンドラインには次のようなオプションがあります。

構文	説明
[/Install]	インストール ファイルを使って Deep Freeze をインス トールする
[/Install /Seed]	指定したクライアント用シード ファイルのみをインストー ルする
[/Uninstall]	Deep Freeze をアンインストールする
[/Install /Thawed]	インストールファイルを使用して Deep Freeze をインストールし、Thawed 状態で起動します。
[/Uninstall /Seed]	クライアント用シードだけは残すが、Deep Freeze をアン インストールする
[/PW=password]	インストール時にパスワードを設定する *
[/AllowTimeChange]	ユーザに時間(時計)の変更を許可する*
[/Freeze=C,D,]	リストにあるドライバのみを保護にする (他は非保護)*
[/Thaw=C,D,]	リストにあるドライバのみを非保護にする (他は保護)*
[/USB]	外部 USB ハードディスクを保護から除外する
[/FireWire]	外部 FireWire ハードディスクを保護から除外する

## コマンド ラインの例

DFWks.exe /Install /Freeze=C /PW=password

この例では、Deep Freeze インストールプログラムファイルには *DFWks.exe* という名 前が付いています。C: ドライブのみが保護されます。他のドライブは非保護の状態を 保ちます。クライアントに C: ドライブしかない場合、[/Freeze] 部分は省略しても かまいません。インストールと同時にパスワード (password) も設定されます。コマ ンドを実行すると、Deep Freeze がインストールされて、コンピュータは保護モード で再起動され、すぐに使用することができます。

サイレント インストール システムは、[/Install] または [/Uninstall] スイッチが なければ機能しません。[/Uninstall] を行う際には必ず Deep Freeze を非保護にし てから行います。





設定コマンド ラインのオプションを実行するには、[アドバンスト オプション]タブの[コマンド ラインの無効化]オプションを選択解除する必要があります。



\* 初期設定でこれらのオプションは無効になっています。

## ショートカットを使ったサイレント インストールおよびアンインストール

インストール ダイアログを使用せずに Deep Freeze を直接クライアントにインストールするには、次の手順を実行します。

- 1. ターゲット クライアントで、Deep Freeze インストール ファイル (DFWks.exe) を探します。
- 2. アイコンを右クリックして[ショートカットの作成]を選択し、デスクトップにショートカットを保存します。
- 3. ショートカットを右クリックし、[プロパティ]を選択します。
- 4. パスの最後に /install または /uninstall と入力して、ターゲットフィールドのパスを編集します。

ショートカット ターゲットの例:

C:\Documents and Settings\DFWks.exe /install

作成したショートカットをダブルクリックすると、Deep Freeze のインストールまたはアンインストールがすぐに実行され、終了後クライアントが再起動します。

[/Uninstall] を行う際には必ず Deep Freeze を非保護にしてから行います。



ハードドライブの断片化が多すぎると、非保護スペースを作成することは できません。インストールは中止します。

## 複数のクライアントへのネットワーク インストール

サイレント インストールでは、ネットワークを介して Deep Freeze を複数クライアントにインストールすることができます。ネットワーク上のクライアントが、ログインスクリプトを使用している場合は、そのスクリプトを使って Deep Freeze をネットワーク上のすべてのクライアントに自動インストールできます。インストールが終了すると、クライアントコンピュータはすべて保護され、使用可能な状態で再起動します。

次のコマンドラインのいずれかを使って、インストール時のエラーをレポートするログファイルを生成できます。

\\Server Name\Share Name\DFWks.exe /Install >> my.log



## 既存の Deep Freeze バージョンへの上書き

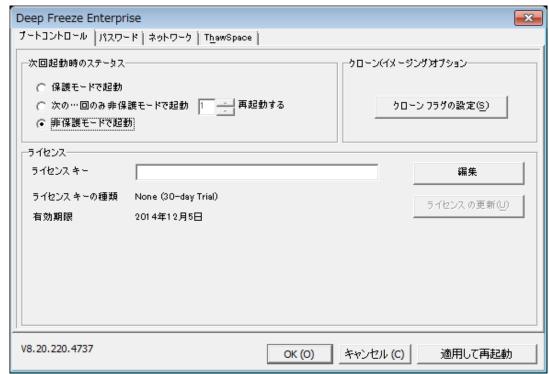
Deep Freeze ソフトウェアの更新機能が使用されていない限り (Deep Freeze 6.3 以降 )、新しい Deep Freeze をインストールする前に、既存の Deep Freeze のすべての バージョンをアンインストールする必要があります。

#### イメージングを使ったインストール

Deep Freeze は一般的なイメージング ソフトウェアおよびデスクトップ管理ソフトウェアと連携できるように設計されています。クライアントでのアテンデッド インストールまたはサイレント インストールにより、Deep Freeze をマスター イメージにインストールします。

Deep Freeze では、マスター イメージを最終決定する前に配置の準備をする必要があります。マスターイメージを配置のために準備するには、次の手順を実行します。

- 1. コンピュータを非保護状態で再起動します。
- 2. CTRL+ALT+SHIFT+F6 のキーボード ショートカットを使って、Deep Freeze を起動します。または、[SHIFT] キーを押したまま、システム トレイにある Deep Freeze のアイコンをクリックします。
- 3. パスワードを入力して、[OK] をクリックします。
- 4. [ブートコントロール] タブの [クローンフラグの設定] をクリックします。
- 5. [フラグが正常に設定されました。]というメッセージが表示されます。[今すぐマシンを再起動しますか?]というメッセージが表示されます。直ちにコンピュータを再起動するには、[はい]をクリックします。後でコンピュータを再起動するには、[いいえ]をクリックします。







[ クローンフラグの設定 ] は、イメージが正常にインストールされた後、 Deep Freeze が設定ファイルを読み込めなかった場合にコンピュータを Thawed 状態で起動するため、イメージング中において重要なコマンドで す。

クローンフラグが設定されておらず、Deep Freeze が設定ファイルを読み込めなかった場合、イメージが正常にインストールされた後、すべてのドライブは Frozen 状態になります。



Sysprep を使用する場合は、システムにおけるイメージングの準備後、および Sysprep 開始直前に必ずクローンフラグを設定します。

Deep Freeze でディスク設定の変更が正確に検知されるために、イメージング後に、クライアントを再起動しなければなりません。コンピュータが遠隔インストール モードでイメージングされた場合、クライアントが設定変更を受け入れるために再起動が必要となります。

イメージング終了後にクライアントを保護モードにするには、[非保護モードで起動次x回のみ]で回数を設定します。これにより、x回再起動した後、クライアントコンピュータは自動的に保護モードになります。または、Deep Freeze コマンドラインコントロールを使用して、選択したクライアントを保護します。

#### ターゲット インストール

Deep Freeze は、コンソールからターゲット インストールを使用して配置することもできます。



# アップデートをチェックする

Deep Freeze では、新しいバージョンがあるかどうかをチェックすることができます。 [ヘルプ]>[更新の確認]を選択します。これにより、Deep Freeze の新しいバー ジョンがあるかどうかが確認されます。



新しいバージョンがある場合、[最新バージョンのダウンロード]をクリックして Deep Freeze を更新します。



# Deep Freeze クライアントの管理

この章では、Deep Freeze がインストールされたクライアント コンピュータの管理について説明します。

### トピック

ログイン画面 ブートコントロール タブ パスワード タブ ネットワーク タブ 非保護スペース タブ ソフトウェアのインストール、変更、または削除

## ログイン画面

次のいずれかの方法でクライアント コンピュータの Deep Freeze にアクセスすることができます。

1. システムトレイに Deep Freeze アイコンが表示されている場合は、[SHIFT] キーを押したまま [Deep Freeze] アイコンをダブルクリックします。ステルスモードでDeep Freeze を実行しており、Deep Freeze アイコンが表示されていない場合、ログオンダイアログにアクセスするには、キーボードのショートカットCTRL+ALT+SHIFT+F6 を使用する必要があります。



2. 管理者のパスワードを入力して、[OK] をクリックすると、Deep Freeze にログインします。

セキュリティを万全にするため、10回連続で不正確なパスワードが入力されると、自動的にコンピュータが再起動して、総当たり攻撃を防ぎます。

# タッチスクリーンデバイスでの Deep Freeze の起動

タッチスクリーンデバイスで Deep Freeze を起動するには、CTRL+ALT+SHIFT+6 または CTRL+ALT+SHIFT+F6 を使用します。ただしショートカットを使用するには、あらかじめフルキーボードを有効化しておく必要があります。また、システムトレイをタッチアンドホールドして、Deep Freeze コンテキストメニューを起動することもできます。



#### ブートコントロール タブ

[ブートコントロール] タブには次のオプションがあります。

#### 次回起動時のステイタス

このタブでは次に再起動した後の Deep Freeze の保護 (または非保護) モードを設定できます。



次のいずれかのオプションを選択します。

- 保護モードで起動 次に再起動すると、Deep Freeze は保護モードで起動します。
- ・ 非保護モードで起動 ... 次 x 回のみ 指定した回数だけ Deep Freeze が非保護で起動します。指定した再起動の回数を超 えると、保護モードで起動します。
- 非保護モードで起動 次に再起動すると、Deep Freeze は非保護モードで起動します。

希望するオプションの横にあるラジオボタンを選択し、[OK] をクリックして変更を保存します。[適用して再起動]をクリックすると変更が保存され、クライアントはただちに再起動します。

#### クローン

このタブでは Deep Freeze 配置のためのマスターイメージの準備をします。詳細は、イメージングを使ったインストールの項を参照してください。



#### ライセンス

- 1. ライセンスキーを更新するには、[編集]をクリックして、[ライセンスキー]フィールドにライセンスキーを入力します。
- 2. [ライセンスの更新]をクリックします。これにより、Deep Freeze は評価版から ライセンス許諾版になります。[ライセンスキーの種類]フィールドにライセンス の種類が表示されます。[有効期限]にライセンスの有効期限が終了する日時が表示されます。
- 3. [今アクティベートする]をクリックします。次の2つのオプションがあります。



- > [オンラインでアクティベート]を選択すると、Deep Freeze ライセンスをオンラインでアクティベートできます。このオプションは手順1と同じです。このオプションを選択したら、[次へ]をクリックします。Deep Freeze は、[次へ]をクリックすると、オンラインでアクティベートされます。
- > [オフラインでアクティベート]は、電話または電子メールによるアクティベートです。このオプションを選択したら、[次へ]をクリックします。[オフラインでアクティベート]画面が表示されます。





4. 電話または電子メールで Faronics アクティベーションサポートに [アクティベート の詳細]を送信します。Faronics からアクティベートコードを受け取ったら、[ア クティベートコード]フィールドに入力し、[次へ]をクリックします。Deep Freeze ライセンスはこれでアクティベートされました。

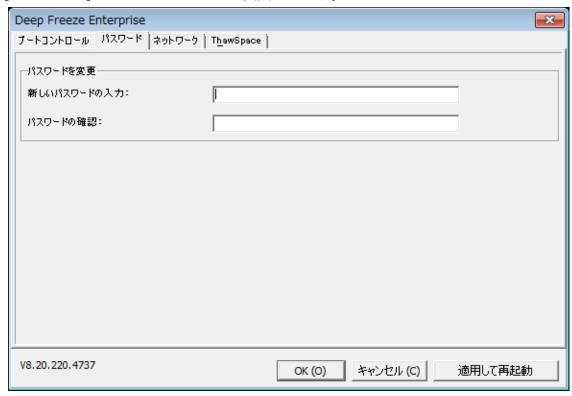


ライセンスキーは Enterprise Console と通信するすべてのコンピュータで自動的に更 新されます。コンピュータがオフライン(シャットダウンまたはネットワークから切断 されている状態)の場合、コンピュータが Enterprise Console と通信するとライセンス キーが更新されます。



# パスワード タブ

[パスワード] タブではパスワードを変更できます。

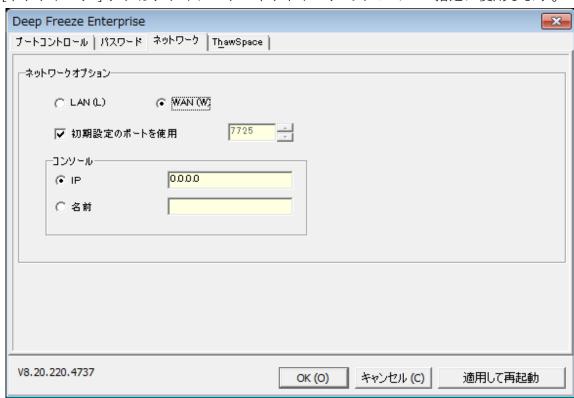


- 1. [新しいパスワードの入力] フィールドに新しいパスワードを指定します。
- 2. [パスワードの確認] フィールドに同じパスワードを再入力して、新しいパスワードを確認します。
- 3. [OK] をクリックします。
- 4. パスワードが変更され、確認のダイアログが表示されます。



# ネットワーク タブ

[ネットワーク] タブはクライアントのネットワーク オプションの指定に使用します。



LAN または WAN ボタンにより、通信方法を LAN または WAN のいずれかに設定しま す。

初期設定のポート番号は、[初期設定のポート使用]のチェックボックスを選択解除 すると、他のポート番号に変更できます。

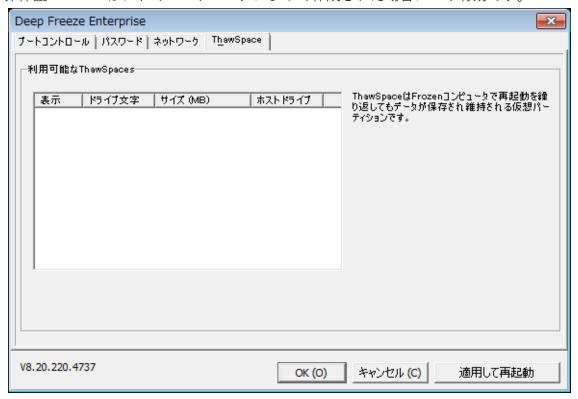
ネットワーク設定の詳細は、付録 B を参照してください。



# 非保護スペース タブ

[非保護スペース] タブでは、プログラムの保管、ファイルの保存、恒久的な変更などに使われる仮想パーティションをクライアント コンピュータに作成できます。非保護スペースに保存されたファイルは、そのクライアントが保護状態であっても、再起動後にも変更が保存されます。

非保護スペースはアドミニストレータによって作成された場合にのみ有効です。



Deep Freeze をアンインストールすると、すべての非保護スペースが表示されます。 Deep Freeze を再インストールすると、[非保護スペース]タブの元の設定に基づいて、非保護スペースは*表示*または*非表示*のいずれかになります。

次の状態でアンインストールをすると、既存の非保護スペースは削除されます。

- アドミニストレータで非保護スペースの設定時に、[既存の非保護スペースを保持]を選択していない場合
- 非保護スペースが、バージョン 5 以前の Deep Freeze で作成されている場合



## ソフトウェアのインストール、変更、または削除

さまざまな変更を恒久的に有効にする時には、コンピュータは非保護モードでなければなりません。ソフトウェアのインストールでは数回にわたる再起動が必要な場合があります。

Deep Freeze を使用すると、実稼働環境でのコンピュータの設定が維持され、管理者の作業が軽減されます。無許可の変更、ウィルスやマルウェアなどからコンピュータを保護して、常に起動可能な状態を保ちます。コンピュータを保護しながら、ユーザデータを維持できる機能もあります。

Deep Freeze の実装方法およびユーザ データの維持に関する詳細は、 http://www.faronics.com/library の Deep Freeze – Retaining User Data available (利用可能なユーザ データの維持) を参照してください。





# Anti-Virus の管理

この章では Enterprise コンソールを使った Anti-Virus のインストール方法および使用方法について説明します。

#### トピック

Anti-Virus 概要

Anti-Virus レポート

新しい Anti-Virus への移行

Enterprise Console を使った Anti-Virus の有効化

ワークステーションへの Anti-Virus クライアントのインストール

Anti-Virus の設定

Enterprise コンソールからの Faronics Anti-Virus の使用

Anti-Virus タスクのスケジュール設定

ワークステーションでの Anti-Virus の使用

Anti-Virus の更新の確認

Faronics Anti-Virus の更新

Anti-Virus 定義の更新

Enterprise コンソールからの Anti-Virus クライアントのアンインストール

Enterprise コンソールからの Faronics Anti-Virus の無効化



## Anti-Virus 概要

Anti-Virus は Enterprise Console からインストールして使用できます。Anti-Virus の使用はオプションです。Deep Freeze Enterprise は、Anti-Virus を使用しなくても、使用できます。

次のセクションについて説明します。

- Enterprise Console を使った Anti-Virus の有効化
- ワークステーションへの Anti-Virus クライアントのインストール
- Anti-Virus の構成
- Enterprise Console からの Anti-Virus の使用
- Anti-Virus タスクのスケジュール設定
- ワークステーションでの Anti-Virus クライアントの使用
- ・ 更新の確認
- Faronics Anti-Virus の更新
- ワークステーションからの Anti-Virus クライアントのアンインストール
- Enterprise Console を使った Anti-Virus の無効化



## Anti-Virus レポート

アンチウイルスレポートは、各ワークステーションのアンチウイルスバージョン、保護ステータス、Active Protection とファイアウォールのステータス、ウイルス定義のバージョン、および最終更新時間の概要を提供します。これには、最終スキャン日と最後に脅威が検出された日付も含まれます。

- アンチウイルス定義の更新状況:ワークステーション上のアンチウイルス定義の更新活動の詳細を表示します。
- アンチウイルスのステータス:ワークステーション上のアンチウイルス活動の詳細 を表示します。
- アンチウイルスのコンプライアンスと脅威:ワークステーションの検出数による脅威の履歴情報を表示します。
- アンチウイルスのスキャン履歴:過去のスキャンに関する履歴情報を表示します。
- アンチウイルス隔離:各ワークステーションで隔離されたアイテムに関する情報を表示します。



# 新しい Anti-Virus への移行

新しい Anti-Virus に移行するには、次の手順を実行します。

- 1. Legacy Anti-Virus のアンインストール
- 2. 新しい Anti-Virus ポリシーの設定
- 3. 新しい Anti-Virus のインストール



# Enterprise Console を使った Anti-Virus の有効化

Anti-Virus は Enterprise Console の一部として組み込まれ、Enterprise Console から有効にできるようになりました。そのためには Anti-Virus の別個のライセンスをご購入いただく必要があります。

Faronics Anti-Virus を有効にするには、次の手順を実行します。

- 1. Deep Freeze Enterprise Console を起動します。
- 2. [ツール] > [ライセンス] > [Faronics Anti-Virus ライセンス] を選択します。



- 3. [Deep Freeze Console を使って Faronics Anti-Virus を管理する] チェックボックスを選択します。
- 4. [編集]をクリックします。
- 5. ライセンスキーを入力して、「ライセンスの更新〕をクリックします。
- 6. [閉じる]をクリックします。Anti-Virus インストーラファイルがダウンロードされます。[ワークステーション]ペインに Anti-Virus の欄が表示されます。Anti-Virus サブノードが [ネットワークとグループ]ペインの [利用可能な設定]の下に追加されます。



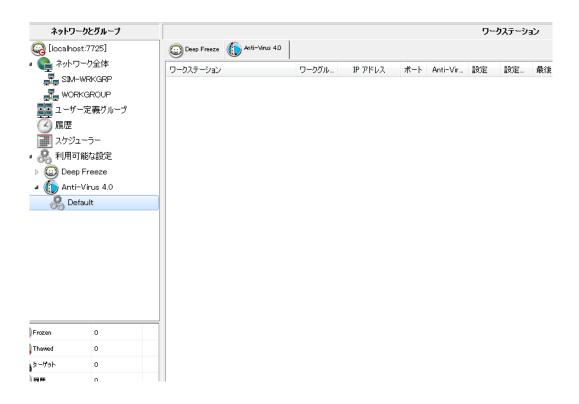
# ワークステーションへの Anti-Virus クライアントのインストール

ワークステーションに Anti-Virus をインストールする前に、Deep Freeze ワークステーションインストールファイルまたは Deep Freeze シードがワークステーションに展開されており、ワークステーションが非保護状態であることを確認してください。ワークステーションに Anti-Virus をインストールするには、次の手順を実行します。

- 1. [ ワークステーション ] ペイン > [Anti-Virus] タブの順に選択して、ワークステーション (複数可)を選択します。
- 2. メニューバーの Anti-Virus アイコンをクリックして、[Faronics Anti-Virus のインストール]を選択します。
- 3. [Faronics Anti-Virus をインストールする前に、互換性のないアンチウイルス製品を削除する] チェックボックスを選択して、既存のアンチウイルスプログラムを削除します。
- 4. [OK] をクリックして、操作を確認します。

ワークステーションが再起動し、Anti-Virus クライアントがワークステーションにインストールされます。

Anti-Virus オプションが [Anti-Virus] タブで有効になります。





## Anti-Virus の設定

Anti-Virus の設定には、Anti-Virus がワークステーションで実行される方法に関するすべての設定が含まれています。プログラムによるアクション、スケジュール、プロキシサーバー、エラー報告、およびワークステーション上でユーザーに許可された機能などがあります。次のセクションで Anti-Virus の設定の作成と適用方法について説明します。

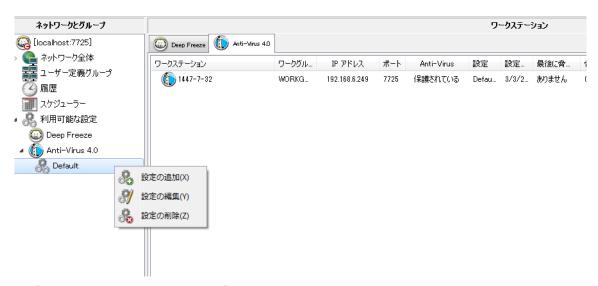


Anti-Virus にはデフォルトの設定があります。デフォルトの設定には、Anti-Virus を管理するための最適の設定が含まれています。

#### Anti-Virus の設定の作成

Anti-Virus の新しい設定を作成するには、次の手順を実行します。

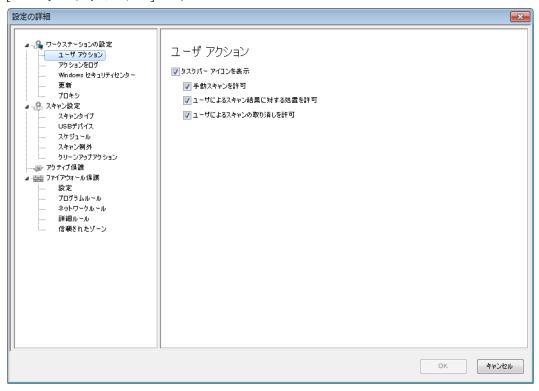
- 1. Enterprise コンソールを起動します。
- 2. [ ネットワークとグループ ] ペインで、[ 利用可能な設定 ] > [AntiVirus] の順に選択します。
- 3. 右クリックして、「新規設定の作成〕を選択します。



4. 「ワークステーションの設定〕ノードで、次の設定を指定します。



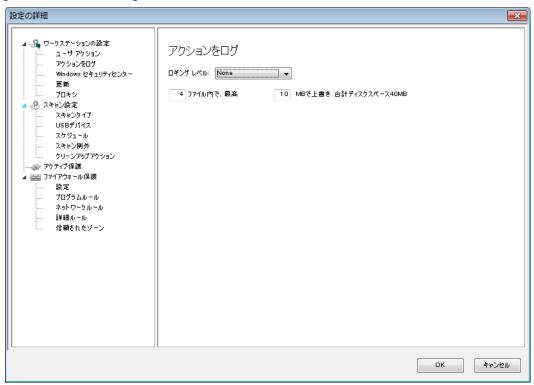
[ユーザーアクション]ペイン



- > [タスクバーにアイコンを表示する] Faronics Anti-Virus アイコンをワークス テーションのタスクバーに表示するには、このチェックボックスを選択します。 チェックボックスを選択しないと、Faronics Anti-Virus はユーザーに表示され ません。
  - ~ [手動スキャンを許可する] ユーザーがワークステーションで Faronics Anti-Virus のスキャンを手動で開始できるようにするには、このチェックボックスを選択します。
  - ~ [ユーザーによるスキャン結果への対応を許可する] ユーザーがワークス テーションでスキャン結果に応じた行動を取れるようにするには、この チェックボックスを選択します。
  - ~ [ローカルで開始したスキャンのユーザーによる中止を許可する] ワークス テーション上でローカルで開始したスキャンをユーザーが中止できるように するには、このチェックボックスを選択します。



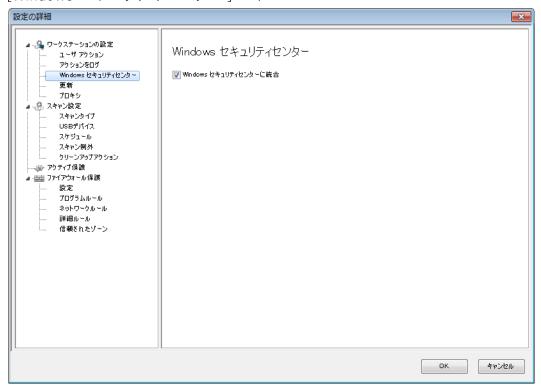
「アクションのログ」ペイン



- > [ロギングレベル]-ロギングレベルを選択します。ログを行わない場合は、[なし]を選択します。エラーメッセージのログを作成する場合は、[エラー]を選択します。トレースする場合は、[トレース]を選択します。詳細なログを作成する場合は、[詳細]を選択します。
- > [ロギングファイルの数] ロギングファイルの数を指定します。ログ情報はファイルに連続的に保存されます。たとえば、A、B、Cの3つのファイルがある場合、Faronics Anti-Virus は、まずファイルAにエラーログを書き込みます。ファイルAが満杯になると、ファイルBへ、次にファイルCの順に書き込みを行います。ファイルCが満杯になった場合はファイルAのデータが削除され、新しいロギングデータが書き込まれます。
- > 「ファイルのサイズ ] 各ファイルのサイズを MB で選択します。



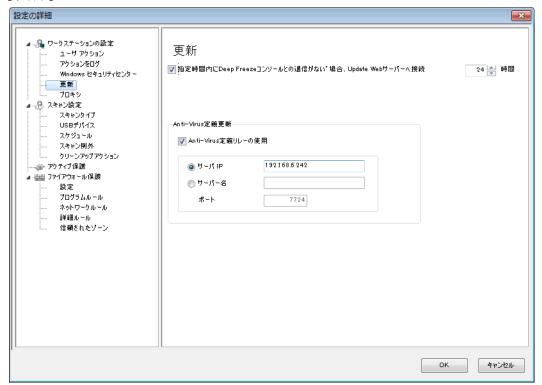
• [Windows セキュリティセンター] ペイン



> [Windows セキュリティセンターと統合する] – Faronics Anti-Virus を Windows セキュリティセンターに統合するには、このチェックボックスを選択します。 Windows セキュリティセンターは、Faronics Anti-Virus が有効化または無効化 されると、システムトレイでそのことを通知します。



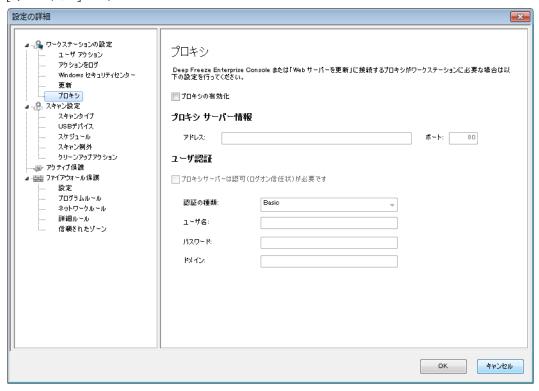
「更新」ペイン



> [過去 X 時間内に Faronics Core Server と通信していない場合は更新用 Web サーバーに接続する] – ワークステーションと Faronics Core Server との通信が途絶えている場合は、このチェックボックスを選択して、更新用 Web サーバーに接続してウイルス定義をダウンロードできるようにします。チェックボックスを選択しないと、ワークステーションと Faronics Core Server との通信が途絶えている限り、ウイルス定義は更新されません。



・ [プロキシ]ペイン



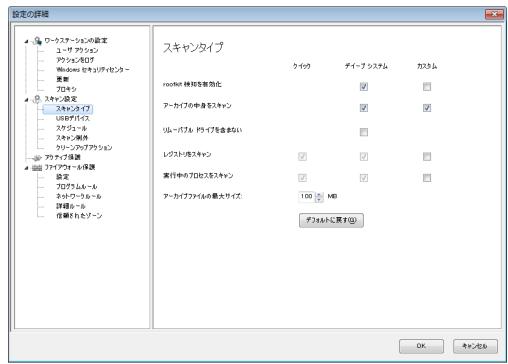
- > [プロキシの有効化] ワークステーションが Faronics Core Server または更新用 Web サーバーと通信する際にプロキシが必要な場合、このチェックボックスを選択します。
- > 「プロキシサーバー情報]-「アドレス]と「ポート」に値を指定します。
- > ユーザ認証

[プロキシサーバーは認可(ログオン信任状)が必要です]-サーバーで認証が必要な場合、次のフィールドに値を指定します。

- ~ 「認証の種類]-認証タイプを選択します。
- ~ [ユーザ名] ユーザー名を指定します。
- ~[パスワード]-パスワードを指定します。
- ~ [ドメイン]-ドメインを指定します。



- 5. 「スキャン〕ノードで次の設定を指定します。
- [スキャン設定]ペイン



Faronics Anti-Virus では、次の3種類のスキャンが利用できます。

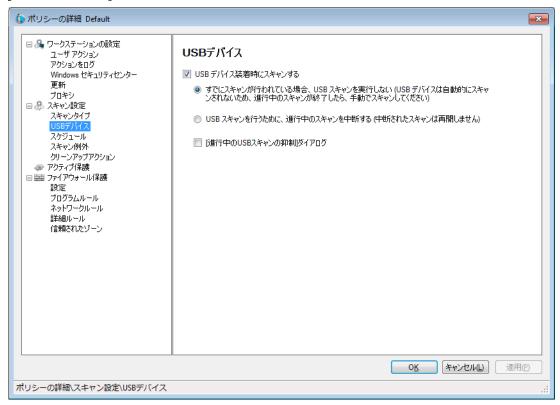
- > [ クイックスキャン] コンピュータの影響を受けやすい領域をスキャンします。 ディープシステムスキャンよりも短い時間でスキャンを完了できます。メモリの 使用量もディープスキャンより少なくすみます。
- > [ディープシステムスキャン] コンピュータのすべての領域を詳細にスキャンします。スキャンに要する時間は、ハードドライブのサイズによって異なります。
- > [カスタムスキャン]-[ポリシーの詳細]ダイアログでの選択に基づいて、スキャンします。

各タイプのスキャンごとに、次のオプションを選択します (タイプによってはグレーアウトされているオプションもあります)。

- > [ルートキット検出を有効化する] コンピュータがルートキットに感染している場合、それを検出します。
- > [アーカイブ内をスキャン] zip ファイルのコンテンツをスキャンします。スキャンの対象に、.RAR ファイルや .ZIP ファイルなどのアーカイブファイルを含めることができます。.RAR ファイルに感染したファイルが含まれていることがわかった場合、この .RAR は隔離されます。.ZIP ファイルに感染ファイルが含まれていることがわかった場合、感染ファイルは隔離されて .TXT ファイルに置換され、ウイルスへの感染と隔離を示すテキストが表示されます。[ファイルサイズの制限]を指定します。
- > [USB などのリムーバブルドライブを除外する]- スキャン対象から、リムーバブルドライブを除外します。外付けのハードディスクや USB ドライブなどが、スキャンされなくなります。
- > 「レジストリをスキャン ] レジストリをスキャンします。
- > [実行中のプロセスをスキャン] 実行中のすべてのプロセスをスキャンします。



#### 「USB デバイス ] ペイン



[USB デバイスの装着時にスキャンする] – USB デバイスの装着時にスキャンを行うには、チェックボックスを選択し、次のいずれかのオプションを選択します。

- > [すでにスキャンが行われている場合、USBスキャンを実行しない] USB デバイスの装着時に進行中のスキャンが中断されないようにするためには、このオプションを選択します。進行中のスキャンが終了したら、USB デバイスを手動でスキャンする必要があります。
- > [USB スキャンを行うために、進行中のスキャンを中断する] USB デバイスを装着時にスキャンするために進行中のスキャンを中断するには、このオプションを選択します。進行中のスキャンは自動的には再開されないため、手動で再開する必要があります。
- > [進行中の USB スキャンを抑制する] USB デバイスの装着時にウイルス対策ソフトがスキャンを実行していることを表示しないようにするには、このオプションを選択します。ウイルス対策ソフトのインターフェイスはどれも表示されず、システムトレイアイコンもスキャンを進行中であることを示すツールチップを表示しません。ウイルスが検出されるとスキャン終了時にユーザーに通知されますが、検出されなかった場合はスキャンの実行に関する通知は表示されません。

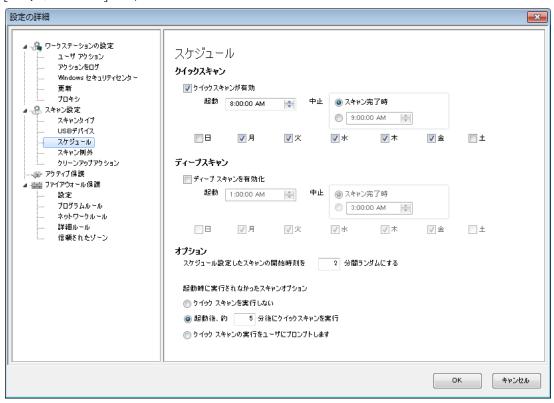
[USB デバイスの装着時にスキャンする] オプションを選択していないと、このオプションは無視されます。



[ワークステーション設定]タブ>[ユーザ アクション]ペインで[手動スキャンを許可]チェックボックスを選択した場合、USB デバイスは自動的にスキャンされます。[手動スキャンを許可]チェックボックスを選択しないと、USB デバイスは自動的にはスキャンされません。



「スケジュール」ペイン



#### クイックスキャン:

- > [ クイックスキャンを有効化する ] クイックスキャンを有効化するには、この チェックボックスを選択します。
- > 「開始]-開始時間を指定します。
- > [終了]-終了時間を指定します。*開始*時間から終了時間までに設定できる最長時間は 23.59時間です。終了時間前にすべてのファイルがスキャンされた場合、その時点でスキャンは終了します。終了時間前にスキャンが完了しなかった場合、スキャンは終了時間に中止されます。スキャンを確実に完了するには、[スキャンが完了した時点]を選択します。
- > [曜日] スケジュール設定したクイックスキャンを実行する曜日を選択します。 ディープスキャン:
- > [ディープスキャンを有効化する] ディープスキャンを有効化するには、この チェックボックスを選択します。
- > [開始] 開始時間を指定します。
- > [終了]-終了時間を指定します。*開始*時間から終了時間までに設定できる最長時間は 23.59時間です。終了時間前にすべてのファイルがスキャンされた場合、その時点でスキャンは終了します。終了時間前にスキャンが完了しなかった場合、スキャンは終了時間に中止されます。スキャンを確実に完了するには、[スキャンが完了した時点]を選択します。
- > [曜日] スケジュール設定したディープスキャンを実行する曜日を選択します。 オプション:
- > [スケジュール設定したスキャンの起動時刻をx分無作為化する]-分数を指定します。スケジュール設定したスキャンの開始時間を無作為化することで、ネットワークトラフィックに及ぼす影響を抑制します。スキャンが開始されると、



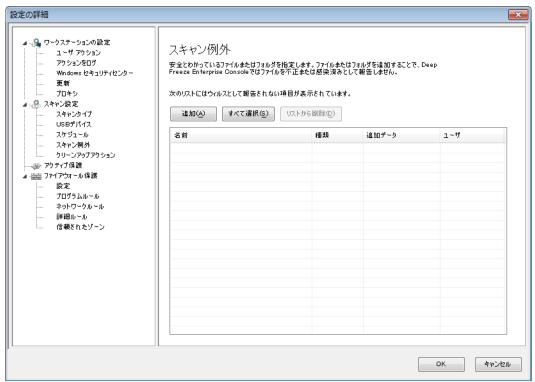
Faronics Anti-Virus が Faronics Core にレポートを送信します。複数のシステムを対象としたスキャンを同時に起動するように設定している場合、この送信によってネットワークトラフィックに悪影響が及ぶ可能性があります。

システム起動時に実行されなかったスキャンのオプション – スケジュール設定した時間にワークステーションが*オン*になっていなかった場合に、次のオプションのいずれかを選択して、どのようなスキャンを行うかを指定します。

- > [ クイックスキャンを実行しない ] システム起動時にクイックスキャンを実行しないようにするには、このオプションを選択します。
- > [システムが起動してから約x分後にクイックシステムを実行する] システムが起動した後に、Faronics Anti-Virus がクイックスキャンを開始するまでの分数を指定します。
- > [ クイックスキャンを実行するようにユーザーに指示する ] クイックスキャンを実行するようにユーザーに指示するには、このオプションを選択します。
- 「スキャン例外」ペインで次の設定を指定します

安全で感染していないことがわかっているフォルダまたはファイルは、[スキャン例外]タブに追加できます。[スキャン例外]タブに追加されたファイルは常に Faronics Anti-Virus によりスキャンされますが、それらのファイルは Faronics Anti-Virus により不正または感染ファイルとして報告されません。管理者にとって 安全であることがわかっているファイルやフォルダは不正ファイルとして報告され ないため、この機能は便利です。

A. [追加]をクリックします。

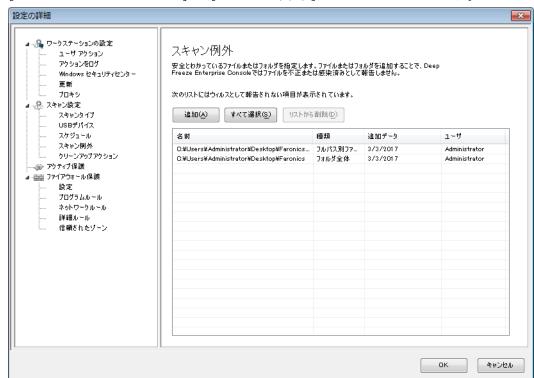




B. [追加]ダイアログで、[フルパスによるファイル]、[フォルダ全体]のいずれかを選択します。[参照]をクリックしてファイルまたはフォルダを選択し、 [OK] をクリックします。

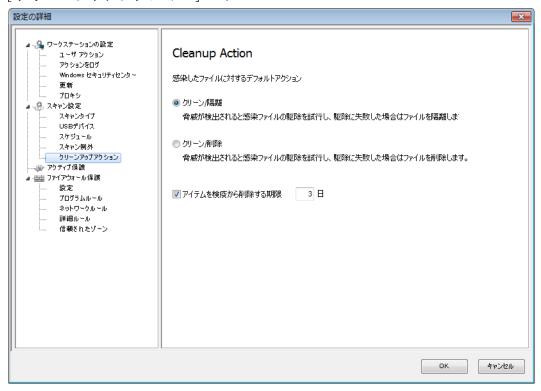


C. [フルパスによるファイル]が[スキャン例外]ペインに追加されます。





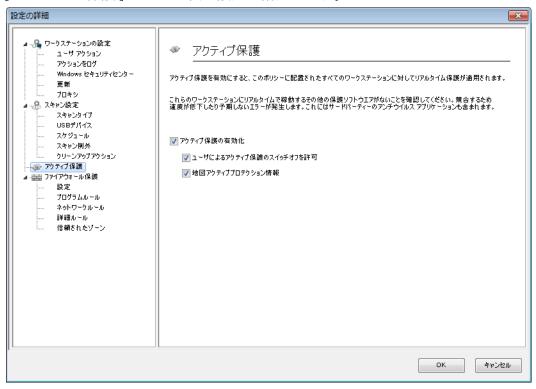
[クリーンアップアクション]ペイン



- > クリーン / 隔離 脅威が検出されると感染ファイルの駆除を試行し、駆除に失敗 した場合はファイルを隔離します。
- > クリーン / 削除 脅威が検出されると感染ファイルの駆除を試行し、駆除に失敗した場合はファイルを削除します。
- > [指定した日数を超えて隔離されている項目を隔離場所から削除する] 隔離場所に項目を保持する日数を指定します。デフォルトは3日です。



6. 「アクティブ保護」ペインで次の設定を指定します。



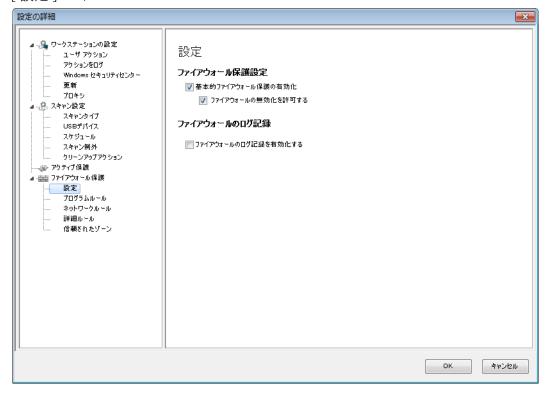
- [アクティブ保護を有効化する] リアルタイム保護を有効化するには、このオプションを選択します。アクティブ保護は、システムパフォーマンスに影響を及ぼすことなく、Faronics Anti-Virus によって、バックグラウンドで実行されるリアルタイムスキャンです。インターネットからリアルタイムでウイルスに感染するリスクが存在する場合は、このオプションを選択します。
  - > [ユーザーがアクティブ保護をオフにできるようにする] ユーザーがアクティブ 保護をオフにできるようにするには、このオプションを選択します。ウイルスと 間違えられる可能性のあるソフトウェアをユーザーがインストールまたは使用す る場合(たとえば Microsoft Office や複雑なバッチファイルで高度なマクロを実 行するなど)は、このオプションを選択します。
  - > [アクティブ保護アラートを表示する]-アクティブ保護中に脅威が検出されるとアラートが表示されるようにするには、このオプションを選択します。アラートを表示したくない場合は、このチェックボックスを選択しないでください。



7. [ファイアウォール保護]ノードで次の設定を指定します。

[ファイアウォール保護]ノードは、受信トラフィックおよび送信トラフィックの両方から、双方向の保護を提供します。ネットワークを保護するために、必要に応じたルールを作成することができます。通信に対し、[許可]または[ブロック]を選択します。

• [設定]ペイン



#### ファイアウォール保護設定

- > [ファイアウォール保護を有効化する] ファイアウォール保護を有効化するには、このチェックボックスを選択します。ファイアウォール保護により、ハッカーや悪意のあるソフトウェアがインターネットまたはネットワークを通じてコンピュータにアクセスすることを防ぎます。
  - ~ [ユーザーがファイアウォールを無効化できるようにする] ユーザーがコンピュータでファイアウォールを無効化できるようにするには、このオプションを選択します。

#### ファイアウォールのログ記録

> [ファイアウォールのログ記録を有効化する] – ファイアウォールに関連するすべてのアクションのログを作成するには、このオプションを選択します。

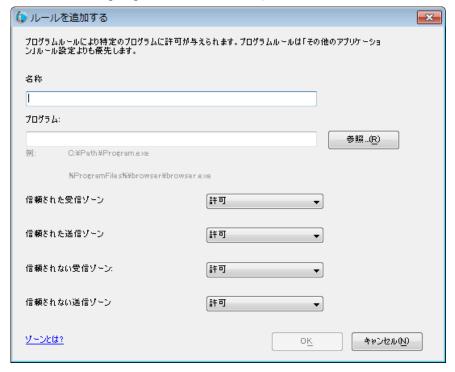


「プログラムルール」ペイン

プログラムルールは、ネットワークアクティビティとアプリケーションの間のファイアウォールのアクションを定義します。プログラムルールはデフォルトのルールよりも優先します。デフォルトのルールは編集できますが、削除はできません。



[追加]をクリックして、新しいプログラムルールを追加します。オプションを指定または選択し、「OK」をクリックします。次のパラメータが表示されます。

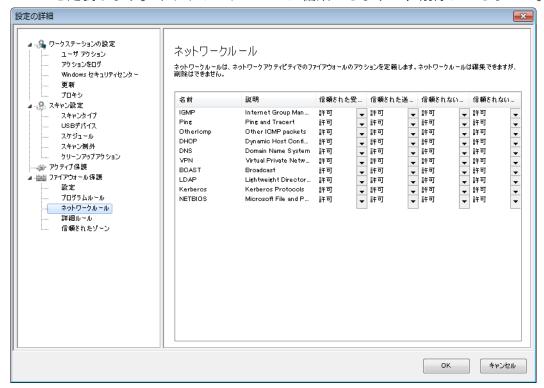


> [名前]-ルールの名前。



- > [プログラム]-フルパスと拡張子を含む、プログラムの名前。
- > [信頼されたゾーン受信] 信頼されたゾーンのプログラムへの通信に対して取られるアクション([許可]、[ブロック])。
- > [信頼されたゾーン送信] 信頼されたゾーンのプログラムからの通信に対して 取られるアクション([許可]、[ブロック])。
- > [信頼されないゾーン受信] 信頼されないゾーンのプログラムへの通信に対して取られるアクション([許可]、[ブロック])。
- > [信頼されないゾーン送信] 信頼されないゾーンのプログラムからの通信に対して取られるアクション([許可]、[ブロック])。
- 「ネットワークルール」ペイン

ネットワークルールは、ネットワークアクティビティでのファイアウォールのアクションを定義します。ネットワークルールは編集できますが、削除はできません。





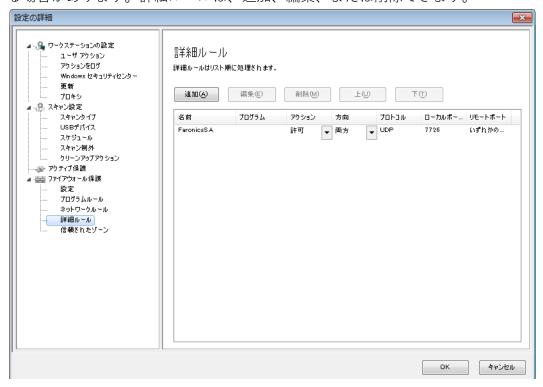
# 次の項目のネットワークルールを選択します。

名前	説明	信頼された受 信ゾーン	信頼された送 信ゾーン	信頼されない 受信ゾーン	信頼されない 受信ゾーン
IGMP	インターネットグ ループ管理プロト コル	[ 許可 ] または [ ブロック ] を 選択			
Ping	Ping および Tracert	[ 許可 ] または [ ブロック ] を 選択			
Otherlcmp	その他 ICMP パ ケット	[ 許可 ] または [ ブロック ] を 選択			
DHCP	動的ホスト構成プ ロトコル	[ 許可 ] または [ ブロック ] を 選択			
DNS	ドメインネームシ ステム	[ 許可 ] または [ ブロック ] を 選択			
VPN	仮想プライベート ネットワーク	[ 許可 ] または [ ブロック ] を 選択	[許可]または [ブロック]を 選択	[ 許可 ] または [ ブロック ] を 選択	[ 許可 ] または [ ブロック ] を 選択
BCAST	ブロードキャスト	[ 許可 ] または [ ブロック ] を 選択			
LDAP	ライトウェイト ディレクトリアク セスプロトコル	[ 許可 ] または [ ブロック ] を 選択			
Kerberos	ケルベロスプロト コル	[ 許可] または [ ブロック] を 選択	[許可]または [ブロック]を 選択	[ 許可 ] または [ ブロック ] を 選択	[ 許可 ] または [ ブロック ] を 選択
NETBIOS	Microsoft ファイ ルおよびプリンタ の共有	[ 許可] または [ ブロック] を 選択	[許可]または [ブロック]を 選択	[ 許可 ] または [ ブロック ] を 選択	[ 許可] または [ ブロック] を 選択



#### 「詳細ルール」ペイン

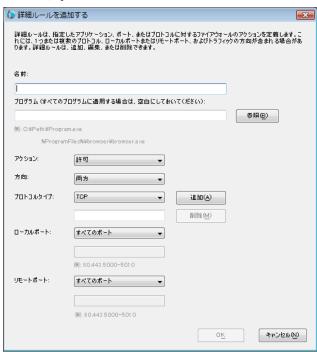
詳細ルールは、指定したアプリケーション、ポート、またはプロトコルに対するファイアウォールのアクションを定義します。これには、1 つまたは複数のプロトコル、ローカルポートまたはリモートポート、およびトラフィックの方向が含まれる場合があります。詳細ルールは、追加、編集、または削除できます。



[追加]をクリックして、新しい詳細ルールを追加します。オプションを指定または選択し、[OK]をクリックします。[詳細ルール]ペインに次のパラメータが表示



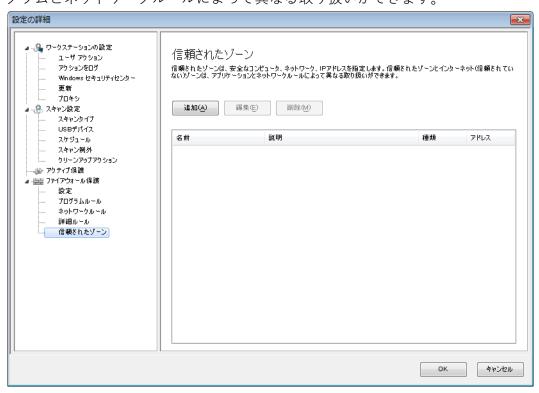
#### されます。



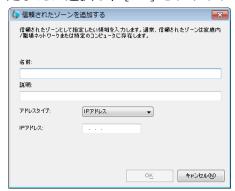
- > 「名前]-ルールの名前。
- > 「プログラム]-プログラムとパスの名前。
- > [アクション] 指定されたアプリケーション、ポート、またはプロトコルからの 通信に対して、ファイアウォールが取るアクション([許可]、[ブロック]、[プロンプト])。
- > [方向] 通信の方向([双方向]、[受信]、[送信])。
- > [プロトコル]-プロトコルの名前。
- > 「ローカルポート]-ローカルポートの詳細。
- > 「リモートポート]-リモートポートの詳細。
- ・ [信頼されたゾーン]ペイン



信頼されたゾーンは、信頼されたコンピュータ、ネットワーク、IP アドレスを指定します。信頼されたゾーンとインターネット(信頼されていない)ゾーンは、プログラムとネットワークルールによって異なる取り扱いができます。



[追加]をクリックして、新しい信頼されたゾーンを追加します。オプションを指定または選択し、[OK]をクリックします。次のパラメータが表示されます。



- > [名前] 信頼されたゾーンの名前。
- > 「説明] 信頼されたゾーンの説明。
- > [タイプ] 信頼されたゾーンのタイプ ([IP アドレス]、[ネットワーク])。
- 8. [OK] をクリックします。新しいポリシーである「新規ポリシー1」が [Anti-Virus] ノードの下に表示されます。

## Anti-Virus の設定の適用

Anti-Virus の設定を適用するには、次の手順を実行します。



- 1. 「ワークステーション」ペインを開きます。
- 2. 1台以上のワークステーションを選択します。
- 3. 1台以上のワークステーションで右クリックして、[設定を更新] > [Anti-Virus] > [設定の名前] を選択します。

設定が選択したワークステーションに適用されます。



設定の変更が自動的にオンラインのワークステーションに適用されます。 ワークステーションがオフラインの場合、設定の変更はワークステーショ ンがオンラインに戻ったときに適用されます。

## Anti-Virus の設定の編集

Anti-Virus の設定を削除するには、次の手順を実行します。

- 1. Enterprise コンソールで [ネットワークとグループ] ペインを選択します。
- 2. 「利用可能な設定] > [Anti-Virus] > [設定の名前] の順に選択します。
- 3. 選択した設定で右クリックして、[選択した設定の編集]を選択します。
- 4. 必要に応じて、設定を編集します。
- 5. [OK] をクリックします。

## Anti-Virus の設定の削除

Anti-Virus の設定を削除するには、次の手順を実行します。

- 1. Enterprise コンソールで「ネットワークとグループ」ペインを選択します。
- 2. [利用可能な設定] > [Anti-Virus] > [設定の名前]の順に選択します。
- 3. 選択した設定で右クリックして、「選択した設定の削除」を選択します。
- 4. [OK] をクリックします。



# Enterprise コンソールからの Faronics Anti-Virus の使用

Faronics Anti-Virus クライアントをワークステーションにインストールしたら、Deep Freeze コンソールからワークステーションにさまざまな操作を行えます。

### Anti-Virus コマンド

Deep Freeze コンソールからコマンドを実行するには 2 つの方法があります。

- Anti-Virus メニュー(メニューバー)
- Anti-Virus コンテキストメニュー(右クリックして表示されるコンテキストメニュー)

メニューコマンドについては、このセクションで詳しく説明します。

Anti-Virus メニューでは次のコマンドを使用できます。



同じコマンドが [ワークステーション]ペイン > [Anti-Virus] タブ > 右クリックによる コンテキストメニューで利用できます。





#### クイックスキャン

クイックスキャンはコンピュータの影響を受けやすい領域をチェックします。ディープシステムスキャンよりも短い時間でスキャンを完了できます。メモリの使用量もディープスキャンより少なくすみます。

- クイックスキャンを開始するには 1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[クイックスキャンを開始]を選択します。
- クイックスキャンを停止するには1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[クイックスキャンを停止]を選択します。
- クイックスキャンを一時停止するには1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[スキャンを一時停止]を選択します。
- クイックスキャンを再開するには

1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[スキャンを再開]を選択します。

#### ディープスキャン

ディープシステムスキャンはコンピュータのすべての領域を詳細にスキャンします。スキャンに要する時間は、ハードドライブのサイズによって異なります。

- ディープスキャンを開始するには1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[ディープスキャンを開始]を選択します。
- ディープスキャンを停止するには 1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[ディープスキャンを停止]を選択します。
- ディープスキャンを一時停止するには1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[スキャンを一時停止]を選択します。
- ディープスキャンを再開するには1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[スキャンを再開] を選択します。

#### 今すぐ修正

[今すぐ修正]オプションは、最新のウイルス定義をダウンロードして、ワークステーションでクイックスキャンを実行します。

今すぐ修正するには 1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[今すぐ修正]を選択します。



#### アクティブ保護

アクティブ保護 (AP) はリアルタイムでマルウェアを検出する方法です。AP はユーザーが作業中またはインターネットの閲覧中にバックグラウンドで静かに作動し、お使いのシステムに著しい負荷をかけずに、実行されているファイルをモニターします。

- アクティブ保護を有効にするには 1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[アクティブ保護の 有効化]を選択します。
- アクティブ保護を無効にするには 1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[アクティブ保護の 無効化]を選択します。

#### ファイアウォール

ファイアウォールは、受信トラフィックおよび送信トラフィックの両方から、双方向の保護を提供します。ファイアウォールは無許可の侵入からネットワークを保護します。

- ファイアウォールを有効化するには 1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[ファイアウォールの有効化]を選択します。
- ファイアウォールを無効化するには 1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[ファイアウォールの無効化]を選択します。

#### メッセージの送信

メッセージの送信オプションはオンラインワークステーションにメッセージを送信するために使用します。

・ メッセージを送信するには 1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[メッセージの送信]を選択します。

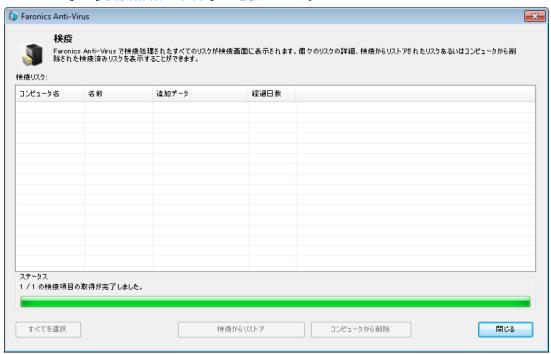
#### 検疫情報の表示

検疫はお使いのコンピュータにある安全な場所で、Faronics Anti-Virus によりその場所に除去できなかったマルウェアや感染したファイルが保存されます。その場所にファイルが保存された後に、コンピュータまたはコンピュータ上のファイルが正常に動作しない場合は、リスクの詳細を確認して、検疫から削除して、コンピュータ上の元の場所に戻すことができます。または、検疫からリスクを永久的に削除することもできます。



・ 検疫を表示するには

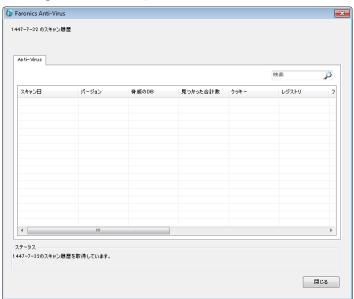
1台以上のワークステーションを選択します。右クリックして、[Faronics Anti-Virus] > 「検疫情報を取得〕を選択します。



#### スキャン履歴の表示

Faronics Anti-Virus スキャン履歴には、ワークステーション上で Faronics Anti-Virus が実行したすべてのタスクが表示されます。

ログ情報を表示するには、ワークステーションを選択して右クリックし[スキャン履歴の表示]を選択します。





## Anti-Virus タスクのスケジュール設定

予め定義されたスケジュールに基づいて、Deep Freeze コンソールから次の Anti-Virus タスクを実行できます。

- ・ アクティブ保護の無効化
- アクティブ保護の有効化
- クイックスキャンの開始
- ディープスキャンの開始

タスクをスケジュール設定する手順は [Deep Freeze タスクのスケジュール設定] のセクションで詳しく説明します。



# ワークステーションでの Anti-Virus の使用

ワークステーションで利用可能な Anti-Virus の機能は、Anti-Virus の設定で選択した内容に応じて異なります。Anti-Virus の設定に関する詳細は、[Anti-Virus の設定] を参照してください。

## ワークステーションでの Anti-Virus の起動

[スタート] > [プログラム] > [Faronics] > [Anti-Virus Enterprise] > [Faronics Anti-Virus Enterprise] の順に選択します。または、システムトレイの Faronics Anti-Virus アイコンをクリックすることもできます。



次のペインにユーザーに関する重要な情報が表示されます。

- [保護]または[非保護]は、コンピュータが保護されているかどうかを示します。[ 非保護]が表示されている場合、[非保護]サインの下にある[今すぐ修正]ボタン をクリックします。
- [スキャンステータス]は最後のスキャンが実施された日時を示します。今すぐスキャンするには、[今すぐスキャン]リンクをクリックします。
- [更新ステータス]は最後の更新が行われた日時を示します。今すぐ更新するには、 「今すぐ更新]リンクをクリックします。
- 「アクティブ保護」はリアルタイム保護が有効になっているかどうかを示します。
- [ファイアウォール保護]はワークステーションがファイアウォールで保護されているかどうかを示します。
- [リスク検出統計] は Faronics Anti-Virus が取ったアクションの統計値を示します。 数値をゼロにリセットするには、「数のリセット〕をクリックします。



## ワークステーションのスキャン

ワークステーションをスキャンするには、次の手順を実行します。

1. [スタート] > [プログラム] > [Faronics] > [Anti-Virus Enterprise] > [Faronics Anti-Virus Enterprise] の順に選択します。または、システムトレイの Faronics Anti-Virus アイコンをクリックすることもできます。



2. [スキャンステータス]ペインで、[今すぐスキャン]をクリックします。[スキャン]ダイアログが表示されます。または、[スキャン]タブをクリックすることもできます。





- 3. 次のいずれかのオプションを選択します。
  - > 「クイックスキャン]- 既知の脅威のみをスキャンします。
  - > [ディープシステムスキャン] ワークステーション上のすべてのファイルを詳細にスキャンします。
  - > 「カスタムスキャン」(次のいずれかを選択します):
    - ~ [実行中のプロセスをスキャン] ワークステーションで実行中のプロセスを スキャンします。
    - ~ [レジストリをスキャン] レジストリをスキャンします。
    - ~ スキャンするドライブとフォルダを指定:[参照]をクリックして、フォルダ を選択します。
- 4. [今すぐスキャン]をクリックします。スピンしているアイコンはスキャンが進行中であることを示します。スキャンが完了するとスキャンの結果が表示されます。
- 5. ファイルを選択します。次のオプションが利用できます。
  - > Faronics Anti-Virus により推奨されるアクションを実行するには、[ クリーンアクションの変更 ] > [ 推奨アクション ] を選択します。
  - > ファイルの検疫またはウイルス除去を行うには、[クリーンアクションの変更]> [検疫/ウイルス除去]を選択します。
  - > ファイルを削除するには、[ クリーンアクションの変更 ] > [ 削除 ] を選択します。
  - > ファイルを許可するには、[クリーンアクションの変更]>[許可]を選択します。
  - > [スキャン結果]に表示されたすべてのファイルを選択するには、[すべて選択] を選択します。
  - > リスクの詳細を表示するには、[詳細]をクリックします。
  - > アクションを実行せずにダイアログを終了するには、[キャンセル]をクリックします。
  - > ファイルを削除してダイアログを終了するには、[クリーン]をクリックします。

## 右クリックを使ったファイルまたはフォルダのスキャン

ファイルまたはフォルダ (1 つまたは複数 ) は簡単にウイルススキャンできます。 Faronics Anti-Virus をワークステーションにインストールすると、右クリックメニュー に [ ウイルススキャン ] オプションが追加されます。

コンピュータ上のファイルまたはフォルダをスキャンするには、次の手順を実行します。

- 1. ファイルまたはフォルダを右クリックします。
- 2. 「ウイルススキャン〕を選択します。
- スキャンが実行され、結果が表示されます。

## スキャン履歴の表示

スキャン履歴を表示するには、次の手順を実行します。

1. [ スタート] > [ プログラム] > [ Faronics] > [ Anti-Virus Enterprise] > [ Faronics Anti-Virus Enterprise] の順に選択します。または、システムトレイの Faronics Anti-Virus アイコンをクリックすることもできます。



2. [履歴] タブをクリックします。



- 3. 次のオプションを選択します。
  - > リスクが検出されたスキャンのみを表示する リスクが検出されたスキャンのみを表示するには、このオプションを選択します。
  - > 詳細 スキャンの詳細を表示するには、エントリを選択して、[詳細]を選択します。

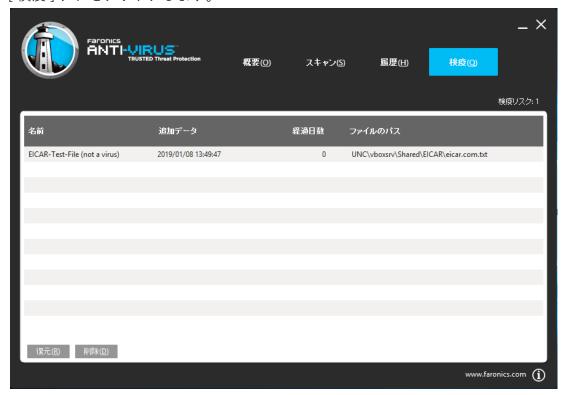
## 検疫済みのファイルの表示と操作

検疫を表示するには、次の手順を実行します。

1. [スタート] > [プログラム] > [Faronics] > [Anti-Virus Enterprise] > [Faronics Anti-Virus Enterprise] の順に選択します。または、システムトレイの Faronics Anti-Virus アイコンをクリックすることもできます。



2. [検疫]タブをクリックします。



- 3. [リスクの詳細]をクリックします。感染した各ファイルに関して、次の情報が表示されます。
  - > 名前
  - > 追加データ
  - > 経過日数
- 4. 次のオプションを選択します。
  - > 詳細 感染ファイルの詳細を表示するには、ファイルを選択して、[詳細]をクリックします。これにより推奨される対処方法も表示されます。

## ワークステーション上の Anti-Virus 定義の更新

ワークステーションの Anti-Virus 定義を更新するには、次の手順を実行します。

1. [ スタート] > [ プログラム] > [ Faronics] > [ Anti-Virus Enterprise] > [ Faronics Anti-Virus Enterprise] の順に選択します。または、システムトレイの Faronics Anti-Virus アイコンをクリックすることもできます。





2. [更新ステータス]ペインで、[今すぐ更新]をクリックします。[今すぐアップ デート]ダイアログが表示されます。



3. [更新のインストール]をクリックします。ワークステーションでウイルス定義が 更新されます。

## システムトレイを使ったワークステーション上の Anti-Virus の管理

Faronics Anti-Virus はシステムトレイから使用できるメニューを使ってワークステーション上で管理できます。

システムトレイの Faronics Anti-Virus アイコンをクリックします。次のオプションがあります。

- Faronics Anti-Virus を開く ワークステーション上の Faronics Anti-Virus を起動します。
- アクティブ保護「アクティブ保護]>[アクティブ保護の有効化]-アクティブ保護を有効化します。



- > [アクティブ保護]>[アクティブ保護の無効化]>オプションの選択-アクティブ保護が無効になっている時間を選択します。[5分]、[15分]、[30分]、[1時間]、[コンピュータが再起動するまで]、<math>[永久]のいずれかを選択します。このオプションは Anti-Virus ポリシーで選択されている場合にのみ表示されます。
- [今すぐスキャン] > オプションの選択 [スキャンをキャンセル]、[クイックスキャン]、[ディープスキャン]のいずれかを選択します。このオプションはAnti-Virus ポリシーで選択されている場合にのみ表示されます。
- [ファイアウォール保護]>[有効化]または[無効化]



# Anti-Virus の更新の確認

Deep Freeze コンソールでは、Faronics Anti-Virus の新しいバージョンがあるかどうかをチェックすることができます。

 $[ \land n ) > [ 更新の確認] を選択します。これにより、Faronics Anti-Virus の新バージョンがあるかどうかがチェックされます。$ 



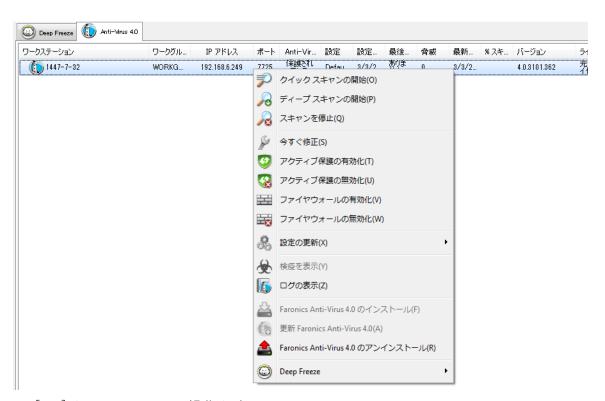
新しいバージョンがある場合、[最新バージョンのダウンロード]をクリックしてFaronics Anti-Virus を更新します。



## Faronics Anti-Virus の更新

更新を確認して新しいバージョンがあった場合、ワークステーションのバージョンを更 新するには、次の手順を実行します。

- 1. [ワークステーション]ペインの[Anti-Virus]タブを選択します。
- 2. ワークステーション(複数可)を選択します。
- 3. 右クリックして、[Faronics Anti-Virus の更新]を選択します。



4. [OK] をクリックして、操作を確認します。

ワークステーションが再起動して、Faronics Anti-Virus クライアントがワークステーションで更新されます。



## Anti-Virus 定義の更新

Faronics Anti-Virus のインストール時には Anti-Virus 定義サーバーも Deep Freeze Console のインストール先であるコンピュータにインストールされます。この Anti-Virus 定義サーバーから最新のウイルス定義がダウンロードされ、Deep Freeze 管理下のワークステーションへと配信されます。

ウイルス定義を更新するには、次の手順を実行します。

- 1. Deep Freeze コンソールを起動します。
- 2. 「ツール ] > [Anti-Virus 定義 ] の順に進みます。
- 3. 次の設定とアクションが可能です。



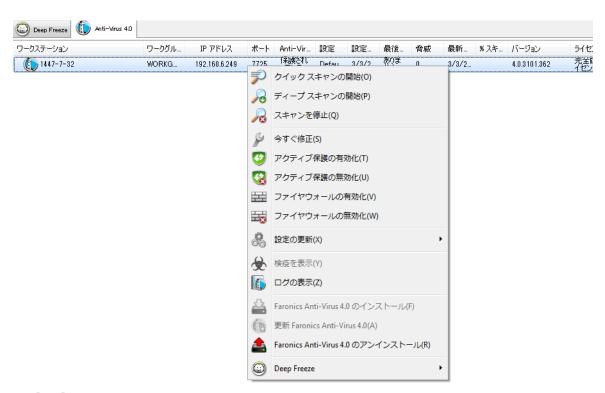
- > Anti-Virus 定義バージョン 現在の Anti-Virus 定義バージョンが表示されます。
- > 更新設定 [自動更新]チェックボックスを選択して時間の値を入力します。
- > 更新設定の確認 最後に更新が確認された日時および次回更新が確認される日時が表示されます。ウイルス定義をすぐに更新するには、[今すぐ更新する]をクリックします。更新ステータスが表示されます。
- > Cache Server の詳細 現在のバージョンと最後に更新が確認された日時が表示されます。Cache Server を自動的にダウンロードし最新の定義に更新する場合は、[Cache Server を自動更新]チェックボックスを選択します。Cache Serverをすぐに更新するには、[今すぐ更新する]をクリックします。
- 4. [OK] をクリックします。



# Enterprise コンソールからの Anti-Virus クライアントのアンインストール

Enterprise コンソールからワークステーション上の Faronics Anti-Virus をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1. [ワークステーション]ペインの[Anti-Virus]タブを選択します。
- 2. ワークステーション(複数可)を選択します。
- 3. 右クリックして、[Faronics Anti-Virus のアンインストール] を選択します。



4. [OK] をクリックして、操作を確認します。

ワークステーションが再起動して、ワークステーション上の Faronics Anti-Virus クライアントが削除されます。

Anti-Virus クライアントをワークステーションからアンインストールしても、Deep Freeze Seed はそのまま残ります。



Anti-Virus クライアントがワークステーションにインストールされているときは、Deep Freeze Seed はアンインストールできません。



# Enterprise コンソールからの Faronics Anti-Virus の無効化

Anti-Virus を使用する必要がなければ、Enterprise コンソールから無効にすることができます。

Enterprise コンソールからワークステーション上の Faronics Anti-Virus を無効にするには、次の手順を実行します。

- 1. [ツール] > [ライセンス] > [Faronics Anti-Virus ライセンス] を選択します。
- 2. [Deep Freeze コンソールを使って Faronics Anti-Virus を管理する] チェックボックスを選択解除します。



- 3. 「閉じる〕をクリックします。
- 4. Enterprise コンソールを再起動して、設定を有効にします。



## Deep Freeze コマンド ライン コントロール

この章では Deep Freeze のコマンドの使用方法について説明します。

#### トピック

Deep Freeze コマンド ライン コントロール (DFC.EXE) DFC コマンド ラインの構文 Faronics Anti-Virus コマンドラインの構文



## Deep Freeze コマンド ライン コントロール (DFC.EXE)

ネットワーク管理者が Deep Freeze の コマンド ライン コントロール (DFC) を使うことで Deep Freeze クライアント管理に、より柔軟性を持たせることができます。DFC は、他社のエンタープライズ管理ツールおよび / または中央管理ソリューションと組み合わせてお使いいただけます。組み合わせることにより、管理者は要求に応じて迅速かつ臨機応変にクライアントの更新ができます。

DFC は独立したアプリケーションではありません。DFC は、一般的な単発のログインスクリプトなどのスクリプト ファイルを実行できるソリューションとシームレスに連携します。

DFC にはコマンド ラインを実行するためのパスワードが必要です。OTP を使用できません。

パラメータのない DFC を呼び出してすべてのコマンドを表示します。

ファイルは次の場所にコピーされます。(32-bit)

<WINDOWS>\system32\DFC.exe

ファイルは次の場所にコピーされます。(64-bit) <WINDOWS>\syswow64\DFC.exe

#### DFC 戻り値

DFC コマンドが完了すると、DFC は次の値を返します。

構文	説明
0	論理式の結果を返すコマンドの場合、成功または論理式不正
1	論理式成立
2 ERROR	ユーザに管理者の権利がない
3 ERROR	DFC コマンドはこのインストールで有効でない
4 ERROR	無効なコマンド
5 - * ERROR	コマンド実行の内部エラー



## DFC コマンド ラインの構文



Deep Freeze には最長 63 文字のパスワード制限があります。それより長いパスワードを入力すると、コマンドが実行されません。

構文	説明	
DFC password/BOOTTHAWED	クライアントを非保護で再起動します。保護がオ ンになっているクライアントにのみ有効です	
DFC password/THAWNEXTBOOT	クライアントが次回、非保護状態で起動する設定 です。保護がオンになっているクライアントでの み使え、再起動を強制するわけではありません	
DFC password/BOOTFROZEN	クライアントを保護で再起動します。非保護がオ ンになっているクライアントにのみ有効です	
DFC password/FREEZENEXTBOOT	クライアントが次回保護状態で起動する設定で す。非保護がオンになっているクライアントでの み使え、再起動を強制するわけではありません	
DFC get /ISFROZEN	クライアントが保護されているかどうかを問い合わせます。非保護状態であればエラー レベル 0 を返します。保護状態であれば 1 を返します。	
DFC get /CLONE	イメージングのため、クローンフラグを設定しま す。	
DFC password /CFG=[path] depfrz.rdx	Deep Freeze の構成情報を置き換えます。保護、非保護いずれのモードのクライアントでも使えます。パスワードの変更は即有効になります。その他の変更は再起動が必要です。	
DFC get /version	Deep Freeze のバージョン番号を表示します。	
DFC password /UPDATE=[path to installer file]	クライアントを非保護状態で再起動するように設 定し、Deep Freeze 更新をインストールします。	
DFC password /LOCK	クライアントでキーボードとマウスを無効にします。保護または非保護のクライアントで機能し、 再起動は不要です。	
DFC password /UNLOCK	クライアントでキーボードとマウスを無効にします。保護または非保護のクライアントで機能し、 再起動は不要です。	
DFC password /THAWLOCKNEXTBOOT	キーボードやマウスが使えないクライアントを非 保護状態で再起動するよう設定します。保護され たクライアントだけに使えます。	



構文	説明
DFC password/BOOTTHAWEDNOINPUT	キーボードやマウスが使えないクライアントを非 保護状態で再起動します。保護されたクライアン トだけに使えます。
	ライセンスのステイタスと有効期限(ある場合) を表示します。ライセンスの別の可能な種類と関 連する戻り値は次のとおりです。
DDG mah /LIGDNGDGDDDDG	111: ライセンスなし – Deep Freeze はライセンス 許諾されておらず、インストールから 30 日間に 限り <i>評価</i> モードで動作します。
DFC get /LICENSESTATUS	112: 評価版 – 有効期限の決まった評価版としてライセンス許諾されています。
	113: ライセンス – 有効期限なしでライセンス許諾 されています。
	114: 有効期限切れ – 評価期間の有効期限が終了 しました。
	ライセンスのステイタスと有効期限(ある場合) を表示します。ライセンスの別の可能な種類と関 連する戻り値は次のとおりです。
	111: なし ( ライセンスなし ) – Deep Freeze はライセンス許諾されておらず、インストールから 30日間に限り <i>評価</i> モードで動作します。
DFC get /LICENSETYPE	112: 評価版 – 有効期限の決まった評価版として ライセンス許諾されています。
	113: 標準 ( ライセンス ) - 有効期限なしでライセンス許諾されています。
	114: 再販禁止 – 有効期限なしでライセンス許諾されています。
	ライセンスキーを変更します。
	<i>password</i> は、Deep Freeze アドミニストレータ のパスワードです。
DFC password	<i>licensekey</i> は、Deep Freeze のライセンスキーです。
/LICENSE=licensekey	エラーがあれば、次のエラー コードが表示されま す。
	101: ライセンス キーが 無効です。
	102: 指定されたライセンス キーは期限切れです。
DFC password /ACTIVATE	Faronics License Activation Server をチェックした後にワークステーションをアクティベートします。



構文	説明
DFC get /ACTIVATION	Deep Freeze ライセンスのアクティベート ステータスを表示次の値が表示されます:0: 保留中のアクティベート1: 有効2: 認証済み3: 無効4: 不正
DFC password /WU [/UNLOCK] [/NOMSG   /NOMESSAGE] [/THAW]	Windows の更新プログラムがダウンロードされ、ワークステーション上にインストールされます。 [/ UNLOCK] Windows Update の中にキーボードとマウスを有効にするには、オプションのパラメータです。 [/ NOMSG / NOMESSAGE】 Windows Update 中DeepFreeze から、すべての情報 / 警告メッセージを抑制するオプションのパラメータです。 [/ THAW】 Windows アップデートが完了した後に解凍した状態にマシンを返すようにするオプションのパラメータです。
DFC password /ENDTASK	進行中のワークステーションタスクを終了し、 Frozen 状態で再起動します。バッチファイルタ スクおよび Thawed Period タスクが直ちに終了 します。Windows Update タスクが完了しまし た。
DFC password /ENDTASK [/SHUTDOWN]	進行中のワークステーションタスクを終了し、 Frozen 状態で再起動します。バッチファイルタ スクおよび Thawed Period タスクが直ちに終了 します。Windows Update タスクが完了しまし た。 [/SHUTDOWN] ワークステーションをシャット ダウンするためのオプションのパラメータ。
DFC password /FORMATTHAWSPACE	ワークステーション上のすべての ThawSpace を フォーマットします。ThawSpace 上に保存され ていたデータは永久的に削除されます。
DFC password /DELETETHAWSPACE	ワークステーション上のすべての ThawSpace を 削除します。ThawSpace 上に保存されていた データは永久的に削除されます。



## Faronics Anti-Virus コマンドラインの構文

Faronics Anti-Virus のコマンドを実行するには、次の手順を実行します。

- 1. ワークステーションで、コマンドプロンプトから *< システムディレクトリ* >:\Program Files\Faronics\Faronics Anti-Virus Enterpriseを開き
- 2. AVECLI/[Command] と入力します。

次のコマンドがあります。

構文	説明
definitionversion	ウイルス定義のバージョンを表示します。
scanengineversion	スキャンエンジンのバージョンを表示します。
updatedefs	ウイルス定義を更新して適用します。
fixnow	最新のウィルス定義をダウンロードします。アクティブ保護と電子メール保護を有効にします。デフォルトのディープスキャンを実行します。
scanquick	クイックスキャンを開始します。
scandeep	ディープスキャンを開始します。
enableap	アクティブ保護を有効にします。
applydefs [path to definitions]	保存された場所から定義ファイルを適用します。
fixnow /quick	該当する場合は、クイックスキャンを実行します。
setlicense[key]	ライセンスキーを適用します。

#### 構文:

AVECLI/definitionversion



## 付録 A ポートとプロトコル

Deep Freeze アーキテクチャの設定に重要な点は、どのポートを使用するかを知ることです。重要な要素は、ネットワークでどのポートが使用されているかを知ることであり、それらと競合しないポートを使用することです。デフォルトのポート 7725 は Deep Freeze に正式に登録されています。

次の3つのコンポーネントが Deep Freeze アーキテクチャを構成します。

- クライアント(シードがインストールされている)
- ・ リモート コンソール (ローカル サービスの有効化)
- コンソール(リモートコンソールに接続)

クライアントとリモート コンソール接続が同じポートを使用する場合には、異なるコンポーネント間に競合がないようにしてください。



ポートはクライアントを分割するためにも使用できます。ローカル サービスを 3 つのポート (7725、7724、7723) で実行するように設定している場合、Enterprise コンソールでは、各ポートの 3 つの異なるセットのクライアントを確認するために、3 つの異なるポートに接続します。

上の図では、クライアントは、TCP と UDP 両方のプロトコルを使用して、リモート コンソールと通信します。リモート コンソールに接続するコンソールは、TCP プロトコルだけを使用して、リモート コンソールと通信します。ファイアウォール、スイッチ、ルータがブロックしないように、使用しているポートやプロトコルを覚えておくことが重要です。





## 付録 B ネットワーク事例

次の事例は、ローカル サービスやリモート コンソールのいずれかが関与する様々なシナリオを示しています。

- 事例 1 単一サブネット
- 事例2-単一ローカルサービス上の複数サブネット
- 事例 3 複数のポート、コンソールへのリモートアクセス
- 事例 4 複数サブネットの複数ローカル サービス

各事例は、異なる Deep Freeze コンポーネントが別のネットワーク環境でどのように相互接続するかを示します。



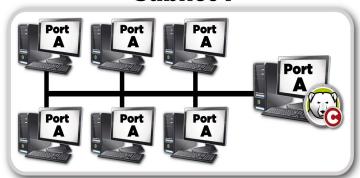
注意:次の事例では、クライアントマシンには、Deep Freeze クライアントあるいはクライアント用シードのいずれかがインストールされています。どちらのインストールも、コンソール/リモートコンソールと通信する通信コンポーネントを含んでいます。クライアントインストールとクライアント用シードのインストールの違いは、クライアントインストールは実際に Deep Freeze をインストールしますが、シードは通信コンポーネントだけです。



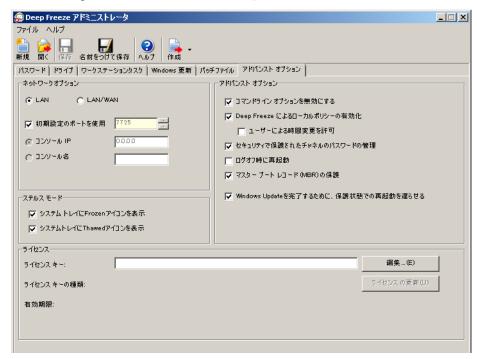
## 事例 1 - 単一サブネット

この環境では、すべてのクライアントマシンは、コンソールマシンとして同じサブネットに含められています。この環境は、リモートコントロールされるコンソールを使用できますが、必要ではありません。この例では、リモートコンソールを使用していません。これは、最も簡単なネットワーク環境です。また、構成も最も容易です。次の図は、ネットワークトポロジーを示しています。

### **Subnet 1**



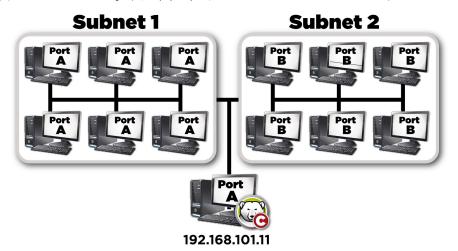
コンピュータ アイコンで表したクライアント マシンは、Deep Freeze Enterprise コンソール マシンと同じサブネットにあり、Deep Freeze コンソール アイコンにより表されています。このシナリオでは、クライアントはポート A を使用し、コンソールには同じポートにローカル サービス接続が設定されています。このポートは、クライアント用インストール ファイルまたはクライアント用シードを作成する前に、[アドバンストオプション] タブで設定されています。



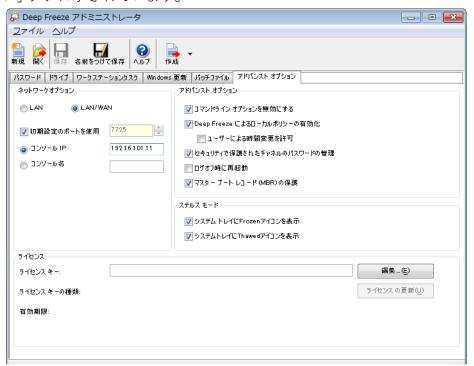


## 事例2-単一ローカルサービス上の複数サブネット

この環境では、クライアントは、複数のサブネット全体にあります。まだ、コンソールは 1 つだけ使用しています。この環境は、リモート コンソールを使用できますが、必要ではありません。次の図は、ネットワーク トポロジーを示しています。



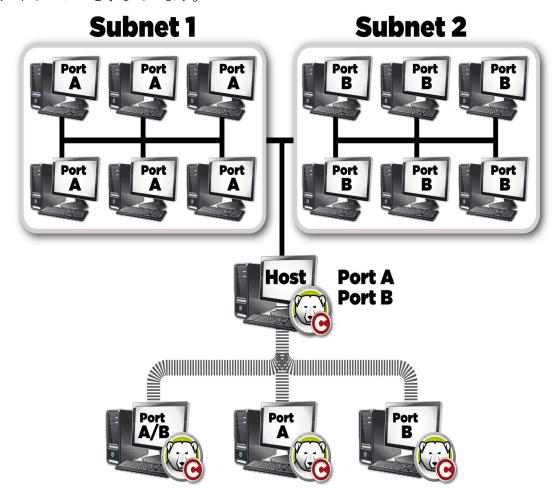
この場合(事例 1- 単一サブネットと同様)、クライアントとコンソールがホストの接続のどちらも同じポートを使用しています。このポートは、クライアント用インストールファイルまたはクライアント用シードを作成する前に、Deep Freeze アドミニストレータの [ アドバンスト オプション ] タブで設定されています。クライアントが認識するために、LAN/WAN 接続を使用するように構成します。LAN/WAN オプションを選択すると、[ コンソール IP] フィールドが表示されます。Enterprise コンソールを実行するマシンの IP を指定します。これらの設定の一例は、次の [ アドバンスト オプション ] タブに示されています。





## 事例3-複数のポート、コンソールへのリモートアクセス

この環境では、クライアントは複数のポートにまたがっています。この場合、複数のコンソールが使用されています。アドミニストレータ(ホスト)が接続情報を提供するローカル サービスを使用して複数のコンソールに接続します。次の図は、ネットワークトポロジーを示しています。



このシナリオでは、ローカル サービスを使用してホストが接続を設定しています。上の図を見ると、その他の3つのコンソールは、クライアントを認識するためにポートに従ってホストに接続しています。コンソールからホストが見える限り、コンソールは個別のサブネットの一部である必要はありません。

詳しく言えば、ポート A/B を通じて接続しているコンソールからは、ホスト コンソールおよびポート A と B に割り当てられた個別のクライアントが見えます。ポート B を通じて接続されたその他のコンソールからは、ホストとポート B に割り当てられたクライアントしか見えません。



### 事例 4 – 複数サブネットの複数ローカル サービス

この事例では、2つの場所があります。

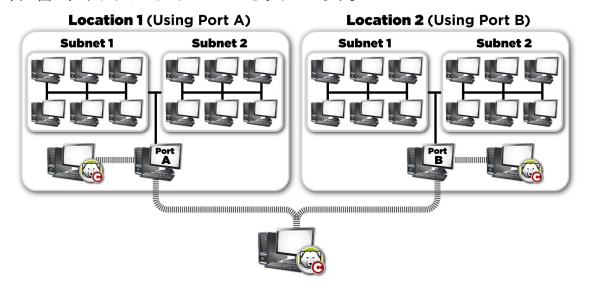
次のリストは、この特定事例に関する想定事項です。

- お互いの場所は離れていて、接続は最小限です。
- 各場所にはネットワーク管理者がいて、その場所の Deep Freeze の管理を担当します。
- どちらの場所も、第3の場所からの管理が必要です。

この事例では、リモート コンソールは各場所に設定され、ローカル サービスが使用されています。

- 場所 1 (キャンパスのコンピュータ ラボ) はポート A を使用してコンソールがホストのクライアントおよび接続と交信します。この学校の図書館のコンピュータはポート B を使用し、技術サポート部門のコンソールはラボと図書館コンソールの両方がホストの接続を使用します。
- クライアントと直接交信してないコンソールのローカル サービスをオフにする必要があります。

次の図は、ネットワークトポロジーを示しています。



この設定の利点は、1 の場所のクライアントから送信されたすべてのパケットがその場所にとどまることです。パケットの通信距離が短くなればなるほど、パケット障害のチャンスは減少します。

ラボの管理者は同じ場所 1 のローカル サービスに接続できますが、図書館のローカルサービスには接続できません。この理由は、ラボの管理者は図書館のローカル サービスにアクセスするパスワードを知らないからです。同じことは図書館の管理者にも言えます。技術サポートが両方のローカル サービス(ラボと図書館)にアクセスするパスワードを知っていれば、すべてのクライアントを管理するため両方の場所のローカルサービスは接続を行えます。





## 付録 C リモート コンソール接続のトラブルシューティング

#### コンソールにクライアントがない

クライアントがコンソールに表示されない一般的な理由には次のような理由があります。

1. コンソールとクライアントに正しいネットワーク設定がありません。

コンソールが1つのポートで実行するように設定され、クライアントが1のポートを使用している場合、お互いを認識できません。また、クライアントが1 LAN/WANに構成されていれば、1 P は、コンソールを実行しているマシンの1 P に等しくなければなりません。

初期設定の LAN 設定は、クライアントを実行しているすべてのマシンとコンソールが同じサブネットにある限り、機能します。ただし、VLAN を実行中、あるいは、クライアントのあるサブネットがいくつかある場合、クライアントのインストールは、LAN/WAN 設定で実行するように構成する必要があります。

2. ネットワークの何かがコンソールとクライアント間で使用しているポートをブロックしています。

ping を使用して接続をチェックします。クライアントからホストへのルートが見つからないので、コンソール / リモート コンソールへパケットを送信できません。コンソール / リモート コンソールの IP を ping しても、機能しないように思われます。この問題を解決するには、2 つのマシンがお互いに接続できることを確認します。

ネットワーク上のサーバ、ルータ、スイッチがポートを通過することができなければ、クライアントは認識されません。初期設定で、7725 は使用中のポートです。

3. クライアントが、コンソールとは別のカスタマイズ コードで作成されました。

アドミニストレータを最初に実行すると、カスタマイズ コードが要求されます。このコードは、ソフトウェアを暗号化するので非常に重要です。つまり、作成されるクライアントはすべて、このカスタマイズ コードで暗号化されます。コンソールが別のカスタマイズ コードでインストールされた別のアドミニストレータを使用して作成された場合、最初のコードで作成されたクライアントを認識できません。クライアントとコンソールは、全く同じカスタマイズ コードを使用してインストールされたアドミニストレータで作成する必要があります。



#### コンソールの起動時にポートが使用中のエラー

コンソールを起動しようとした場合に、[コンソールを起動できません:ポートは使用中]というエラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージが表示される場合、いくつかの理由があります。

1. コンソールまたは同じクライアントの同じポートでインストールされた Deep Freeze クライアントあるいはクライアント用シードがあります。

インストールされた Deep Freeze がステルス モードになっている可能性があります (アイコンはシステムトレイに表示されません)。シードがアイコンを表示しません。これを確認する最適のテストは、クライアントコンピュータでクライアント用インストール ファイルを実行することです。[アンインストール] オプションが表示されれば、クライアント用インストール ファイルまたはクライアント用シードがインストールされているので、アンインストールできます。[アンインストール] オプションが表示されなければ、クライアント用インストール ファイルまたはクライアント用シードはインストールされていません。

まずローカル サービスをオフにし、その後リモート アクセスが可能なコンソール に接続するのが最良のソリューションです。

- 2. 別のプログラムあるいはサービスがこのマシンでそのポートを使用しています。 この場合、問題のマシンでポート スニファを実行して、どのポートが空いているか を確認できます。Web にはこの作業を実施するツールがいくつかあります。 Windows の] アプリケーションでも、Deep Freeze が使用しているポートが既に使 用中であるかどうかが示されます。
- 3. ネットワーク ケーブルが接続されていません。 このメッセージは、マシンにネットワーク接続がない場合に発生します。

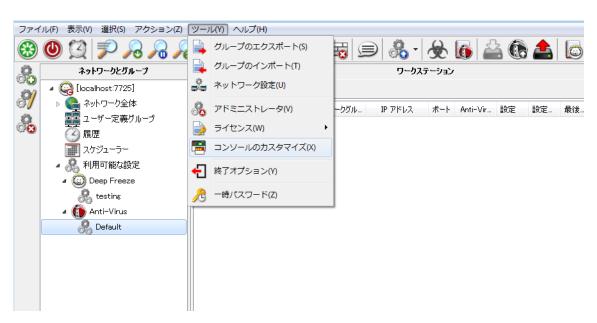


# 付録 D カスタマイズされた Deep Freeze Enterprise コンソールの作成

Deep Freeze Enterprise コンソールには、機能制限された新規の Enterprise コンソールを作成する機能があります。カスタマイズされた制限付きコンソールを組織内で配布して、ある一定のユーザが必要なタスクを実行することができます。ただし、Enterprise コンソールの完全な機能にはアクセスできません。

この例では、先生またはコンピュータラボのインストラクターに配布する制限付きコンソールを作成します。このシナリオでは、先生はマシンを再起動し、要求に応じてキーボードとマウスをロックし、生徒にメッセージを送信できるようにします。ただし、非保護状態へのマシンの起動、Deep Freeze のアンインストール、またはその他のIT に特化したタスクの実行などはできないようにします。

「ツール] > [Console Customizer] を選択して、Console Customizer を起動します。



[Console functions] > [有効化] は選択したままにしておきます。これにより、新しいコンソールを別のクライアントに移動した場合、そのクライアントで一時パスワードの入力が必要となります。お使いの環境でこのセキュリティ対策が必要でない場合は、このオプションを選択しないでください。

どのような状況であっても、先生が非保護モードでクライアントを起動できないようにするために、[コンソール機能]>[一時パスワード]は選択されていません。先生が非保護モードでコンピュータを再起動すると、生徒は起動後も維持される不必要なソフトウェアをインストールする可能性があります。

先生から生徒へのメッセージの送信、コンピュータのシャットダウン、再起動、ウェイクができるように、[ クライアント コマンド ] のすべてのオプションは選択したままにしておきます。

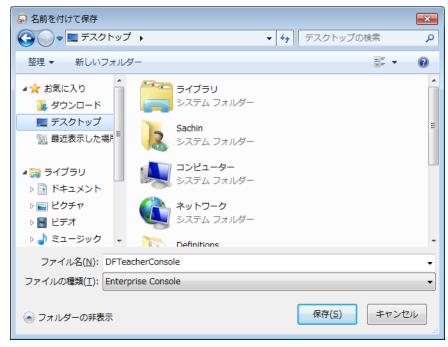


[Deep Freeze コマンド]の[ロック解除]、[ロック]、[保護モード起動]オプションは選択したままにしておきます。これにより、先生は必要に応じて生徒のキーボードとマウスをロック(またはロック解除)し、コンピュータを保護状態で再起動することができます(IT 担当者により間違ってコンピュータが非保護状態にされている場合などのため)。その他のオプションを選択解除することで、先生がコンピュータを恒久的に変更できないようにします。

最後に、[ クライアント インストール / アンインストール コマンド ] および [ スケジューラー コマンド ] のオプションの使用を防ぐため、すべて選択解除します。



すべてのオプションを選択したら、新しい Enterprise コンソールを保存するために、[ 名前をつけて保存]をクリックします。標準の[名前をつけて保存]ダイアログが表示 されます。



新しい制限付き Enterprise コンソールを保存し、必要なユーザに配布します。



## 付録 E Deep Freeze アクション ファイル – RDC 例

## Deep Freeze アクション ファイル

Deep Freeze アクション ファイルは、管理者が Deep Freeze Enterprise コンソールに 追加機能を定義できるようにする XML ファイルです。アクション ファイルでは、外 部バッチ ファイルを呼び出す方法、およびバッチ ファイルやスクリプトに情報 (マシンの IP アドレス、コンピュータ名など)を渡す方法を定義します。

アクション ファイルは外部のプログラムまたはスクリプトを呼び出すだけです。そのため、コマンドラインから呼び出せるスクリプト言語ならどれでも使用できます。

#### アクション ファイルの例

これから使用する Deep Freeze アクション ファイルの構造は次のとおりです。 DFEntConsoleCustomActions.xml は、C:\Program Files\Faronics\Deep Freeze Enterprise にあります。ファイルは、次に説明する追加のアクションなど を加えるために編集できます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!--Deep Freeze Default Custom Action file-->
<CUSTOMDEFINEDACTIONS>
 <ACTION1>
  <CAPTION>
   <ENGLISH>Control with RDC</ENGLISH>
   <GERMAN>Control with RDC German</GERMAN>
   <JAPANESE>Control with RDC Japanese
   <SPANISH>Control with RDC Spanish</SPANISH>
   <FRENCH>Control with RDC French</FRENCH>
   <CHINESE>Control with RDC Chinese</CHINESE>
</CAPTION>
  <FILEMENU>Y</FILEMENU>
  <POPUPMENU>Y</POPUPMENU>
  <SILENT>Y</SILENT>
  <SUBITEMS/>
  <PARAMS/>
  <SYNC/>
  <LOG/>
  <EXECUTE>C:\Windows\system32\mstsc.exe /v:%%WKSNAME%% /f</EXECUTE>
  <WORKDIR>C:\Windows\system32\</WORKDIR>
```



上記の例で、カスタム アクション ファイルには、コンソール コンピュータで Remote Desktop を実行するためのコマンドが含まれ、パラメータ %%WKSNAME%% で指定した リモート コンピュータに接続します。

*DFEntConsoleCustomActions.xml*ファイルには次の3つの例が含まれています。

- RDC 管理
- リモート実行
- MSI ファイルの転送とインストール

上記例の使用の詳細は、カスタム アクションの設定 の項を参照してください。必要に応じて、DFEntConsoleCustomActions.xml ファイルを編集できます。

## Deep Freeze アクション ファイルの構造

次の XML スキーマは、ユーザが利用できるカスタム定義アクションの概略を示しています。複数の XML ファイルは、必要なコマンド数に基づいて保存することができます。各ファイルはコンソール フォルダに保存し、読み取り専用に設定する必要があります。

変更を加えたら、Deep Freeze コンソールを再起動して、その変更を有効にします。

パラメータ	使用方法		
<pre><?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?></pre>			
<customdefinedactions></customdefinedactions>			
<caption></caption>	ファイル メニューまたはサブメニューに表示され るテキスト		
<pre><english>Caption</english></pre>	異なる言語によるテキスト		
<pre><german>Caption</german></pre>	異なる言語によるテキスト		
<pre><japanese>Caption</japanese></pre>	異なる言語によるテキスト		
<spanish>Caption</spanish>	異なる言語によるテキスト		
<pre><french>Caption</french></pre>	異なる言語によるテキスト		
<filemenu>y</filemenu>	このアクションがファイル メニューに含まれるか どうかを定義		
<popupmenu>y</popupmenu>	このアクションが右クリックして表示されるポッ プアップ メニューに含まれるかどうかを定義		
<silent>y</silent>	ユーザに確認を求めるかどうかを定義		



パラメータ	使用方法	
<subitems></subitems>	サブ項目で、この項目の子項目を定義	
	サブ項目が定義されている場合、この項目のアク ションが無視される	
<sync>y</sync>	コマンドが同期的に実行されるか非同期的に実行 されるかを指定	
<params></params>	このアクションの選択により、ユーザはカスタム パラメータの入力が求められる	
<password></password>	パラメータの名前	
<var>%PARAM1%</var>	EXECUTE で使用される変数の名前	
<pre><english>USERNAME Param (ENGLISH) </english></pre>	異なる言語によるテキスト	
<pre><german>USERNAME Param (GERMAN)</german></pre>	異なる言語によるテキスト	
<pre><japanese>USERNAME Param (JAPANESE) </japanese></pre>	異なる言語によるテキスト	
<pre><spanish>USERNAME Param (SPANISH) </spanish></pre>	異なる言語によるテキスト	
<pre><french>USERNAME Param (FRENCH) </french></pre>	異なる言語によるテキスト	
<log></log>	ログ ファイルの動作を定義	
<append>y</append>	ログ ファイルが追加されるか新規作成されるかを 定義	
<pre></pre>	ファイル名を定義	
<pre><execute>c:\windows\vpn.exe %%IP%% %USERNAME% %PASSWORD% %%WKSNAME%%</execute></pre>	実行されるコマンドを定義。ここではパラメータ および / またはコンソール項目が使用できる	
<workdir>c:\windows</workdir>	作業ディレクトリを定義	



## コンソールのパラメータ

次のコンソール パラメータは、Enterprise コンソールを通じて、実行されるアプリケーションまたはスクリプトに渡すことができます。

パラメータ	使用方法
%%WKSNAME%%	ワークステーション名
%%DOMAIN%%	ワークステーション ドメイン
%%IP%%	ワークステーション IP
%%PORT%%	ワークステーション ポート
%%STATUS%%	ワークステーション ステイタス
%%CFGDATETIME%%	ワークステーションの設定日時
%%MAC%%	ワークステーションの MAC アドレス
%%DFVERSION%%	Deep Freeze ワークステーション バージョン
%%CFGNAME%%	ワークステーションの設定の名前
%%LOGGEDONUSER%%	ワークステーションのログインユーザー
%%DFINSTALLATIONFILE%%	ワークステーションのインストールファイル
%%LICENSESTATUS%%	ワークステーションのライセンスステータス
%%LICENSEEXPIRYDATETIME%%	ワークステーションのライセンス有効期限
%%AVSTATUS%%	ワークステーションの Anti-Virus ステータス
%%OSVERSION%%	ワークステーションのオペレーティングシステム バージョン